

Life Guidance

2018

山梨大学 学生生活案内



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI



山梨大学憲章

平成17年10月1日 制定

山梨大学は、個人の尊厳を重んじ、真理の追究と学問の自由を大切にし、多様な文化や価値観を積極的に受け入れます。

また、社会の要求に応えつつ、広い知識と深い専門性を追求し、地域の中核となり、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人材を養成する場となることを表明します。

この憲章に基づいて、山梨大学の役員・職員・学生は、志を同じくするすべての人々と協力し、以下の目標の達成を目指します。

【未来世代にも配慮した教育研究】

山梨大学は、現代世代だけでなく、未来世代の福祉と環境にも配慮した視点に基づいて、教育研究を行います。

【諸学の融合の推進】

山梨大学は、専門領域を超えて協力し合い、諸学の柔軟な融合による新しい学問分野を創設し、さまざまな課題の解決に努めます。

【世界的研究拠点の形成】

山梨大学は、国際的視野を持って、問題の発見と解決に取り組み、世界の人材が集う研究拠点を構築し、学術及び科学技術の発展に貢献します。

【国際社会で活躍する人材の養成】

山梨大学は、市民としての倫理性と自律性を身に付け、専門性をもって、国際社会で活躍できる人材の養成に努めます。

【地域から世界へ】

山梨大学は、地域社会が抱える課題を取り上げ、その解決に地域と協同してあたり、得られた成果を世界に向けて発信します。

【現実社会への還元】

山梨大学は、教育研究の成果が社会に応用され、役立つよう、社会に積極的に還元することに努めます。

【絶えざる改革】

山梨大学は、自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、絶えざる改革を推進します。



国立大学法人
山梨大学

Contents

総合目次

キャンパス案内・キャンパス基礎知識

1

- ◇ 大学年間スケジュール、◇ キャンパス案内図・教室一覧、◇ 学生窓口案内・証明書発行
- ◇ 学生生活基礎知識
- I 学生生活留意事項
 - 1. 学生への学内通知と連絡方法、2. 家族からの学生への連絡、3. 氏名・本籍・現住所等の登録・変更、
 - 4. 休学・復学・退学、5. 懲戒及び除籍、6. 授業料の納入、7. 学生の表彰、8. 拾得物・遺失物
- II 本学で使用する記号
 - 1. 学部・課程・学科等の記号、2. 大学院の記号、3. 専攻科の記号、4. 学籍番号
- III 学生年間行事
- ◇ 学生歌

課外活動支援

27

- I 甲府キャンパス
- II 医学部キャンパス
 - 1. スポーツ施設とその利用方法、2. 学生団体・サークル等の紹介
 - 3. 学生団体・サークル活動に関する届出事項及び留意事項、4. レクリエーション用具等の貸出

経済的支援・福利厚生施設

37

- I 経済的支援
 - 1. 奨学金、2. 授業料の免除等、3. 入学料の免除等、4. 学術奨励金制度、
 - 5. アルバイトの斡旋、6. 学生保険の案内
- II 福利厚生施設
 - 1. 学生会館、2. 学生寄宿舍、3. 厚生会館(山梨大学生生活協同組合)〈甲府キャンパス〉
 - 4. 福利厚生棟 〈医学部キャンパス〉、5. 大学共同利用研修施設

学生相談・学生生活の安全

49

- I 学生相談の案内
 - 学生相談組織の紹介、○ 保健管理センター、○ 学生相談室、○ 人権侵害についての相談員、
 - クラス担当教員等、○ 外国人留学生のための相談
 - カウンセリング・サポート室、○ アクセシビリティ・コミュニケーション支援室、
- II 学生生活の安全
 - 1. 交通事故の防止、2. 犯罪などからの防衛、3. 災害の防止

進路支援・国際交流

63

- I 進路支援
 - 1. 進路支援事業、2. 進路支援体制、3. キャリアアドバイザー制度、
 - 4. キャリアセンターの利用案内、5. 進路資料室(看護学科)の利用案内
- II 国際交流
 - 1. 交流協定の締結状況、2. 海外留学、3. 外国人留学生の受入れ、4. 国際交流センター

環境宣言・構内規制・情報倫理

75

- I 山梨大学環境宣言
- II 構内規制
 - 1. 構内交通規制について、2. 構内喫煙規制
- III 情報セキュリティポリシーの遵守

学内附属施設等・学内共同教育研究施設

87

教員名簿

117



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI





キャンパス案内 キャンパス基礎知識

- ◎大学年間スケジュール
- ◎キャンパス案内図・教室一覧
- ◎学生窓口案内・証明書発行
- ◎学生生活基礎知識



キャンパス案内・キャンパス基礎知識 目次

◇ 大学年間スケジュール	3
◇ キャンパス案内図・教室一覧	
○甲府西キャンパス	4
○甲府東キャンパス	6
○医学部キャンパス	8
◇ 学生窓口案内	
I 窓口電話番号一覧	10
II 窓口業務案内・証明書発行	
1. 全学生を対象とする窓口	11
2. 所属別学生窓口	12
3. 教室使用に関する窓口	14
4. 各種証明書の発行窓口	15
◇ 学生生活基礎知識	
I 学生生活留意事項	
1. 学生への学内通知と連絡方法について	17
2. 家族等からの学生への連絡について	17
3. 氏名・本籍・現住所等の登録・変更	17
4. 休学・復学・退学	18
5. 懲戒及び除籍	18
6. 授業料の納入	19
7. 学生の表彰	20
8. 拾得物・遺失物	20
II 本学で使用する記号	
1. 学部・課程・学科等の記号	21
2. 大学院の記号	22
3. 専攻科の記号	22
4. 学籍番号	23
III 学生年間行事	24
学生歌 ○夢に向かって	25
○明日の翼ひろげ	26

大学年間スケジュール

《前期：4月～9月》

4月1日 前期開始

4月上旬 入学式

ガイダンス等

定期健康診断

前期授業開始



7月下旬 前期授業終了

8月上旬 ～ 9月下旬

夏季休業

9月下旬 秋季卒業式・修了式

9月30日 前期終了

《後期：10月～3月》

10月1日 開学記念日
後期開始

10月上旬 秋季入学式(大学院)
後期授業開始

10月下旬 ～ 11月上旬
大学祭

12月下旬 ～ 1月上旬
冬季休業



2月上旬 後期授業終了

2月上旬 ～ 3月31日

春季休業

3月下旬 卒業式・修了式

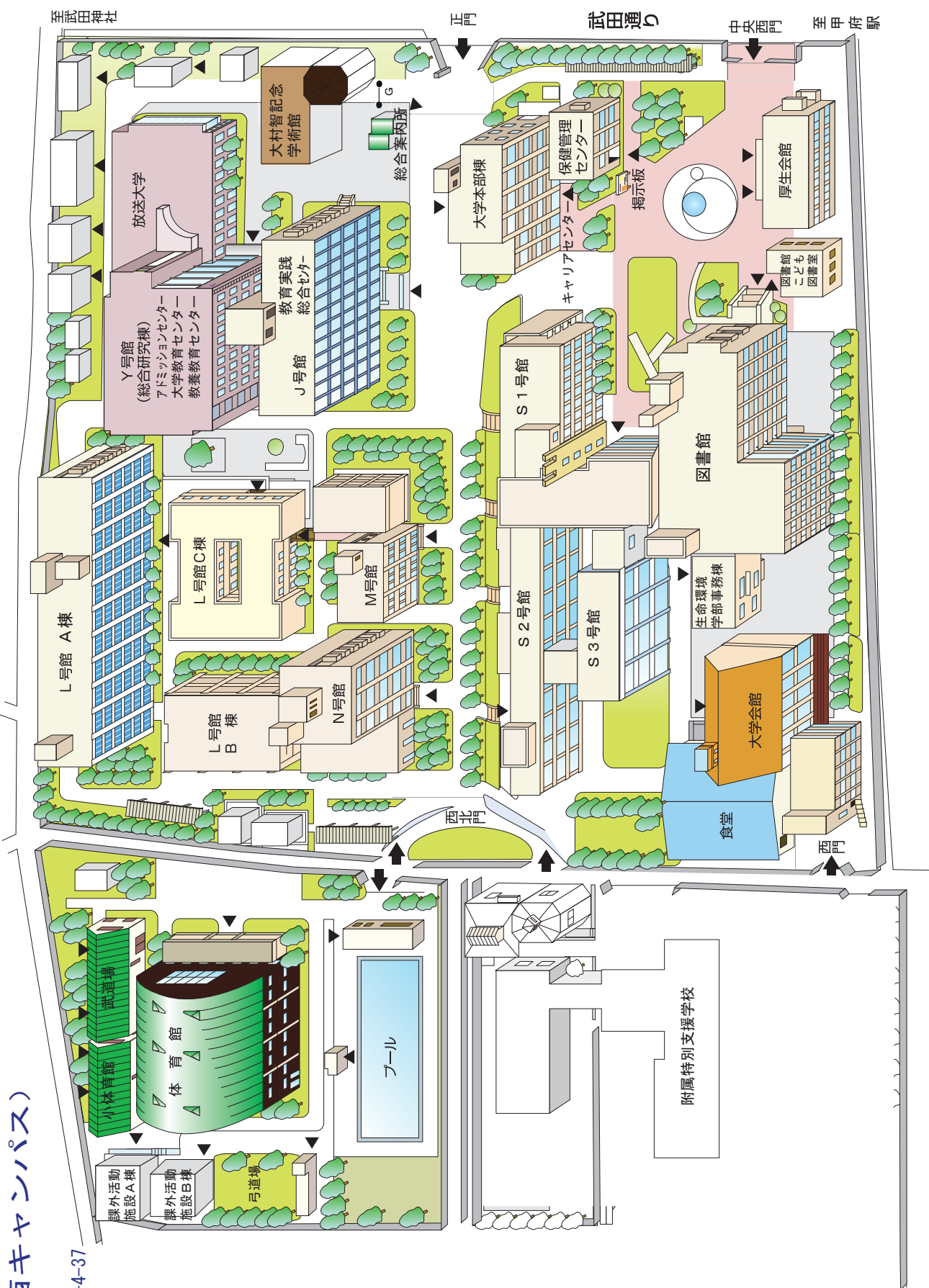
3月31日 後期終了

- 年間スケジュールの**日程・期日は年度ごとに異なります**。毎年度本学のホームページ「在学生の方・修学案内・年間スケジュール」(<http://www.yamanashi.ac.jp/campuslife/78>)に掲載されますので、年度ごとに確認してください。

キャンパス案内図

(甲府西キャンパス)

〒400-8510
甲府市武田4-4-37



甲府西キャンパス 教室一覧

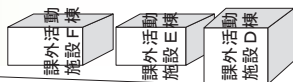
建物名称	階	教室名	建物名称	階	教室名
J号館	3階	J-321	N号館	1階	N-11 N-12
				2階	N-21 N-24
L号館C棟	1階	LC-11 LC-12 LC-13 LC-14		3階	N-32 N-33
		LC-15 LC-16 LC-17		4階	N-41 N-42
	2階	LC-21 LC-22 LC-23 LC-24 LC-25 LC-26 LC-27	S1号館	1階	S1-11 S1-12 S1-13 S1-14
M号館	1階	M-11 M-12	Y号館 (総合研究棟)	2階	S1-21 S1-22
				1階	Y-11 Y-12 Y-13 Y-14 Y-15
				3階	Y-31 Y-32 Y-33

キャンパス案内図

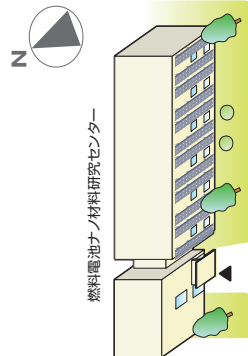
(甲府東キャンパス)



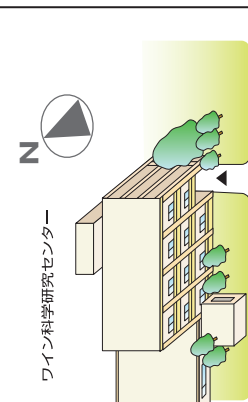
東グラウンド



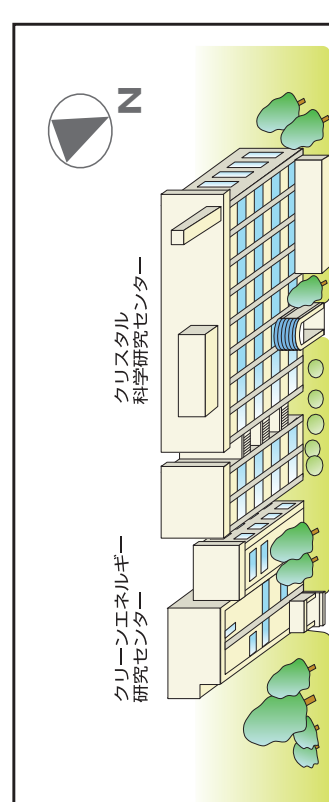
甲府キャンパス以外の場所にある本学の施設



燃料電池ナノ材料研究センター

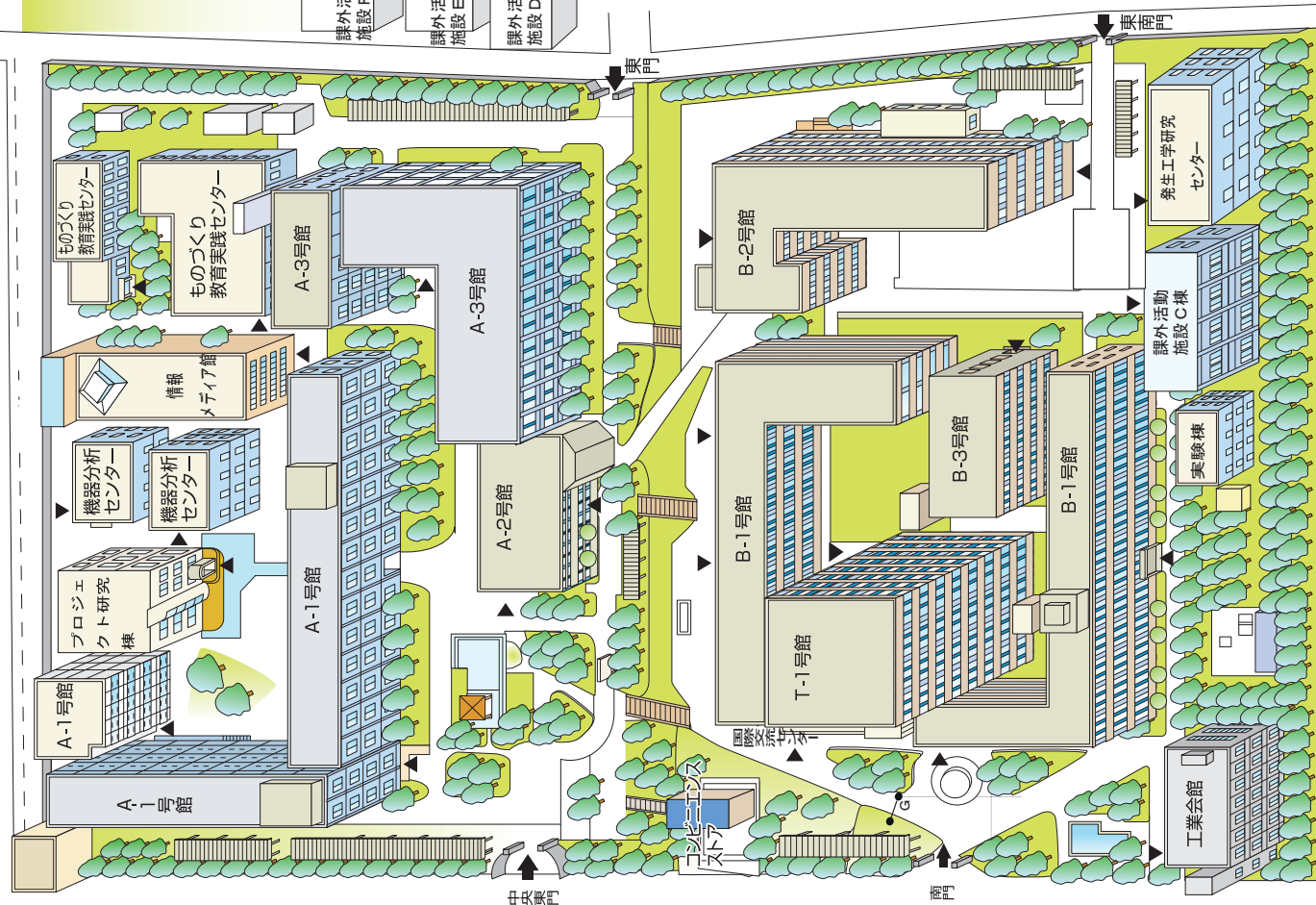


ワイン科学研究センター



クリスタル
科学研究センター

クリーンエネルギー
研究センター



甲府東キャンパス 教室一覧

建物名称	階	教室名	建物名称	階	教室名
A-1号館	1階	A1-11	B-3号館	2階	B3-21 B3-22
	3階	A1-31	T-1号館	1階	T1-11 T1-12
	4階	A1-41		2階	T1-21 T1-22
A-2号館	1階	A2-11 A2-12 (アクティブラーニング室)		3階	T1-31 T1-32
	2階	A2-21	情報メディア館	2階	第1実習室 第2実習室
B-2号館	1階	B2-11			第3実習室
	2階	B2-21 B2-22		3階	第4実習室 第5実習室
	3階	B2-31 B2-32	工業会館	3階	工業会館3階会議室 (アクティブラーニング室)
	4階	B2-41 B2-42			

(医学部キャンパス)

中央市下河東1110



医学部キャンパス 教室一覧

建物名称	階	教室名
講義棟	1 階	講義室 (1103) ・ (1104) ・ (1105) チュートリアル室①～⑯
	2 階	物理学実習室 (1203) 講義室 (1205) 化学実習室 (1204) チュートリアル室⑯・⑰ 学生自習室 自学自習室① (1218)
	3 階	生物実習室 (1302) 自学自習室② (1316)
実習棟	1 階	解剖実習室 (1116)
	2 階	生理・薬理実習室 (1219) 組織・病理実習室 (1220)
	3 階	生化学・衛生学実習室 (1315) 微生物・寄生虫・免疫・法医学実習室 (1316)
看護学科 教育研究棟	1 階	講義室 (8107) ・ (8109) 演習室1 (8110) 演習室2 (8111) 演習室3 (8112) 演習室4 (8113) 演習室5 (8114) 演習室6 (8115) 演習室7 (8116) 演習室8 (8117) 演習室9 (8118)
	2 階	講義室 (8203) ・ (8204) 情報処理室 (8202) 生命情報実習室 I (8207) 生命情報実習室 II (8211)
	3 階	実習講義室 (8309) 基礎・成人看護学実習室 (8302) 健康科学実験室 (8310)
	4 階	母性・小児看護学実習室 (8402) 栄養調理実習室 (8409) 人間工学実験室 (8410) 環境科学実験室 (8413)
	5 階	地域・老人看護学実習室 (8502) 行動科学実験室 (8511) ・ (8512) ・ (8513) 臨床看護学実験室 (8518) 演習室10 (8514) 演習室11 (8515)
臨床講義棟		大講義室 小講義室

I 窓口電話番号一覧

全学生対象窓口

教 務 課	甲府西キャンパス	Y号館 2 階	055 (220) 8043
学生支援課			055 (220) 8052
入 試 課			055 (220) 8046
進路支援室		大学本部棟 1 階	055 (220) 8739
国際企画課	甲府東キャンパス	B-1 号館 2 階	055 (220) 8047

所属学部等別学生窓口

教育学域支援課 教務グループ	甲府西キャンパス	J号館 1 階	055 (220) 8729
生命環境学域支援課 教務グループ		生命環境学部 事務棟 1 階	055 (220) 8807
教 務 課 (医学部 1 年生)		Y号館 2 階	055 (220) 8043
工学域支援課 教務グループ	甲府東キャンパス	A-2 号館 2 階	055 (220) 8734
医学域学務課 学生グループ (医学部 2 年生以上)	医学部キャンパス	医学部 管理棟 1 階	055 (273) 9334

授業料納入窓口

会計課授業料納入窓口	甲府西キャンパス	大学本部棟 2 階	055 (220) 8025
管理課授業料納入窓口	医学部キャンパス	医学部 管理棟 1 階	055 (273) 9239

学生相談に関する問い合わせ先

保 健 管 理 セ ン ター		保健管理センター	055 (220) 8081
学 生 相 談 室 人権侵害についての相談	甲府キャンパス	Y号館2階	055 (220) 8051
	医学部キャンパス	医学部管理棟1階	055 (273) 9346
キャリアセンター（キャリアアドバイザー）		大学本部棟1階	055 (220) 8319
カウンセリング・サポート室		B1号館3階	055 (220) 8565
アクセシビリティ・コミュニケーション支援室		B1号館2階	055 (220) 8706

Ⅱ 窓口業務案内・証明書発行

1. 全学生を対象とする窓口

利用時間 8:30~17:15

学生支援課

- 学生相談に関すること
- 課外活動に関すること
- 福利厚生施設の利用に関すること
- 入学料・授業料の免除に関すること
- 奨学金に関すること
- 事故・事件等に関すること
- 学生寄宿舎に関すること
- 学生保険に関すること
- スポーツ用具等の貸出
- 遺失物・拾得物に関すること

教務課

- 全学共通教育科目に関すること
- 全学共通教育科目を担当する非常勤講師に関すること
- 総合評価（試験等）に関すること
- 退学・休学・復学・再入学等に関すること
- 在学に関する証明書の発行
- 氏名・本籍・現住所等の登録・変更

進路支援室・キャリアセンター

- 進路・就職情報の収集・提供
- 就職関係ガイダンス等の実施
- キャリアアドバイザーによる相談
- キャリア教育の企画・推進

ここに掲載されている窓口は、
甲府キャンパスにあり、
すべての学部生・大学院生等
のための窓口です。



ただし、医学部キャンパス在学学生は、
医学域・学務課窓口を利用してください

入試課

- 大学院入学試験に関すること
- 特別支援教育特別専攻科入学試験に関すること
- 編入学試験に関すること

国際企画課

- 留学生の入国管理手続きに関すること
- 留学生の修学及び生活等に関する相談
- 留学生の奨学金に関すること
- 留学生の宿舎に関すること
- 本学からの海外留学等に関すること

2. 所属別学生窓口

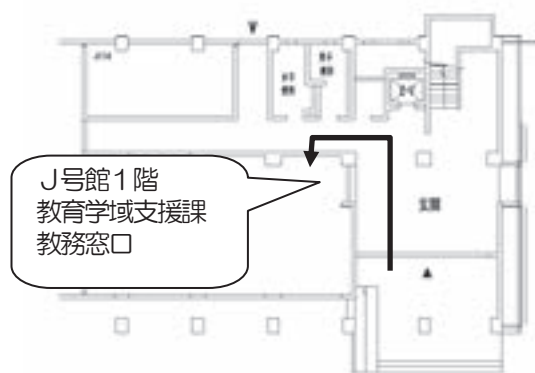
利用時間 8:30~17:15

- 教育学部 1~4年生
- 特別支援教育特別専攻科学生
- 教育学研究科大学院生

教育学域支援課・教務グループ

(甲府西キャンパス・J号館)

- ☐ 履修指導に関する事
- ☐ 履修申告に関する事
- ☐ 成績に関する事
- ☐ 履修成績関係の証明書に関する事
- 教育職員免許状に関する事
- 教育実習に関する事
- 介護体験実習に関する事
- インターンシップに関する事
- 退学・休学・復学・再入学等に関する事



- 工学部 1~4年生
- 医学工学総合教育部大学院生（工学系）
- 医工農学総合教育部大学院生（工学系）

工学域支援課・教務グループ

(甲府東キャンパス・A-2号館)

- ☐ 履修指導に関する事
- ☐ 履修申告に関する事
- ☐ 成績に関する事
- ☐ 履修成績関係の証明書に関する事
- 教育職員免許状に関する事
- インターンシップに関する事
- 退学・休学・復学・再入学等に関する事

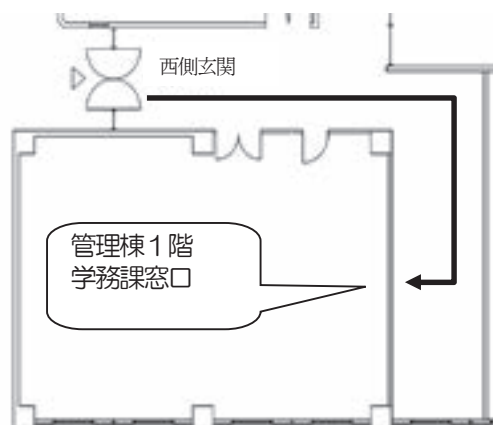


- 医学部2年生以上
- 医学工学総合教育部大学院生（医学系）
- 医工農学総合教育部大学院生（医学系）

医学域学務課

（医学部キャンパス・管理棟）

- 履修指導に関する事
- 履修申告に関する事
- 成績に関する事
- 履修成績関係の証明書に関する事
- 医師・保健師・看護師・助産師の
国家試験に関する事
- インターンシップに関する事
- 臨床実習に関する事
- 看護実習に関する事
- スモールクラスに関する事
- 退学・休学・復学・再入学等に関する事



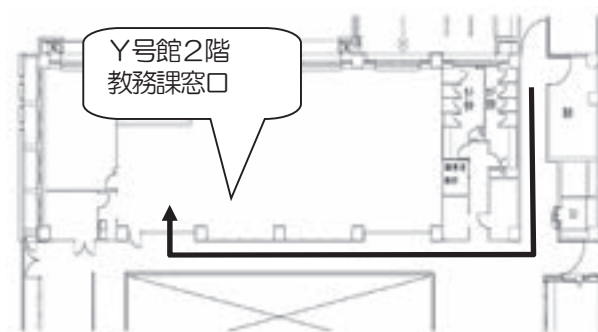
- 医学部1年生

教学支援部・教務課

（甲府西キャンパス・Y号館）

- 履修指導に関する事
- 履修申告に関する事
- 成績に関する事
- 履修成績関係の証明書に関する事

※ 医学部1年生の学部窓口業務は、
「全学窓口」である教学支援部教務課が
行います

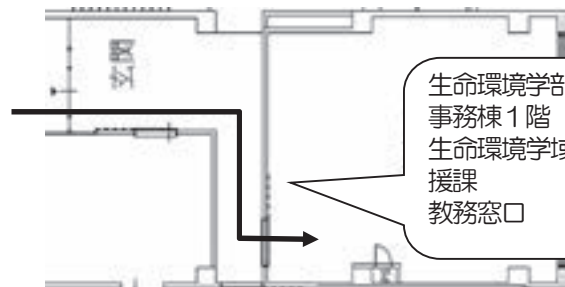


- 生命環境学部 1～4年生
- 医工農学総合教育部大学院生
(生命環境学専攻, 統合応用生命科学
専攻生命農学・生命工学コース)

生命環境学域支援課・教務グループ

(甲府西キャンパス・生命環境学部事務棟)

- 履修指導に関すること
- 履修申告に関すること
- 成績に関すること
- 履修成績関係の証明書に関すること
- 教育職員免許状に関すること
- インターンシップに関すること
- 退学・休学・復学・再入学等に関すること



3. 教室使用に関する窓 口

利用時間 8:30～17:15

以下の教室の使用に関することは、該当の各窓口に確認願います。

窓 口	教 室 名 称
教育学域支援課 教務グループ	L号館C棟、M号館、N号館の教室
工学域支援課 教務グループ	A-1号館、A-2号館、B-2号館、 B-3号館、T-1号館の教室
医学域学務課	医学部の教室
生命環境学域支援課 教務グループ	S1号館の教室
教学支援部・教務課	Y号館の教室

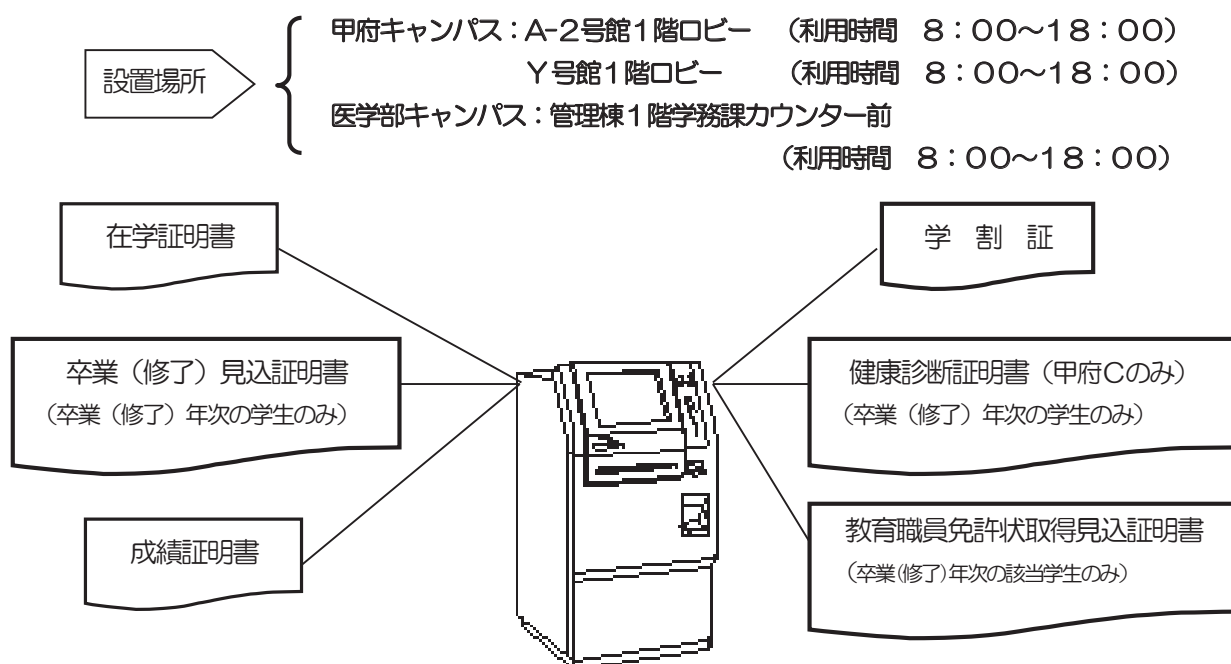
※ 甲府キャンパスの教室を使用したい場合は、希望日の3日前（土日祝日を除く）までに申請が必要です。

※ 音を出す課外活動は、L号館C棟を使用してください。

4. 各種証明書の発行窓口

○各種証明書は、証明書発行機と学生窓口で発行できます。

■証明書発行機により取得できる証明書

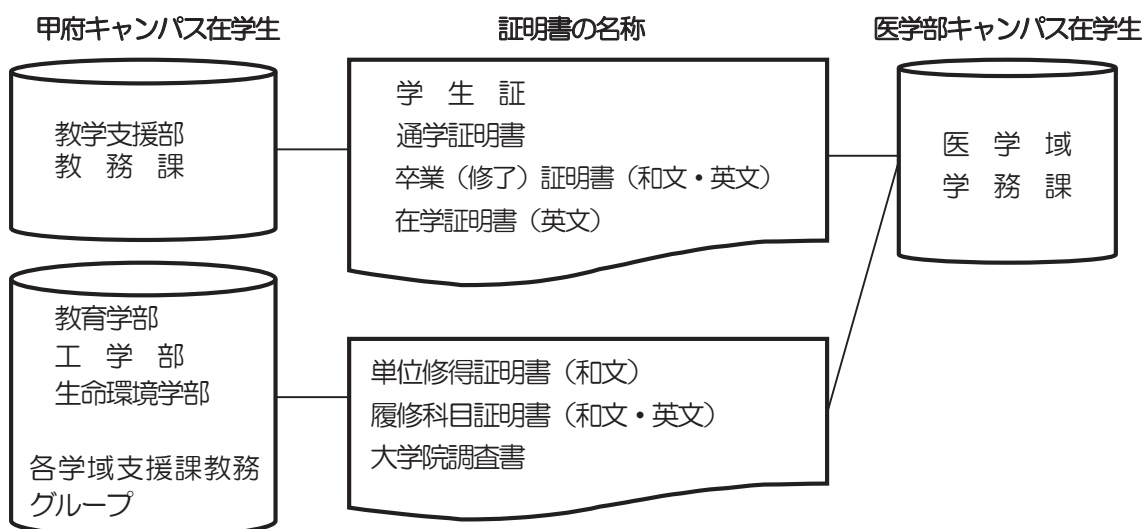


◎ 証明書発行機を利用するためには、学生証が必要です。

◎ 英文証明書は、証明書発行機では取得できません。

■証明書発行機では取得できない証明書及びその発行窓口

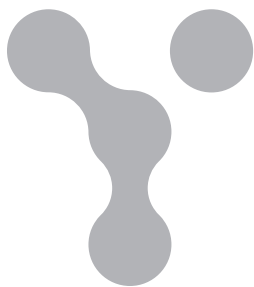
窓口時間＝8：30～17：15



※ 保健管理センターでは、卒業（修了）年次以外の学生の健康診断証明書を発行しています。

※ 現在大学院に在学中で、過去に所属していた学部及び大学院の証明書が必要な場合、平成 30 年6月 1 日申請分から有料になります。（和文証明書：300 円、英文証明書：500 円）

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 5 horizontal dotted lines.

I 学生生活留意事項

入学から卒業まで、これは知っておこう！



1. 学生への学内通知と連絡方法について

学生へのお知らせや休講・時間割変更・奨学金等の情報は、主にキャンパスネットワークサービス（YINS-CNS）により通知しますので、毎日確認するよう心がけてください。これらの情報を見ていなかったために、学籍や成績、経済的なことなどに関して不利益が生じた場合は、すべて自己の責任となりますので、十分留意してください。

なお、YINS-CNSはインターネットに接続されたパソコン等から利用できます。また、甲府キャンパスでは情報処理教室や学内オープン端末から、医学部キャンパスでは講義棟・看護教育研究棟・臨床講堂の玄関ロビー等に設置されたパソコンから利用できます。

【安否確認サービス】

本学では、大地震等の自然災害発生時における学生及び教職員の安否確認を行う手段として、携帯電話等のメールアドレスに安否確認メール等を送信する「安否確認サービス」を導入しています。事前に登録された携帯電話等のメールアドレスへ本学から安否確認や緊急連絡のためのメールを送信します。

※気象警報・特別警報及び公共交通機関途絶に伴う授業の取扱いについての連絡にも利用します。

※携帯電話等のメールアドレスの登録状況をCNSで必ず確認してください。

2. 家族等からの学生への連絡について

- (1) 学生への個人的な連絡（電話の取次、郵便物の受け渡し等）への対応は、原則として一切行いません。ただし、家族であることが確認でき、緊急と判断できる場合は別とします。
- (2) 学生の住所・電話番号等の照会については、親族であっても、その確認が難しい場合又はその理由によっては応じられないこともあります。
また、本学の学生が他の学生の住所・電話番号等を照会することはできません。
(特別な事情であると認められる場合を除く。)

3. 氏名・本籍・現住所等の登録・変更

窓口

甲府キャンパス：教務課
医学部キャンパス：医学域学務課

氏名・本籍・現住所等に変更があった場合、速やかに変更手続きを行ってください。特に氏名については、卒業時の学位記（卒業証書）及びすべての証明書等に使用されますので、就職や教員免許状などの資格取得の際に大きな障害となることがあります。

また、現住所等が正しい連絡先を登録されていない場合は、災害時の安否確認を含む本学からの重要な連絡・通知が届きませんので、必ず変更手続きを行ってください。

【変更方法】

1. 学生本人の現住所、電話番号、携帯電話番号、携帯メールアドレス等の変更
CNSの「連絡先情報変更/Change Contact Information」、または各キャンパスの窓口で変更してください。
2. 上記1以外の学生本人の氏名等、保護者・保証人の現住所等の変更
各キャンパスの窓口で変更してください。

4. 休学・復学・退学

窓口

甲府キャンパス：教務課、各学域支援課教務グループ
医学部キャンパス：医学域学務課

(1) 休 学

病気その他の事由によりやむを得ず2ヶ月以上学習を継続できない場合には、「休学願」を提出し、休学することができます。（休学については、学則に記載されていますのでお読みください。）甲府キャンパス学生（医学部1年生を除く）は休学しようとする日の20日前まで、医学部キャンパス学生・医学部1年生は休学しようとする日の1ヶ月前までに「休学願」を提出してください。

なお、休学する期間によっては、授業料納入にも関係しますので、事前に窓口において相談するなど、「休学願」の提出にあたっては十分注意してください。

(2) 復 学

承認された休学期間が終了する場合は、「復学願」を提出する必要があります。甲府キャンパス学生（医学部1年生を除く）は復学しようとする日の20日前まで、医学部キャンパス学生・医学部1年生は復学しようとする日の1ヶ月前までに「復学願」を提出してください。

なお、遅延した場合、復学しようとする学期の履修申告が受けられない場合がありますので、十分注意してください。

(3) 退 学

やむを得ない事由により退学しようとする場合は、「退学願」を提出する必要があります。甲府キャンパス学生（医学部1年生を除く）は退学しようとする日の20日前まで、医学部キャンパス学生・医学部1年生は退学しようとする日の1ヶ月前までに「退学願」を提出してください。

なお、退学する時期によっては授業料納入にも関係しますので、事前に窓口において相談するなど「退学願」の提出にあたっては十分注意してください。

5. 懲戒及び除籍

問合せ先

甲府キャンパス：教務課・学生支援課
医学部キャンパス：医学域学務課

(1) 懲戒について

「学則に違反し又は学生としての本分に反する行為があった場合」は、「退学」、「停学」又は「訓告」の懲戒処分となります。

なお、「停学」は、一定期間登校を停止する処分です。

停学期間内においては、「試験等の受験」及び「次年度（次学期）の履修申告」はできません。

停学期間は、卒業に必要な修業年数に含まれません。つまり、停学となった場合、停学期間の長短にかかわらず、また、卒業に必要な単位を修得している場合であっても、通常の年限（4年間・医学科は6年間）では卒業できません。

○懲戒の対象となる事例

傷害、窃盗等の犯罪行為、又は試験等における不正行為、
交通事故・交通違反などにおいて重大な過失があった場合
(バイクや車の運転には充分注意してください。)

(2) 除籍について

次のいずれかの事由に該当するときは、除籍となります。

- (ア) 所定の在学年限内に所定の単位を修得できない場合
- (イ) 休学期間を超えてなお復学できない場合
- (ウ) 入学料の免除が不許可となった者並びに半額免除又は徴収猶予された者が、所定の期日までに入学料を納入しない場合
- (エ) 授業料の納入を怠り、督促してもなお納入しない場合
- (オ) 長期にわたり行方不明である場合

6. 授業料の納入

窓口

甲府キャンパス：本部棟 会計課授業料納入窓口 (055-220-8025)

医学部キャンパス：管理棟 管理課授業料納入窓口 (055-273-9239)

① 納入時期	前期分＝4月 後期分＝10月
② 納入方法	1) 口座引落・・・学生本人名義の預金口座から引落とし 2) 窓口納入・・・会計課又は管理課窓口で現金で納入（やむを得ない場合のみ） 受付時間 8:30～17:00（ただし、土・日・祝日を除く）
③ 通知方法	4月と10月にキャンパスネットワーキングサービス（YINS-CNS）で通知
※ 授業料は、前期・後期の半期ごとに、それぞれ定められた期間内に納入しなければなりません。定められた期間内に納入されなかった場合には、大学から保証人宛に督促状を発送します ※ 引落とし口座の登録は、「授業料引落とし依頼書（山梨中央銀行用）」、「自動払込利用申込書（ゆうちょ銀行用）」、「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書（その他の金融機関用）」のいずれか一つを会計課、又は管理課窓口へ提出する必要があります。	

7. 学生の表彰

問合せ先

甲府キャンパス：学生支援課
医学部キャンパス：医学域学務課

本学では、下記の基準により、全学における学生表彰を行っています。

自薦・他薦を問いませんので、該当事項がある場合は、上記問い合わせ先に相談してください。

なお、学部での学生表彰もありますので、必要に応じて所属学部教務窓口にお問い合わせください。

(表彰基準)

学生の表彰は、次の各号に該当する個人又は団体について行います。

(1) 学業

学業において、特に優秀な成績を修め、かつ本学学生の模範となると認められた場合

(2) 学術研究活動関係

ア 関東地区規模以上の学会等において賞を受けた場合

イ その他、アに準じた功績等で高い評価を受けた場合

(3) 課外活動関係

ア 国際規模の競技会、コンクール、展覧会、公演会等（以下「競技会等」という。）に出場、出展又は出演した場合

イ 全国規模の競技会等（参加大学又は学部等を限定する競技会等を除く。）に出場し、入賞した場合

ウ 関東（関東甲信越）規模の競技会等（参加大学又は学部等を限定する競技会等を除く。）において、優秀な成績を収めた場合

エ 参加大学又は学部等を限定する競技会等において、以下の成績を収めた場合

① 東日本医科学生総合体育大会及び全日本医科学生体育大会において、入賞（1～3位）した場合

② 関東甲信越大学体育大会において、優勝した場合

③ その他、これに準ずる競技会等において、優勝した場合

オ その他ア～エに準ずる競技会等において、特に優秀な成績を収めた場合

(4) 社会活動関係

ア 社会活動に関し、公共団体等から表彰を受けた場合

イ 人命救助、犯罪防止、災害予防、ボランティア活動等に貢献し、社会的に高い評価を受けた場合

ウ 課外活動のうち、地域社会及び大学に貢献したと思われる活動があった場合

(5) その他、前4号に掲げる場合以外において、その行為が社会的に高く評価される等、本学学生の模範となりうると認められた場合

8. 拾得物・遺失物

窓口

甲府キャンパス：学生支援課
医学部キャンパス：医学域学務課

(1) 拾得物について

学内で、落とし物を拾った・忘れ物を見つけた場合は、学生支援課若しくは学務課窓口に届けてください。

(2) 遺失物について

学生支援課若しくは学務課に届けられた拾得物は、各窓口にある「遺失物陳列棚」に一定期間陳列しますので、そこに自分の物があった場合は窓口に出してください。

ただし、金銭・財布・カードなどについては陳列しませんので、落とした場合は、窓口 directly 申し出てください。

Ⅱ 本学で使用する記号

1. 学部・課程・学科等の記号

学 部	記号	課 程	コース	記号
教 育 学 部	E	学校教育課程	幼小発達教育コース	O 1
			障害児教育コース	O 2
			言語教育コース	O 3
			生活社会教育コース	O 4
			科学教育コース	O 5
			芸術身体教育コース	O 6

学 部	記号	学 科	記号
医 学 部	D	医学科	SM
		看護学科	SN

学 部	記号	学 科	記号
工 学 部	T	機械工学科	ME
		電気電子工学科	EE
		コンピュータ理工学科	CS
		情報メカトロニクス工学科	JM
		土木環境工学科	CE
		応用化学科	AC
		先端材料理工学科	AM

学 部	記号	学 科	記号
生命環境学部	L	生命工学科	BT
		地域食物科学科	FS
		(ワイン科学特別コース)	(FSW)
		環境科学科	EV
		地域社会システム学科	SS
		(観光政策科学特別コース)	(SST)

2. 大学院の記号

研 究 科	記号	課 程	専 攻	コース	記号
教育学研究科	M	修士課程	教育支援科学専攻		EH
			教科教育専攻	言語文化コース	EL
				社会文化コース	EC
				科学文化コース	ES
				芸術文化コース	EA
				身体文化コース	EB
		教職大学院の課程	教育実践創成専攻		EP

教 育 部	記号	課 程	専 攻 等	コース	記号
医工農学総合教育部	G	修士課程	生命医科学専攻		SM
			看護学専攻		SN
			工学専攻	機械工学コース	TM
				電気電子工学コース	TE
				コンピュータ理工学コース	TK
				メカトロニクス工学コース	TJ
				土木環境工学コース	TC
				応用科学コース	TA
				先端材料理工学コース	TZ
				流域環境科学特別教育プログラム	TR
				グリーンエナジー変換工学特別教育プログラム	TG
			生命環境学専攻	バイオサイエンスコース	LB
				食物・ワイン科学コース	LF
				地域環境マネジメントコース	LR
	G	博士課程	医学専攻		DDM
			ヒューマンヘルスケア学専攻		DDN
			工学専攻	システム統合工学コース	DTS
				エネルギー物質科学コース	DTE
				環境社会システム学コース	DTK
			統合応用生命科学専攻	生命農学コース	DIA
				生命医科学コース	DIM
				生命工学コース	DIB

3. 専攻科の記号

専 攻 科	記号	専 攻	コース	記号
特別支援教育特別専攻科	S	障害児教育専攻	Aコース	TSA
			Bコース	TSB

4. 学 籍 番 号

(1) 教育学部学生の学籍番号

(例)	学部記号	入学年度 (西暦下2桁)	コース記号	コース別 五十音順番号
E**01001	E	**	01	001

(2) 医学部学生の学籍番号

(例)	学部記号	入学年度 (西暦下2桁)	学科記号	学科別 五十音順番号
D**SM001	D	**	SM	001

(3) 工学部学生の学籍番号

(例)	学部記号	入学年度 (西暦下2桁)	学科記号	学科別 五十音順番号
T**ME001	T	**	ME	001

(4) 生命環境学部学生の学籍番号

(例)	学部記号	入学年度 (西暦下2桁)	学科・コース 記号	学科・コース別 五十音順番号
L**BT001	L	**	BT	001

(5) 大学院学生の学籍番号

(例)	研究科・教育部 記号	入学年度 (西暦下2桁)	専攻・コース 記号	専攻・コース別 五十音順番号
M**EH001	M	**	EH	001
G**SM001	G	**	SM	001

(6) 専攻科学生の学籍番号

(例)	専攻科記号	入学年度 (西暦下2桁)	コース記号	コース別 五十音順番号
S**TSA01	S	**	TSA	01

(7) 研究生・科目等履修生・特別研究学生・特別聴講学生の学籍番号

(例)	所属学部	課程	記号	種別	記号(英字)
E**RRO01	教育学部		E	研 究 生	RR
T**RME01	医学部		D		RR
G**RSM01	工学部		T		R□□
G**RDA01	生命環境学部		L		RR
M**LLO01	教育学研究科	修士課程	M		RR
G**3LO01	大学院医工農学総合教育部	修士課程	G		R□□
G**4LO01	//	4年博士課程	G		RD□
E**LX001	//	3年博士課程	G		RD□
	教育学部		E	科目等履修生	LL
	工学部		T		LL
	生命環境学部		L		LL
	教育学研究科	修士課程	M		LL
	大学院医工農学総合教育部	修士課程	G		LL
	//	4年博士課程	G		4L
	//	3年博士課程	G		3L
	教育学部		E	特別研究学生	RX
	工学部		T		RX
	生命環境学部		L		RX
	教育学研究科		M		RX
	大学院医工農学総合教育部		G	特別聴講学生	RX
	教育学部		E		LX
	工学部		T		LX
	生命環境学部		L		LX
	教育学研究科		M		LX
	大学院医工農学総合教育部		G		LX
	国際交流センター		I		LX

□は所属学科等の記号

Ⅲ 学生年間行事

甲府キャンパスの学生行事

(1) 新入生交歓会《4月》

各学科（講座）単位で教員、在学生、新入生が交流を深めることを目的とした行事で、ピクニックなどが行われます。

(2) 新入生オリエンテーション《4月中旬～5月中旬》

新入生等を対象に、各学域や学科等の単位で実施される行事です。教職員と相互理解を深めたり、修学や将来の進路等のポイントなどについて意見交換し、また、あたらしい友人関係が得られたりします。

(3) 関東甲信越大学体育大会《8月》

関東甲信越（東京地区を除く）の国立大学 11 校、公立大学 2 校の学生が参加し行われる学生総合体育大会です。このうちの 3 若しくは 4 大学が開催当番校となり実施されます。

(4) 大学祭（梨甲祭）《10月下旬～11月上旬》

学生団体の大学祭実行委員会により行われる行事です。学内を一般に公開し、日頃の研究及び活動の発表や、仮装パレードをはじめとする様々なイベント等が行われます。

医学部キャンパスの学生行事

(1) 医学部新入生歓迎会《4月上旬》

医学部及び医学部キャンパスを紹介することを目的に医学部学生会が開催します。医学部キャンパスのサークル紹介や懇親会等も行われます。

(2) 大学祭（医学祭）《10月下旬》

学内を一般に公開し、医学展及び看護展を中心に展示・発表や各種イベントが行われ、地域住民との交流を深めています。

(3) 東日本医科学生総合体育大会（東医体）《8月上旬》

東日本の国公立医科大学の友情を深めるため、医科学生が自主的に運営する体育大会です。本学部も昭和 56 年度（第 24 回）大会から参加しています。また、東医体と西医体（西日本の大会）の各種目の上位代表大学で競い合う、全日本医科学生体育大会も開催されています。

(4) 新入生オリエンテーション

4月中旬～5月中旬に行われる新入生のオリエンテーションです。学科単位で実施され、教員等と修学・進路・大学生活の過ごし方などの意見交換をするなかで、あたらしい友人関係が得られたりします。

山梨大学学生歌「明日の翼ひろげ」

作詞：岩崎 巖

作曲：藤原嘉文

1 あじすののつかはさがひるぶるげりかい
2 じしぐんののいからまがひやめぶる
3 れるのなかにをでたさうとがたーうよあつ
ぜまのなみにでさうとがたそおうよなもえ
いみるみあけいたはだあひいさびてはき } わかいこ
こるよおおぞらかけよう
ch my young days in my heart ち ch
my young days in Ya ma na shi ch
my young days in my heart Uhi ver -si
-ty of Ya ma na shi

1. 明日の翼 ひろげ 風の羊に 立とうよ 2. 自分の道を 縫い 生きる道を 探そうよ 3. 四季の音が めぐる 山の樹で 蔽おうよ
- 熱い未来 だいて 若い心よ 頼み明けた朝は 若い心よ 癒える声は ひびき 若い心よ
- 笑聲 翔けよう 笑聲 翔けよう 笑聲 翔けよう

※ Oh! My young days in my heart
※ Oh! My young days in yamanashi
※ Oh! My young days in my heart
University of Yamanashi



課外活動支援

甲府キャンパス・医学部キャンパス

- ◎スポーツ施設とその利用方法
- ◎学生団体・サークル等の紹介
- ◎学生団体・サークル活動に関する届出事項等
- ◎レクリエーション用具等の貸出



課外活動支援 目次

I 甲府キャンパス

- 1. スポーツ施設とその利用方法 29
- 2. 学生団体・サークル等の紹介 30
- 3. 学生団体・サークル活動に関する届出事項及び留意事項 31
- 4. レクリエーション用具等の貸出 32

II 医学部キャンパス

- 1. スポーツ施設とその利用方法 33
- 2. 学生団体・サークル等の紹介 34
- 3. 学生団体・サークル活動に関する届出事項及び留意事項 35
- 4. レクリエーション用具等の貸出 35

I 甲府キャンパス

窓口

学生支援課（甲府キャンパス）

1. スポーツ施設とその利用方法

- 利用にあたっては、窓口で簡単な手続きが必要です。
- 授業及びサークル活動の優先使用となりますが、空いている場合は、グループ又は任意の団体等で利用できます。



体育館

体 育 館	競技設備等	バレーボールコート（2面）、バドミントンコート（6面） バスケットボールコート（2面）、トレーニングルーム （体操競技用具、バーベル、ダンベル、エルゴサイザー、 プレスベンチ 外）
	付帯設備等	更衣室、シャワー室、トイレ、観客席
小体育館	競技設備等	卓球場、空手道場
	付帯設備	トイレ
武 道 場	競技設備等	柔道場、剣道場
	付帯設備	更衣室、シャワー室
弓 道 場	競技設備等	6人立ち弓場、的場
プ ー ル	競技設備等	50m×15m（7コース）
	付帯設備	更衣室、シャワー室、トイレ
グラウンド	競技設備等	スポーツ用多目的グラウンド（陸上、ラグビー、サッカー、野球、 その他）、トレーニングルーム（バーベル、ダンベル 外）
	付帯設備	シャワー室、更衣室、トイレ
テニスコート	競技設備等	人工芝コート（10面）
	付帯設備	駐車場、器具庫
鷹師運動場	競技設備等	フットサルコート
	付帯設備	器具庫、更衣室、トイレ

2. 学生団体・サークル等の紹介

☆ 文化系サークル

音楽系	管弦楽団、吹奏楽団、合唱団、ギタークラブ、ピアノサークル、軽音楽部、 フリーミュージック、DTM・作曲同好会、ジャズ研究会、 甲府キャンパスアカペラ部、BouncY (DJ)
芸術・文化系	美術部、写真部、劇団13番創庫(演劇)、華道部、 茶道部(裏千家)、表千家茶道部、g^2(ゲーム等創作活動)
研究会・その他	天文部、E.S.S.(英語学習)、映画・漫画研究会、電子計算機研究会(プロダミグ)、 鉄道研究会、競技百人一首、CSC〜聖書研究会、NICE(国際交流)、 Change!!!(国際協力)、ラノベ部(読書)、オリーブ(料理)、 TOGサークル(カードゲーム)、TRPG研究会(ロープレ)、 ファンインコミュニティ(まちづくり)、ものづくりラボ active、 競技麻雀部、落語研究会、囲碁・将棋研究会 Green Act(ボランティア)、PASTEL(環境活動)

☆ スポーツ系サークル

(は、関東甲信越大学体育大会出場サークル)

球技	<u>硬式野球部</u> 、 <u>準硬式野球部</u> 、 <u>硬式テニス部</u> 、 <u>ソフトテニス部</u> 、(男子・女子) <u>バレーボール部</u> 、 <u>蹴球部</u> 、 <u>ラグビー部</u> 、 <u>バドミントン部</u> 、(男子・女子) <u>バスケットボール部</u> 、 <u>卓球部</u> 、女子蹴球部、 TUESDAY・V.I.P(バレーボール)、アメリカンフットボール部、 20FB風林火山(野球・ソフト)、全学アイスホッケー部、 F. S. Miracle・燃えミン(バドミントン) I. L. S・Fantasista・Mao Grande・脚MEN'S(フットサル) AMU・Buzzer Beater(バスケット)、イギリス研究会・T-スマ・SSHey Hey(テニス) GATS(バスケット・バレー・フットサル)
競技	<u>陸上競技部</u> 、 <u>体操部</u> 、 <u>水泳部</u> 、月刊梨大ジャンプ(トランポリン)、馬術部
武道	<u>剣道部</u> 、 <u>柔道部</u> 、 <u>空手道部</u> 、 <u>弓道部</u> 、合気道部、少林寺拳法部、躰道部
アウトドア	山岳部、野外活動部、1-3森林部、旅サークル いってこうし、野外教育サークル
ダンス	ダンス部
その他	学生フォーミュラ部、ワッパの会(自転車) WINS友の会(競馬)、ダブルダッチ(縄跳)、十柱戯サークル(ボウリング)

☆ 学 生 団 体

甲府キャンパス学友会	甲府キャンパス学生団体・サークル等の代表組織
甲府キャンパス大学祭実行委員会	甲府キャンパス大学祭の企画・運営
山梨大学中国留学生学友会	中国留学生間の交流を深め留学生生活を支援

3. 学生団体・サークル活動に関する届出事項及び留意事項

(1) 公認等に関する届出事項

団体・サークル等の公認を受けたい場合(新規希望時提出)	「団体・サークル等公認希望届」
団体・サークル等の公認を継続する場合(毎年度提出)	「団体・サークル等公認継続希望届」

(2) 日常的な活動等に関する届出事項

団体・サークル等が大学の施設等を使用する場合	「施設使用願」
発表会・演奏会・対外試合・交流会等を開催する場合	「開催届」
合宿・遠征・登山等を行う場合	「合宿・遠征届」・「登山届」

(3) 団体・サークルの活動に関するルール等について

学生団体・サークルの活動に関して、下記の要項等が定められていますので、該当事項がある場合は、それぞれに設定されている手順に従って申請等してください。

記

① 学生団体・サークルの公認等全般について

○「甲府キャンパス課外活動団体の公認手続等に係る申合せ」
・公認について、「申請手続・公認要件・公認継続・公認取消」等が定められています。
・各種変更や学外活動時の届出についても定められています。
・公認団体の支援についても定められています。

② 部室の貸与について

○「甲府キャンパス学生団体・サークル等への部室等の貸与に関する要項」
・部室貸与について、「申請資格・申請手続・貸与継続・貸与解除」等が定められています。
・「部室等新規貸与願」は、随時提出できます。
・「部室等継続貸与願」は、毎年2月に提出してください。 (提出がない場合は貸与取消)

③ 学生団体の行う会費等の徴収について

○ 「入学手続（学務関係手続）における甲府キャンパス学生団体の会費等の徴収に関する要項」
・ 新入生から会費等を徴収できる学生団体及び申請資格等が定められています。
・ 申請する場合は、「会費等徴収申請書」を、徴収日の6ヶ月前までに提出

④ 新入生へのサークル等の勧誘活動について

○ 「新入生に対するサークル等の勧誘活動に関する要項」
・ 新入生の勧誘活動の開始日・勧誘方法等が定められています。

4. レクリエーション用具等の貸出

○ 利用にあたっては、窓口で簡単な手続きが必要です。
○ 利用品目により「貸出・返却」の場所が異なります。
(利用申請の際に貸出・返却場所の指示があります。)



(1) 球技用具

球 技 名	貸 出 品 目	利 用 手 続
ソフトボール	バット・ボール・グローブ・ベース	使用日の3日前までに 「物品借用願」を提出
バドミントン	ネット・ラケット	
テニス	ラケット	
バレーボール	ネット・ボール	
卓 球	ラケット	
バスケットボール	ボール	

(2) アウトドア用品

貸 出 品 目	規 格 等	利 用 手 続
キャンプ用テント	4・6・7人用	使用日の3日前までに 「使用申込書」を提出
キャンプ用寝袋	夏用・冬用	

(3) そ の 他

	貸 出 品 目	利 用 手 続
(大型物品)	長机、パイプイス、イベント用テント、展示用パネル、立て看板、リヤカー	使用日の3日前までに 「物品借用願」を提出
(機器類)	ビデオカメラ、マイク、マイクスタンド、スピーカー、スポットライト、スクリーン、ハンドマイク、ドラムコード、ジェットヒーター、プロジェクター、トランシーバー、ストップウォッチ	

Ⅱ 医学部キャンパス

窓口

医学域学務課（医学部キャンパス）



1. スポーツ施設とその利用方法

- 利用にあたっては、窓口で簡単な手続きが必要です。
- 授業及びサークル活動の優先使用となりますが、空いている場合は、個人又は任意の団体等で利用できます。

施 設 名	競 技 設 備 等	備 考
体 育 館	バレーボールコート 2面 バスケットボールコート 2面 バドミントンコート 6面	
陸上競技場	400mトラック (フィールド内) ラグビー場 1面 サッカー場 1面	
野 球 場	野球場 1面	
テニスコート	クレー 5面	
武 道 場	柔道場 剣道場等	
弓 道 場	6人立54㎡、的場23㎡	事前に弓道部の許可が必要

2. 学生団体・サークル等の紹介

☆ 文化系サークル

交響楽団	軽音楽部	美術部	茶道部
写真部	アカペラ部	囲碁・将棋部	梨っこ（医ゼミに参加する会）
東洋医学研究会	海外医学交流研究会	映画研究会	Yamanashi Life Support
星を観る会	ESS	サニースマイル	I FMSA-Yamanashi

☆ スポーツ系サークル

準硬式野球部	サッカー部	男子バレーボール部	男子バスケットボール部
硬式テニス部	卓球部	女子バレーボール部	女子バスケットボール部
軟式テニス部	ハンドボール部	ゴルフ部	看護学科バスケットボール部
水泳部	ラグビー部	山岳部	男子バドミントン部
ウインドサーフィン部	剣道部	馬術部	女子バドミントン部
医学科弓道部	空手道部	漕艇部（ボート部）	看護学科バドミントン部
看護学科弓道部	柔道部	スキー部	フットサルサークル
アイスホッケー部	陸上競技部	ダンス部	

☆ 学生団体

医学部学生会	医学部学生の代表組織、年間を通して活動
--------	---------------------

3. 学生団体・サークル活動に関する届出事項及び留意事項

(1) 結成等に関する届出事項

団体・サークル等を結成する場合	「団体設立届」
団体・サークル等の活動を継続する場合	「団体継続届」 毎年4月下旬頃まで
団体・サークル等を解散した場合	「団体解散届」

(2) 日常的な活動等に関する届出事項

団体・サークル等で大学の施設等を使用する場合	「施設・設備使用願」
合宿・集会・催物・その他行事、登山を行う場合	「合宿届」、「集会・行事届」、「登山届」
学外の行事に参加する場合	「集会・行事届」

(3) 福利厚生施設の利用について

団体・サークル等の活動のため福利厚生施設を使用する場合は、規程の使用区分に応じて、使用開始3日前までに「施設・設備使用願」を提出してください。

(注) 当該施設の使用規則を厳守してください。

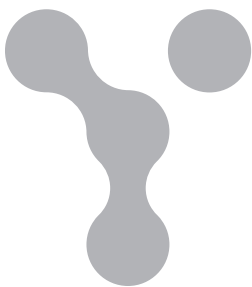
火災・盗難防止や室内清掃には充分留意してください。

4. レクリエーション用具等の貸出

- 利用にあたっては、窓口で簡単な手続きが必要です。
 - 利用品目により「貸出・返却」の場所が異なります。
- (利用申請の際に貸出・返却場所の指示があります。)

貸出品目	利用手続／貸出・返却
トランシーバ	使用日の1週間前までに「物品借用願」を提出 貸出期間 通年 貸出・返却 常時
長机	
パイプイス	
組立てステージ	
イベント用テント	
プロジェクター	

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 5 horizontal dotted lines.



経済的支援 福利厚生施設

- ◎奨学金・授業料免除・入学料免除等
- ◎アルバイト・学生保険
- ◎大学会館・学生寄宿舍・
大学共同利用研修施設等



経済的支援・福利厚生施設 目次

I 経済的支援

1. 奨学金	39
2. 授業料の免除等	40
3. 入学料の免除等	40
4. 学術研究奨励金制度	40
5. アルバイトの斡旋	41
6. 学生保険の案内	41

II 福利厚生施設

1. 大学会館	42
(附)山梨大学大学会館使用細則	
2. 学生寄宿舍	44
3. 厚生会館（山梨大学生生活協同組合）＜甲府キャンパス＞	45
4. 福利厚生棟＜医学部キャンパス＞	45
(附)山梨大学医学部キャンパス福利厚生施設使用細則	
5. 大学共同利用研修施設	47
(1) 草津セミナーハウス	
(2) 山中共同研修所	

I 経済的支援

窓口

甲府キャンパス：学生支援課
医学部キャンパス：医学域学務課

1. 奨学金

本学で扱っている奨学金には、「日本学生支援機構」及び「地方公共団体又は民間奨学団体」の奨学金があります。これらの奨学金は、いずれも学業、人物ともに優れ、かつ健康であり、経済的理由により就学困難な者が対象になっています。

なお、募集案内等はY I N S－C N Sに掲載します。

(1) 日本学生支援機構の奨学金

① 奨学金の種類 (※貸与月額、平成29年度の金額となっています。)

[学部学生・専攻科学生]

種 類	貸与月額	備 考
第一種	自 宅 2万、3万、4.5万円から選択 自宅外 2万、3万、4万、5.1万円から選択	無利息
第二種	3万、5万、8万、10万、12万円から選択	年利3%が上限 (在学中は無利息)

[大学院生(修士・教職大学院・博士)]

種 類	貸与月額	備 考
第一種	修士課程 5万、8.8万円から選択 教職大学院課程 5万、8.8万円から選択 博士課程 8万、12.2万円から選択	無利息 (優れた業績による返還免除制度あり)
第二種	5万、8万、10万、13万、15万円から選択	年利3%が上限 (在学中は無利息)

② 奨学生の募集

採用の種類	募集時期	備 考
在学採用	4月	一次採用のみ
緊急採用(第一種)	随時	家計急変により、貸与の必要が生じた場合
応急採用(第二種)		
予約採用	10月	大学院進学予定者で、大学院前期合格者を対象

(2) 地方公共団体及び民間奨学団体の奨学金

これらの奨学金は、大学を通じて応募するものと、募集团体に直接応募するものとがあります。また、私費留学生を対象とするものもあります。

2. 授業料の免除等

経済的、その他の理由により納入が困難になった場合は、授業料の免除等を願い出る制度があります。

(1) 免除の対象者

- ① 経済的理由によって授業料の納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる者
- ② 授業料の各期の納期前6月以内（新入生前期分については1年以内）において、本人の学資を主として負担している者が死亡し、又は本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納入が著しく困難であると認められる者
- ③ 独立行政法人日本学生支援機構給付型奨学金の給付奨学生
- ④ ①及び②に準ずる者、又はその他学長が相当と認める事由がある者

(2) 免 除 額 前期、後期ごとの授業料の全額又は半額

(3) 申請方法 申請書の配付時期、配付方法等については、Y I N S - C N S により通知

学業成績が特に優れ、かつ人物優秀であると認められる学生に対して授業料の免除をする制度があります。

(1) 免除の対象者

各学部の最終学年に在籍する学生で、学業、人物ともに優秀な者

(2) 免 除 額 当該年度後期分授業料の全額

(3) 選考方法 各学部において選考し、各学部長が学長に推薦

3. 入学料の免除等

入学料には、免除又は徴収猶予の制度があり、学部・大学院ともに合格時に送付する「入学手続関係書類」の中で申請資格、申請方法等の詳細をお知らせしています。

4. 学術研究奨励金制度

大学院（教育学研究科・医工農学総合教育部博士課程）に在学する学生に対し、経済的負担の軽減を図ることにより学業を奨励するために学術研究奨励金を給付する制度があります。

5. アルバイトの斡旋

○ 家庭教師求人票及びアルバイト求人票は、次の場所で閲覧できます。

(甲府キャンパス) : キャリアセンター内掲示板
(医学部キャンパス) : 医学域学務課窓口

6. 学生保険の案内

授業中、課外活動等学生生活における万一の事故及びインターンシップ・教育実習・臨床実習等での不慮の事故により賠償責任が発生した場合などに対応できる「学生保険」への全員加入を大学の方針としています。

特にインターンシップ・教育実習・臨床実習を行う際には、保険の加入を義務付けていますので、必ず保険に加入してください。

以下は大学内で取り扱っている保険です。保険の特色、補償範囲、保険料等詳細については、それぞれの窓口が対応しますので、随時問い合わせてください。

保 険 名	対 応 窓 口
学生教育研究災害傷害保険 + 学研災付帯賠償責任保険	甲府キャンパス学生支援課 (055-220-8054) 医学部キャンパス学務課 (055-273-9334)
学生教育研究災害傷害保険 + 学研災付帯学生生活総合保険	甲府キャンパス学生支援課 (055-220-8054) 医学部キャンパス学務課 (055-273-9334)
学生総合補償制度 (こども総合保険)	文教インシュアランス (0120-740859) (医学部附属病院内里仁会サービス窓口)
学生総合共済 + 学生賠償責任保険 + 扶養者死亡保障保険	山梨大学生生活協同組合 (055-252-4757) (甲府キャンパス内厚生会館1階生協事務室)

※ 加入した保険については、その加入期間を確認し、有効期限に注意してください。

特に大学院へ進学する場合や休学・留年等により在学期間が延長した場合などは、改めて加入する必要があります。

Ⅱ 福利厚生施設

利用申請窓口

甲府キャンパス：学生支援課

医学部キャンパス：医学域学務課

(いずれの施設も在学するキャンパスの窓口で利用申請ができます。)

1. 大学会館

(甲府キャンパス内)

大学会館は、単なる集会の場としてだけではなく、学生相互あるいは学生・教職員の間の交流を深めること、課外活動を盛んにすること、学生・教職員の福利厚生に寄与することを目的として設置されました。

① 開館時間	午前9時～午後8時 (休館日：土曜、日曜、祝日、夏季一斉休業、年末年始の休日)	
② 施設内容	ラウンジ・多目的ホール・企画展示ロビー・セミナー室・ミーティングルーム・音楽室・和室・印刷室・留学生談話室・大学会館食堂	
③ 利用方法	ラウンジ	個人の自由利用スペースとして開放、飲食もでき、飲食物の持ち込みも自由です。 貸切使用する場合、「使用願」の提出が必要です。
	多目的ホール・ 企画展示ロビー・ 印刷室	使用する場合、「使用願」の提出が必要です。
	セミナー室・和室・ 音楽室・留学生談話室	「使用願」は不要です。(大学会館内の使用予定表・使用届に書き込んで予約してください。)
④ 利用手続	「使用願」は、学生支援課窓口、又は大学HPより取得し、必要事項を記載して、使用日の3日前までに学生支援課窓口へ提出してください。	
⑤ その他	利用は、原則として申請順となります。 利用にあたっては、「大学会館使用細則」を参照してください。	

◎「大学会館食堂」について

- 通常営業時間 (昼) 11:00～14:30、(夜) 18:00～19:30
- 昼食、夕食の提供をしています。(カフェテリア方式)
- また、麺コーナー、カルトコーナー(カレー・どんぶりなど)もあります。

(附) 山梨大学大学会館使用細則

平成25年3月19日 改正

(趣旨)

第1条 この細則は、山梨大学大学会館規程第6条の規定に基づき、山梨大学大学会館（以下「会館」という。）の使用に関し、必要な事項を定める。

(部屋)

第2条 会館に次の部屋を置く。

- (1) ラウンジ (2) 多目的ホール (3) 企画展示ロビー (4) セミナー室
(5) ミーティングルーム (6) 音楽室 (7) 和室 (8) 印刷室 (9) 留学生談話室 (10) 事務室
(使用者の範囲)

第3条 会館を使用できる者は、次のとおりとする。

- (1) 山梨大学（以下「本学」という。）の学生及び教職員
(2) 本学が行う諸事業の参加関係者
(3) その他理事（教学担当）が適当と認める者

(施設の保持)

第4条 会館の使用者は、建物、設備及び備品等（以下「施設」という。）を常に正常な状態に保全するとともに規律の保持に努めなければならない。

2 会館の使用者は、施設を滅失、損傷又は汚損したときは、速やかに理事（教学担当）に届け出なければならない。

3 会館の使用者は、施設の滅失、損傷又は汚損が、使用者の責めに帰すべき事由により生じたものであるときは、これを弁償しなければならない。

(開館時間及び休館日)

第5条 会館の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。

- (1) 開館時間 午前9時から午後8時まで
(2) 休館日 土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日及び12月28日から翌年1月4日まで

2 理事（教学担当）が必要と認める場合には、前項の開館時間又は休館日を臨時に変更することができる。

(使用の手続)

第6条 会館を次に掲げる事項により使用しようとする場合は、使用責任者は、使用しようとする日の1ヵ月前から3日前までの間に使用願（別紙様式）を提出し、理事（教学担当）の許可を受けなければならない。ただし、理事（教学担当）が必要と認めた場合は、使用日の1ヵ月以上前であっても使用許可を受けることができる。

- (1) 全館を貸切使用する場合
(2) ラウンジを貸切使用する場合
(3) 多目的ホール、企画展示ロビーを使用する場合

2 会館の貸出備品類の使用については、前項の規定を準用する。

3 会館の使用許可は、原則として先着順とするが、必要に応じて調整するものとする。

第7条 使用責任者は、使用を中止する場合には、速やかにその旨を届け出なければならない。

(使用時間の厳守)

第8条 使用責任者は、使用開始時刻及び使用終了時刻を厳守しなければならない。

(目的外使用及び転貸の禁止)

第9条 使用責任者は、目的以外の用途に使用し、又は他に転貸してはならない。

(原状回復)

第10条 使用責任者は、室内の整理、整頓、清掃、火気の点検、窓の戸締まり及び消灯を行い、備品類は原状に復した上で、使用を終了しなければならない。

(鍵の保管)

第11条 会館の鍵は、教学支援部学生支援課で保管する。

(使用の制限)

第12条 理事(教学担当)は、会館の運営に支障が生じたとき又は生ずるおそれがあるときは、施設の使用を中止させることができる。

附 則

この細則は、平成25年4月1日から施行する。

2. 学生寄宿舍

本学学生の快適な生活と勉学の間として、充実した学生生活に資することを目的とし、男子寮及び女子寮を設置しています。

＜男子学生寮(芙蓉寮)＞ (甲府キャンパス北東約1,000m、大学から徒歩約15分)

① 収容人員	119名 (全室個室)
② 経 費	寄宿料 : 月額 10,000円
	光熱水料 : 月額 約5,000円程度
③ そ の 他	各個室に「エアコン、インターホン」備え付け 入寮期間は、学部卒業までの4年間(医学部医学科は6年間)

＜女子学生寮(紫遥館)＞ (甲府キャンパス北約300m、大学から徒歩約5分)

① 収容人員	20名 (全室個室)
② 経 費	寄宿料 : 月額 20,000円
	光熱水料 : 月額 約5,000円程度
③ そ の 他	「エアコン、洗濯乾燥機、冷蔵庫、テレビ、電子レンジ」等完備 入寮期間は、1年間(翌年3月20日まで)

3. 厚生会館（山梨大学生生活協同組合）

（甲府キャンパス内）

厚生会館は、本学の学生と教職員を組合員とする「山梨大学生生活協同組合（生協）」によって運営されています。

1階	購買・書籍部	○ 文具、日常雑貨 ○ 切手、はがき、コピー、印刷、DPE ○ パソコン、家電製品等 ○ 弁当、パン、飲料、菓子 ○ 各種専門書、文芸一般書、文庫、新書、雑誌など	平日 8:30~18:00
	トラベルカウンター	○ 学生総合共済・保険受付 ○ 学生アパート紹介 ○ JR乗車券、国内旅行・海外旅行の手配 ○ 自動車教習所・引越しの斡旋、宅配便の取次	平日 10:00~17:00
2階	厚生会館 2階食堂 ラウンジ	○ ランチ（営業時間 11:00~13:30） ○ ラウンジは、ランチ営業時間を除き10~18時まで自由に利用可能です。なお、ゼミ等のコンパなど特別な催しを行う場合は、予め予約願います。	平日 10:00~18:00

※ 「食堂」は、「大学会館」1階でも生協により営業されています。（詳細は、「大学会館」の項を参照してください。）

4. 福利厚生棟

（医学部キャンパス内）

◎ 福利厚生棟 1

学生及び教職員の福利厚生施設として、書籍販売等が設けられています。また、サークルの部室等として利用されています。

1階	売店	○ 書籍 ○ 文具、日常雑貨 ○ USB、ヘッドホン ○ 医療器具、白衣 ○ コピー ○ 弁当、パン、飲料、菓子	平日 8:45~17:30
	理容室	○ カットのみ 1,500円 ○ カット&シャンプー 2,000円 ○ 調髪 2,500円	平日 9:00~18:00 土曜 9:00~14:00
音楽練習室・和室・倉庫等			
2階	集会室・共用室・音楽練習室・和室等		

※ 集会室・音楽練習室・和室等を使用したい場合は、福利厚生施設規程の使用区分に応じて、使用開始3日前までに医学域学務課へ申請してください。

◎ 福利厚生棟 2

医学科2年次生~4年次生のロッカー室があります。

(附) 山梨大学医学部キャンパス福利厚生施設使用細則

制定 平成16年4月1日

改正 平成18年4月1日

(趣旨)

第1条 この細則は、山梨大学医学部キャンパス福利厚生施設規程第6条の規定に基づき、福利厚生施設の使用に関し必要な事項を定める。

(使用日)

第2条 福利厚生施設を使用することができる日は、次の各号に掲げる日以外の日とする。

- (1) 土曜日及び日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日
- (3) 年末年始(12月28日から翌年1月4日)
- (4) 医学部長が必要と認めた日

2 前項第1号から第3号に掲げる日においても、医学部長が特に必要と認めたときは、使用することができる。

(使用時間)

第3条 使用日における使用時間は、午前8時30分から午後8時までとする。

2 医学部長が必要と認めたときは、使用時間を変更することができる。

(使用許可)

第4条 福利厚生施設を使用しようとする者は、山梨大学医学部キャンパス福利厚生施設規程の別表の使用区分に応じて、使用開始3日前までに使用願を医学部長に提出し、その許可を受けなければならない。

(鍵の貸出及び返却)

第5条 福利厚生施設の鍵は、医学域学務課(以下「学務課」という。)で保管し、使用の都度貸し出しするものとする。

2 使用後の鍵は、施錠のうえ学務課に返却するものとする。

(遵守事項)

第6条 福利厚生施設を使用する者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 使用時間を厳守すること。
- (2) 許可された目的以外の使用及び転貸をしないこと。
- (3) 施設、設備、備品等無断で改廃、新設、移動若しくは損傷及び汚損しないこと。
- (4) 使用を中止したときは、速やかに学務課に届け出ること。
- (5) 所定の場所以外で火気使用、喫煙をしないこと。
- (6) 使用中は、常に整理整頓に心掛け、飲酒、放吟等他人に迷惑をかける行為をしないこと。
- (7) 使用後は、清掃、整理整頓を行い、特に火気、消灯、戸締りの点検は必ず励行すること。
- (8) その他担当者の指示に従うこと。

（使用許可の変更等）

第7条 医学部長は、次の各号の一に該当するときは、使用許可を変更又は取消若しくは以後の使用を許可しないことができる。

- (1) 学校行事等のため福利厚生施設を使用する必要性が生じたとき。
- (2) 前条各号の規定に違反したとき。

（損害賠償）

第8条 使用者が故意又は過失により設備、備品等を破損又は滅失したときはその損害に相当する額を弁償しなければならない。

（雑則）

第9条 この細則に定めるもののほか、福利厚生施設の使用に関し必要な事項は、医学部長が定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から実施する。

附 則

この細則は、平成18年4月1日から実施する。

5. 大学共同利用研修施設

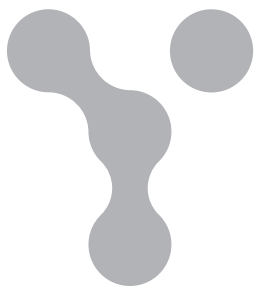
（1）草津セミナーハウス

所 在 地	住 所：〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町大字草津字白根 737 TEL：0279-88-2212
収 容 人 員	学生102名 職員18名 計120名
利用の手続	群馬大学学生支援課（Tel 027-220-7145）に直接予約し、予約完了後に申込書を提出してください。（予約は利用日の4ヵ月前から） ・申込書は、本学学生支援課又は医学域学務課にあります。
利用料金	運営費：1,500円（10月～4月は2,000円） 食 費：朝食480円、昼食520円、夕食1,020円
概 要	本施設は、四季を通じて、セミナーや体育館を利用したクラブ合宿の他、冬のスキー、夏の登山などの多彩な利用ができます。 施設に関する詳細については、本施設ホームページで確認ください。

（2）山中共同研修所

所 在 地	住 所：〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 479 TEL：0555-62-0309
収 容 人 員	学生48名 職員12名 計60名
利用の手続	本施設ホームページで空き室状況を確認し、予約フォームで予約後、申込書（利用願・利用者名簿）を筑波大学学務部学生生活課へ提出してください。 ・申込書は、本施設ホームページからダウンロードしてください。 （予約は利用日の2ヵ月前から7日前まで）
利用料金	使用料 2,000円 食 費：朝食500円、昼食700円、夕食900円
概 要	本施設には、研修室・グラウンド等が整備されており、クラブ合宿に適しています。 施設に関する詳細については、本施設ホームページで確認ください。

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 5 horizontal dotted lines.



学生相談 学生生活の安全

- ◎保健管理センター
学生相談室等
- ◎交通事故防止・災害防止等



学生相談・学生生活の安全 目次

I 学生相談の案内

(学生相談の紹介)	51
○保健管理センター（心と体の健康に関する相談）	52
○学生相談室（修学・進路／生活安全／その他何でも相談）	53
○人権侵害についての相談員	54
○クラス担当教員等（学部別）	55
○外国人留学生のための相談	55
○カウンセリング・サポート室	56
○アクセシビリティ・コミュニケーション支援室	57

II 学生生活の安全

1. 交通事故の防止	58
2. 犯罪などからの防衛	58
3. 飲酒について	59
4. 感染症について	59
5. 災害の防止について	59

I 学生相談の案内



皆さんがこれからの学生生活において

自分の悩みを誰かに相談したいとき……

困りごとで助けを求めたいとき……

山梨大学では、様々な相談に応じられるよう
学生相談の体制を整えています。

その窓口を案内しますので、気軽に利用してください。

- 各相談窓口等では、プライバシーの保護に十分留意するとともに、必要に応じて連携し、より適切なアドバイス等が受けられるよう配慮しています。

全学的相談組織

保健管理センター

甲府キャンパス (055-220-8081)
医学部キャンパス (055-273-9312)

学 生 相 談 室

甲府キャンパス : 学生支援課 (055-220-8051)
医学部キャンパス : 学務課 (055-273-9346)

人権侵害についての相談員

相談員の氏名・連絡方法等は本学ホームページに掲載します。

キャリアセンター (キャリアアドバイザー)

キャリアセンター (055-220-8319)

カウンセリング・サポート室

カウンセリング・サポート室 (055-220-8565)

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室 (055-220-8706)

所属学部クラス担任制

学部ごとに設置されています。

相談員の氏名・連絡方法等は YINS-CNS に掲載します。

外国人留学生のための相談

国際交流センターに相談室を設けています。

相談員の氏名・連絡方法等は本学ホームページに掲載します。

保健管理センター



◆ 保健管理センター （甲府キャンパス・医学部キャンパス）	
相談方法	各センターの窓口または電話 甲府キャンパス （055-220-8081） 医学部キャンパス（055-273-9312）
相談内容	心身の健康相談
スタッフ	医師・保健師・看護師

学 生 相 談 室

山梨大学では、皆さんの学生生活における様々な悩み・相談に対応するため、「学生相談室」を設けています。学生相談室では、「学生相談員」が下表の相談に応じています。

学生相談員は、各学部各4名、学生支援課（甲府キャンパス）と医学域学務課（医学部キャンパス）に各1名います。



学生相談員の氏名・連絡先電話番号等は、YINS-CNS→リンク→クラス担任・学生相談等）に掲載してあります

★ 学生相談員への相談は、上記の相談員名簿にある連絡先へ連絡するか、学生支援課・学務課窓口での申出により相談が可能です。

★ 生活安全に関する相談は、学生支援課・医学域学務課の窓口に出してください。

（下記電話での相談も可）

・学生支援課 <055-220-8051>

・医学域学務課 <055-273-9346>

・学生相談
・生活安全

「修学・進路等に関する相談」・・・各学部教員の相談員（各学部各4名）

- 修学全般に関すること
- 修学上の対人関係（教員や先輩など）に関すること
- 研究生生活に関すること
- 進路や将来に関すること

※ 進路（就職）に関してはキャリアセンターにご相談ください。

「生活安全に関する相談」・・・学生支援課と医学域学務課の相談員（各1～2名）

- 身体的な安全（ストーカー・脅迫・暴行等の被害など）に関すること
- 経済的な被害（悪徳商法・不当請求・金銭貸借など）に関すること
- 学外者（アパート管理人等・アルバイト先など）とのトラブルに関すること
- その他生活安全等に関すること

人権侵害についての相談員

人権侵害

人権侵害とは、性別や社会的身分、人種、国籍、信条、年齢、職業、宗教、身体的特徴、障害の有無など広く人格にかかわる事項等に関する言動や行為などによって相手方の意図にかかわらず受け手に不利益や不快感を与えることをいいます。

大学で起こりうる人権侵害

大学内で起こる可能性のある人権侵害として、ハラスメントがあります。

ハラスメントとは、いわゆるいやがらせやいじめのことをいい、大学においては、アカデミック・ハラスメント（アカハラ）、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）、パワー・ハラスメント（パワハラ）などが問題となります。

アカデミック・ハラスメント

大学内において権力のある者や優越的地位にある者がその立場を利用して、受け手の大学における研究・教育上の環境を著しく悪化させることをいいます。具体的には、「教育・研究上の権力関係や上下関係に基づく嫌がらせや差別行為」を指します。学生や大学院生としては、暴言・暴力、指導放棄、不当な成績評価や学位の不認定、留年あるいは退学の強要、研究における服従の強制、データ捏造の強要などを受ける場合が含まれています。

セクシュアル・ハラスメント

性的な言動によって人を傷つけ、受け手の大学における研究・教育・労働上の環境を悪化させることをいいます。具体的には、「あなたの意に反する性的な言動」により、屈辱や精神的苦痛・不快感または、不利益を受けることです。社会的・文化的に形成された男女の固定的な観念に依拠した言動が引き起こす性差別も該当します。

パワー・ハラスメント

大学内において職務上の地位や人間関係など職場内で優位にある者が、その立場を利用して、受け手の大学における労働環境を著しく悪化させることをいいます。課外活動や出張等の学外においても、その力関係は維持されているものとみなされます。

もしあなたが被害にあったら

☆ 人権侵害の被害にあった時には、一人で悩まずに、相談員に相談しましょう。相談を希望する方を保護し、誠意を持って相談に応じます。2人の相談員（相談を希望する方と同性の相談員を必ず含みます。）が相談を受け、相談したことで嫌な思いをしたり、被害がひどくなったりすることのないように、万全の注意を払います（二次被害の防止）。

相談員と連絡先については山梨大学のホームページに掲載されています。

http://intra.yamanashi.ac.jp/campus_harassment/

所属する学部、課程にかかわらず、あなたが最も相談しやすい相談員に連絡をとってください。

☆ 相談員に直接話すこと以外にも、電話、電子メール、手紙などで申し込むことができます。

また、本人からの相談だけでなく、第三者からの相談や匿名での相談も可能です。

☆ 相談を希望する方の意向により、

（１）相談員との話し合いだけに留める

(2) 相手方との話し合い（直接・間接）へ

(3) 調査委員会等を設けて調停・調査へ

などの過程や措置がとられます。相談を希望する方の同意を得ることなく調停や調査に進むことはありませんので、安心してご相談ください。

クラス担当教員等（学部別）

相談方法	各クラス担当教員等に直接連絡を取ることができます。 ● 担当教員等の氏名及び連絡方法は、年度ごとに本学ホームページ（在学生の方→修学案内：YINS-CNS(ログイン)→リンク→クラス担任・学生相談等）でお知らせします。
相談内容	学生の修学上の問題並びに生活全般について、相談、指導、助言等を行います。
スタッフ	○教育学部 各コース・系において、学年毎にクラス担当教員を置いています。
	○医学部 各学科において、スモールクラス制を実施しています。 医学科については、1年次生から6年次生まで各学年2～3名ずつの縦割りクラスとし、看護学科については、学年毎に複数のクラスに分け、各クラスに指導教員を置いています。
	○工学部 各学科において、学年毎にクラス担当教員を置いています。
	○生命環境学部 各学科において、学年毎にクラス担当教員を置いています。

外国人留学生のための相談

相談内容	留学生の修学および生活上の問題
連絡方法	電話：055-220-8753、又は8152 （不在・緊急の場合には、国際企画課（055-220-8047・8373）にご連絡ください。） メールアドレス: takaei●yamanashi.ac.jp, kokumura●yamanashi.ac.jp （●のところに@を入れてください）
スタッフ	国際交流センター教員



カウンセリング・サポート室

学生生活を送る上で悩んだり、困ったときは

学生の皆さんが学生生活を送る中、学業のこと、対人関係のこと、自分の性格のこと、将来のことなど、さまざまなことで悩んだり、困ったときにはご相談ください。皆さんの相談にカウンセラー（臨床心理士）が応じます。＊相談のプライバシーには十分に配慮いたします。

申込方法

メールか電話で相談の申し込みをしてください。初めての相談の場合は、最初にインターカー（臨床心理士）と面談を行った後、相談日時を調整します。どのようなことでも、まずはお話をおうかがいします。安心してご連絡をしてください。

【電話】055-220-8565

080-1092-0720

＊電話に出られない時がありますので、その場合はメールをご利用ください。

【e-mail】 soudanyoyaku@yamanashi.ac.jp

＊件名に「相談申し込み」という文言を必ず入れてください。

＊氏名・学籍番号・連絡可能な連絡先（例：携帯電話番号）のみを記載してください。

＊予約のみの受付アドレスです。

メール文に相談内容などは記載しないようにお願いします

【開室時間】平 日 9：00～17：00（土・日・祝祭日はお休み）

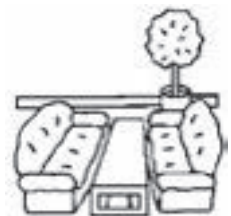
＊夏季休業中の一定期間は閉室します。

その他、大学行事等で開室できない日があります。

【場所】甲府東キャンパス B1 号館

306AB 待合室兼事務室

305A 305B 相談室



☆悩んだり、困ったときは、是非ご連絡をください。
解決に向けて一緒に考えていきましょう。

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室は、ハンディキャップ等何らかの理由により勉強や大学生活を送る上で支援を必要とする学生、教職員、学生サポーターをつなげる役割をしています。

よりよい学生生活を送るために、いつでもお気軽にご相談ください。

なお、学生からだけでなく、教職員並びに保護者からの相談にも応じています。

支援を希望する学生さんへ

支援を希望する学生は、窓口にご来校いただくか、メール又は電話でお問い合わせください。
プライバシーは厳守することをお約束します。安心してご相談ください。

学生サポーターを募集しています

ハンディキャップのある学生を支援する活動を行っていますので、関心のある方はご連絡ください。

お問い合わせ

☎ 電話：055-220-8706（平日8:30～17:15）

✉ E-Mail：sp-needs@yamanashi.ac.jp

📍 場所：甲府東キャンパス B1 号館 208B

🏠 ホームページ：http://www.sp-needs.yamanashi.ac.jp/

📘 facebook：https://www.facebook.com/spneeds/



学生サポーターの車イス学習会の風景



HP



facebook

学生サポーターの活動状況の一部を公開しています。

Ⅱ 学生生活の安全

- ◎ 学生生活の安全に関するマニュアル（「学生のための危機管理マニュアル」）が、本学ホームページ（在学生の方→学生生活案内→学生支援について→学生のための危機管理マニュアル）に掲載してありますので必ず御覧ください。

1. 交通事故の防止

近年、自転車・バイク等による交通事故が多発しています。

あなたが交通事故に遭遇した場合、連絡を受けた家族は、大きな不安を抱えて遠路であろうと夜間であろうと病院へ駆けつけてきます。また、あなたの交通違反や不注意が自身や家族の将来に重大な影響を与えてしまうことがあることを忘れずに生活してください。

自転車・バイク等に乗る際は、事前に任意保険に加入し、細心の注意を払い「ゆとりある運転」や「ゆずりあい」の気持ちを持ち、より安全に運転するよう心がけてください。

なお、万一事故に遭遇した場合は、救急車を呼ぶ・警察に通報する・大学へ報告する・保険会社に連絡するなどの措置をとってください。

学生に事故・病気などによる緊急事態が発生した場合、大学では家族への連絡を行います。

家族の住所や電話番号に変更が生じた場合は、速やかに教学支援部教務課又は医学域学務課に届出をし、万一の際に家族への連絡が取れない事態が発生しないよう留意してください。

2. 犯罪などからの防衛

学生が事件やトラブルの当事者（被害者）になるケースは年々増加しています。

盗難等の被害にあった場合は、警察へ通報するとともに速やかに大学へ連絡してください。

また、被害は、心身に関する被害であったり、金銭に関する被害であったりと様々ですが、次のようなケースに遭遇したときは、まず学生支援課の「学生相談窓口」に相談してください。

警察など関連機関と連携のうえ、解決を図ることができます。

- ストーカー行為をうけている・何らかの理由で脅迫されている場合
- 反社会的カルト宗教団体等からの勧誘等で苦慮している場合
- 詐欺商法などによる被害や携帯電話での不当請求などがあった場合

その他、学生の直面する様々な問題については、学生相談の組織が用意されていますので、まず相談してください。

3. 飲酒について

未成年の飲酒は法律で禁止されており、誰かに勧められてもきちんと断ることが大切です。また、飲酒は、適量を超えるとからだにさまざまな障害を与えます。飲酒する際には、「イッキのみは絶対しない・させない」・「飲めない人にはすすめない」・「飲酒運転は絶対にしない」などのことを厳守してください。

なお、特に短時間に大量のアルコールを摂取すると脳の働きが麻痺する危険性があり、急性アルコール中毒により心肺機能に異常をきたし、死に至ることもありますので十分注意してください。

4. 感染症について

インフルエンザ等の感染症と診断された場合は、学校保健安全法第 19 条に基づいて出席停止となります。他の人に感染させないために、できるだけ外出せずに、電話で保健管理センターに連絡してください。

感染症については、「国立感染症研究所 感染症情報センター」のホームページでも確認できます。

5. 災害の防止について

1. 火災の予防

大学構内での喫煙は、所定の場所で行ってください。教室・実験室等は禁煙です。また、構内での焚き火などはしないようお互いに注意しましょう。

2. 地震への対応

山梨県は、近い将来起こるであろうと予想されている、東海地震に係る地震対策強化地域に指定されていますので、常日頃から地震に対する心構えが必要です。大学や地域で実施される防災訓練などにも積極的に参加し、避難場所の確認なども行っておきましょう。

☆日頃の地震対策

(1) 家具の転倒・落下防止

タンスや食器戸棚が倒れてケガをすることのないよう、家具類はしっかりと固定しておきましょう。

(2) 出火防止

- ・地震が起こったらまず火を消しましょう。
- ・日頃から火を使うところの近くには、必ず消火器を置いておくようにしましょう。
(火が天井まで広がったら一人では消すことが出来ません。天井まで燃えひろがるまでの3分～5分が自分で消火できるチャンスです。)

(3) 食料・飲料水の備蓄

非常食料・飲料水は3日以上用意しておきましょう。

(4) 非常持ち出し品の用意

ヘルメット・ラジオ・懐中電灯・救急薬品など常に用意しておきましょう。

(5) 連 絡

下宿等で一人暮らしをしている人が、旅行等に出掛ける際には、必ず家族には連絡しておきましょう。

(6) 地震が起きたときの心得 10 カ条

- ① まず、わが身の安全を！ ⑥ 山崩れ、崖崩れ、津波、浸水に注意！
- ② すばやく火の始末！ ⑦ 避難は徒歩で、持物は少なく！
- ③ 火が出たらまず消火！ ⑧ 協力しあって応急救護！
- ④ あわてて外に飛び出すな！ ⑨ 正しい情報をつかみデマにまどわされるな！
- ⑤ 狭い路地、へいぎわ、がけや川べりに近寄るな！ ⑩ 秩序を守り衛生に注意！

(7) 警戒宣言が発令された場合

気象庁からの地震予知情報の報告を受けた場合において、地震応急対策を実施する緊急の必要があると認めた場合、総理大臣から警戒宣言が発せられますので、次の点に注意し冷静に行動してください。

ー 大学構内の場合 ー

- ① 授業及び課外活動を直ちに中止し、教員等の指示に基づいて避難してください。
- ② 実験・実習等を行っている場合は、直ちに火気を消すなどの安全措置を講じたうえで、避難してください。

ー 学外の場合 ー

- ① 広報に注意し、山梨県や市町村が実施する地震防災対策の指示に従ってください。
- ② 運転中の車は、ゆっくり走り警察官等の指示に従ってください。

(8) 大規模地震が発生した場合

ー大学構内にいたときー

その場で、自らの安全を確保して、(6)の「地震が起きたときの心得10カ条」を念頭に、教員等の指示のもとに、あわてず冷静に対処してください。

ー学外にいたときー

学外にいたときも、まずは、その場で身の安全を図り、その後「地震が起きたときの心得10カ条」に従って、あわてず冷静に対処してください。

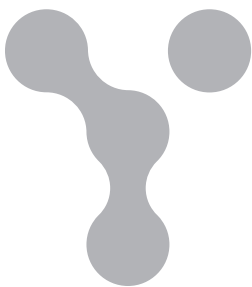
(9) 安否確認について

安否確認のため、山梨県における大規模災害発生（地震情報（震度5強以上）及び気象特別警報（大雨・暴風雪等））の際、事前に登録された携帯メールアドレス等へ本学から安否確認メール等を送信します。受信した安否確認メール等の文面の指示に従い、大学へ安否状況を回答してください。安否確認メール等は、「携帯メールアドレス等」と「学籍番号@yamanashi.ac.jp」アドレスの両方に送信されますので、何れか一つのアドレスから回答ください。

(携帯メールアドレス等を登録されていない方は、

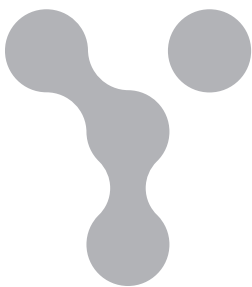
「学籍番号@yamanashi.ac.jp」のみに送信)

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 5 horizontal dotted lines.

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 5 horizontal dotted lines.



進路支援 国際交流

- ◎進路支援事業
キャリアセンター
- ◎交流協定・海外留学等



進路支援・国際交流 目次

I 進路支援

1. 進路支援事業	65
2. 進路支援体制	66
3. キャリア・アドバイザー制度	66
4. キャリアセンターの利用案内	66
5. 進路資料室（看護学科）の利用案内	66

II 国際交流

1. 交流協定の締結状況	67
(1) 大学間交流協定	
(2) 学部間交流協定	
2. 海外留学	68
(1) 交換留学制度	
(2) 交流協定校での短期研修	
(3) 留学支援制度	
3. 外国人留学生の受入れ	71
(1) 在籍の状況	
(2) 外国人留学生へのサポート	
4. 国際交流センター	72

I 進路支援

窓口

甲府キャンパス：キャリアセンター、各学部学科（専攻）就職担当教員
医学部キャンパス（看護学科）：医学域学務課

キャリアセンターでは、学生が大学で身につけた知識や経験を生かし、自分が本当にやりたい仕事につき、充実した人生が送れるよう様々な面からサポートします。就職支援は、就職情報の提供のほか、企業、教員、公務員と進路に合わせたガイダンスや面接対策等の講座を開催します。

また、キャリア・アドバイザー制度を設け、経験豊かなスタッフが、きめ細かくそれぞれの就職活動をサポートします。

1. 進路支援事業

入学から卒業までの間に、企業、教員、公務員といった、それぞれの進路希望に応じた、「全学就活ガイダンス」や「教員採用候補者選考試験対策講座」のほか、「業界・企業研究会」、「個別企業セミナー」、「官公庁（行政機関）等合同セミナー」、「インターンシップ」、「合同企業説明会」などの進路支援事業を展開しています。

「キャリアセンター」では、下記の進路支援事業を実施します。

- ・就職、進学等、学生への支援方策の策定及び実施
- ・低学年からの進路形成に必要な方策の策定及び実施
- ・学生のキャリア形成に必要な方策の策定及び実施
- ・学生の進路に係る調査及び分析
- ・進路支援事業の企画・実施及び進路情報の提供

具体的な事業内容

キャリア教育	進路支援	進路相談
① キャリア形成科目の開講	① 業界・企業研究会、個別企業セミナー、官公庁（行政機関）等合同セミナー、全学就活ガイダンス、合同企業説明会 ② 就職情報会社（ナビサイト）主催の各種ガイダンス等へのバスツアー（無料「就活」バス） ③ 教員採用対策ガイダンス、教員採用候補者選考試験対策講座 ④ 公務員試験対策ガイダンス、公務員試験対策講座 ⑤ 面接対策講座、マナー講座 ⑥ インターンシップの支援・コーディネート（マッチング等） ⑦ 求人情報、企業情報、大学院情報などの進路情報の提供	① 本学のキャリア・アドバイザーによる個別相談 ② 「甲府新卒応援ハローワーク」のキャリア・カウンセラーによる個別相談 ③ 「ジョブカフェやまなし」のジョブサポーターによる個別相談

2. 進路支援体制

各学部には、コース（系）・学科毎に就職（進路）担当教員が配置され、進路相談にあたっています。また、甲府キャンパスにはキャリアセンターを設置し、進路・就職に関する支援を行うとともに、大学院・編入学などの進学資料の収集・提供をしています。キャリアセンターでは、収集した資料の閲覧とパソコンを利用した進路情報の検索等が自由に行うことができます。

3. キャリア・アドバイザー制度

自分の将来を考えるうえで大切なものは、自分がどのように生きるか、どうありたいかという、自身の未来を考えることです。その先にある「就職」と「キャリア開発」を支援するため、企業や教員の経験豊富なスタッフ（キャリア・アドバイザー）による指導・助言を行います。

4. キャリアセンターの利用案内

利用時間	平日 8:30~17:15 夏季・冬季・春季休業期間中でも開室しています。
利用設備・資料	詳細は、P103をご覧ください。
各種ガイダンス の案内と申込み	キャリアセンター ↓ YINS-CNS（キャンパス・ネットワーキング・サービス）で案内を発信。 学 生 ↓ YINS-CNS に記載のある URL 又はキャリアセンターホームページ（http://www.career.yamanashi.ac.jp/）より申込み入力。 キャリアセンター 申込み受付登録完了。

5. 進路資料室（看護学科）の利用案内

医学部看護学科教育研究棟 6 階に、看護学科学生のための進路資料室があります。資料室は就職に関する資料が揃えてあり、自由に利用することができます。

- (1) 利用時間 24時間
- (2) 利用設備・資料

設 備	パソコン、テレビデオ、コピー機
資 料	都道府県別求人票、先輩の進学・就職試験報告書 就職活動関係図書

Ⅱ 国際交流

窓口

甲府キャンパス：国際企画課
医学部キャンパス：医学域学務課

1. 交流協定の締結状況

本学では、下記の大学等と交流協定を結び、研究者や学生の交流を行っています。

(1) 大学間交流協定

国 名	交 流 協 定 校	備 考
中 国	四川大学	
	中国医科大学	
	中国科学院化学研究所	
	内蒙古医科大学	
	杭州電子科技大学	春季語学・文化研修実施
	福建医科大学	
	瀋陽薬科大学	
	西南交通大学	
	北京協和医学院	
	中華人民共和国外交学院	
タ イ	コンケン大学	交換留学実施
	タマサート大学	
アメリカ合衆国	イースタン・ケンタッキー大学	交換留学・夏季語学/文化研修実施
	アイオワ大学	春季語学/文化研修実施
イギリス	レスター大学	春季語学/文化研修実施
	オックスフォード・ブルックス大学	交換留学実施
オーストラリア	シドニー工科大学	交換留学実施
	ニューカッスル大学	
インドネシア	インドネシア大学医学部	
	ジョグジャカルタ大学	
ドイツ	ドレスデン工科大学	交換留学実施
	ミュンヘン工科大学	
	ゲオルグ・ジモン・オーム工科大学	
	ニューデンベルグ	

進路支援
・国際交流

国 名	交 流 協 定 校	備 考
フランス	リヨン第三大学	交換留学実施
	ボルドー大学	
韓 国	ソウル大学	
	テグキョンブク科学技術院	
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学 イギリス・ラガー・インスティテュート	夏季語学/文化研修実施
ベトナム	ベトナム科学大学	
	ホーチミン市校科学大学	
マレーシア	マレーシア大学ペルリス	
	パハン大学	
	マレーシア工科大学	
ミャンマー	パテイン大学	
スロベニア	リュブリャナ大学	

(2) 学部間交流協定

国 名	交 流 協 定 校	学 部 名
ドイツ	ルートヴィヒスブルク教育大学	教育学部
タイ王国	ボロマラジョナニナパパートバジラ看護大学	医学部
	コンケン大学医学部	
スウェーデン	ストックホルム医科大学カロリンスカ研究所	
インド	日印再生医療センター	
中 国	大連医科大学	
	揚州大学医学部	
ベトナム	ホーチミン市医科薬科大学	
カナダ	アルバータ大学	
韓 国	漢陽大学校セラミック工程研究センター	工学部
インドネシア	ブラビジャヤ大学工学部	
中 国	西南交通大学交通運輸学院	
タイ王国	ナレスアン大学	生命環境学部
スリランカ	ルフナ大学	

2. 海外留学

(1) 交換留学制度

本学では、交流協定校である大学と交換留学を行っています。

交換留学とは、本学と交流協定校との間で学生を相互に交換・交流するもので、この期間は在学年数に加算されます。



また、交換留学中の留学先大学における検定料、入学料及び授業料は不徴収になるなどいくつかの優遇措置があります。加えて、日本学生支援機構の奨学金が給付されることもあります。

交換留学プログラムへの申請には、TOEFL、IELTS などの外国語試験の点数が必要ですので、日頃から学内 TOEFL などを積極的に受験してください。

イースタン・ケンタッキー大学への交換留学には学内 TOEFL (TOEFL-iTP) の結果も利用できます。留学に関する手続きについては、国際企画課に問い合わせてください。

交流協定校 (留学先)	実施時期	実施 期間	申請 時期	募集 人員	29年度実績		語学力の目安
					派遣	受入	
イースタン・ ケンタッキー大学 (米国)	8月～ 5月	10ヶ月	3月 下旬	3名 以内	3名	1名	TOEFL-iBT61 点 以 上 又 は 学 内 TOEFL500 点 以 上、英検準 1 級以上
	8月～12月	5ヶ月					
	1月～12月	12ヶ月	7月 月上旬				
	1月～ 5月	5ヶ月					
シドニー工科大学 (オーストラリア)	7月～ 6月	11ヶ月	2月 月上旬	5名 以内	0名	3名	Austrian Language and Cuture コース TOEFL-iBT35 点 以上又は IELTS5.0 以上 他に学部コース有
	7月～11月	5ヶ月					
	2月～11月	10ヶ月	9月 中旬				
	2月～ 6月	5ヶ月					
ドレスデン工科大学 (ドイツ)	4月～3月	12ヶ月	11月 下旬	3名 以内	0名	1名	the Goethe-Zertifikat B1 テスト合格以上
	10月～9月	12ヶ月	4月 月上旬				
オックスフォード・ ブルックス大学 (英国)	9月～5月	9ヶ月	3月 月上旬	2名 以内	0名	2名	学部コース： IELTS6.0 以上 語学研修コース： IELTS5.5 以上
コンケン大学 (タイ)	8月～5月 又は7月	10ヶ月又 は 12ヶ月	4月 月上旬	3名 以内	0名	1名	タイ語又は英語で意 思疎通する能力があ ること。
	1月～12月	12ヶ月	9月 月上旬				
リヨン第三大学 (フランス)	8月～4月	9ヶ月	3月 月上旬	2名 以内	0名	2名	DEUF/CEUF:仏検準 2級以上 SELF:学内 TOEFL 80 以上、TOEFL iTP560 以上又は IELTS6.5 以上
	8月～12月	5ヶ月					
	1月～4月	4ヶ月	9月 月上旬				

(2) 交流協定校での短期研修

本学では、夏季及び春季休業中に語学研修や文化研修を次頁のとおり実施しています。

詳細については、実施時期にあわせてパンフレットや本学のホームページ等でお知らせします。

交流協定先 (留学先)	実施時期	実施期間	申請時期	募集人数	29年度 参加者	備 考
イースタン・ケン タッキー大学英 語・文化研修+海外 インターンシップ (米国)	8月中旬 ～9月中旬 (予定)	5週間	4月下旬	15名	10名	4週間の語学研修中 現地大学で様々な交 流イベントに参加しま す。 語学研修中・研修後 に現地の企業、また は教育機関でインターン シップを行います。
アイオワ大学英 語・文化研修+海外 インターンシップ (米国)	2月中旬 ～3月中旬 (予定)	4週間	10月上旬	15名	10名	アイオワ大学における英 語研修のほか、インター ンシップではホームステイを しながらそれぞれの専 門に合った業務内容 を身近で見学するこ とができます。
ブリティッシュ・コ ロンビア大学 English Language Institute 英語研修 (カナダ)	8月上旬 ～下旬	3週間	4月下旬	20名	17名	英会話力の向上、国 際感覚の醸成とカナ ダ市民社会理解を目的 とした学習と、ホーム ステイでの実践を行うプ ログラムです。
レスター大学 英国研修 (英国)	2月中旬 ～3月中旬	4週間	10月上旬	15名	7名	英語力とコミュニケーション 力向上を目的とした 学習と、英国文化体 験を行います。全 日程ホームステイです。
ノーザン・アイオ ワ大学英語・文化 研修 (米国)	2月中旬 ～3月中旬	4週間	10月上旬	5名～	3名	課題解決型授業 (PBL) が体験でき、 授業内ではノーザン・アイ ワ大学生と協力しながら 製品デザインを行いま す。ホームステイ体験も できます。
杭州電子科技大学 中国語研修及び日 系企業におけるイ ンターンシップ (中国)	3月上旬 ～3月下旬	2週間	10月上旬	15名	16名	中国語学習及び中国 文化体験などを通し て異文化コミュニケーション を体得します。 後半1週間はテルモ 杭州工場にてインターン シップを行います。

(3) 留学支援制度

① 山梨大学海外留学応援プログラム

この制度は、8日以上期間で、海外の本学協定大学等において学習又は研究することを目的とする学生の派遣支援を行います。6ヶ月以上の留学等を行う学生1人につき10万円、6月末満の留学を行う学生については5万円～7万円を支給します。

② 山梨大学秋山勝彦グローバル人材育成奨学支援金

この制度は、学術・研究のグローバル化を見据え、医学部、工学部及び大学院医工農学総合教育部（工学域及び医学域）の学生並びに大学院総合研究部（工学域及び医学域）の若手研究者（医学部附属病院の若手医師を含む。）の研究活動及び人材育成の支援を行います。

3. 外国人留学生の受入れ

- (1) 在籍の状況 在籍者数 178名：22カ国（平成29年11月1日現在）

本学では、世界の各国から外国人留学生を受け入れています。

留学生の出身国・地域は、次のとおりです。

中国、マレーシア、ベトナム、バングラデシュ、ネパール、スリランカ、インドネシア、タイ、ドイツ、韓国、グアテマラ、ルーマニア、イギリス、スーダン、パキスタン、フランス、台湾、オーストラリア、モロッコ、インド、ガーナ共和国、ハンガリー

- (2) 外国人留学生へのサポート

本学では、外国人留学生に対して次のような支援を行っています。

① チューター制度

チューター制度は、入学後一年目の大学院生や研究生の留学生、及び勉学に不安のある学部生の留学生に対し、指導教員やクラス担任教員の指導の下で、上級生や同学年の学生がチューターとして、主に研究や勉学、日常生活における個別の相談に応じる支援制度です。当該留学生とその指導教員、及びクラス担任教員が必要と認めた場合に、チューター学生を選定することができます。

② 留学生ボランティア制度

留学生ボランティア制度は、学部一年生の留学生と同学年・同学科の学生が自薦・他薦でボランティア学生として登録し、基本的には一年間、留学生と勉学や交流を行う制度です。新年度当初にボランティアとして登録した後は、自発的教養科目（ボランティア活動）として活動実績が要件を満たせば、1単位取得できます。この単位を取得するためには、教養教育科目の「ボランティア理論」、または「ボランティアとサービスマーケティング」の単位取得が別途必要です。

③ 留学生への奨学金給付

学業、人物ともに優れ、かつ、経済的理由により修学が困難である私費外国人留学生に対して学習奨励費等の奨学金給付制度があります。



④ 留学生のための居住施設

本学には、留学生、研究者の居住用に下記の寄宿舍が設置されています。寄宿舍名及び居室数は、次のとおりです。

寄 宿 舎 名	居 室 数
甲 府 国 際 交 流 会 館	単身室 33 室、夫婦室 1 室、家族室 1 室
甲府国際交流会館 甲斐路分館	単身室 5 室
玉穂国際交流会館	単身室 12 室、夫婦室 6 室、家族室 5 室
芙蓉寮（男性のみ）	単身室 30 室
紫遥館（女性のみ）	ワンルーム 3 室

⑤ 民間アパートへ入居する際の支援

・連帯保証人の機関保障

留学生が、民間のアパート等に入居するため賃貸借契約を結ぶ際に連帯保証人が必要な場合、学部学生については所属の学部長、大学院生及び研究生については受入指導教員が連帯保証人になります。ただし、留学生住宅総合補償制度に加入するなどの条件があります。

・アパートを借りた場合の補助金の支給

留学生本人がアパートの賃貸借契約をした場合は、入学時の1回に限り住宅補助金が支給されます。

ただし、申請書及び必要書類の提出が必要になります。

⑥ 留学生後援会による経済支援

・留学生が不測の事態等により、経済的負担が大きく、生活維持が極めて困難となったとき、その留学生を支援するために見舞金を支給、または一時金を貸与します。

・本学の留学生は全員、留学生後援会からの支援により学生教育研究災害傷害保険及び付帯賠償責任保険に加入します。

国内外における正課中、学校行事中、課外活動中、通学中の事故により身体に障害等を被った場合、本保険給付により補償されます。

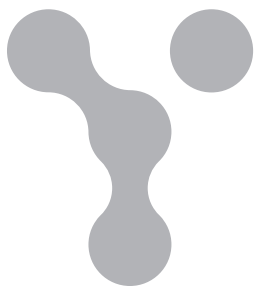
4. 国際交流センター

国際交流センターは、外国人留学生・日本語が母語でない学生のための日本語教育および修学・生活上の指導・相談、本学の国際交流の推進への寄与、交流協定校への海外留学に関する指導・支援、またこれらの分野での調査・研究の促進などを行っています（国際交流センターに関する詳細は101ページをご覧ください）。

国際交流センターには、留学生相談室も設置されています。困ったことがあったら、気軽に相談してください。留学生相談室の連絡先は、電話:055-220-8753、e-mail: takaei●yamanashi.ac.jp（●を@に変えてください）です。

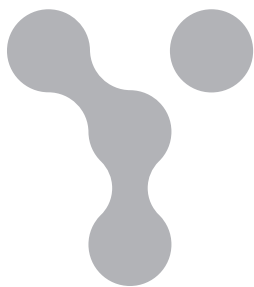
また、海外留学についての相談は、055-220-8152、kokumura●yamanashi.ac.jp（●を@に変えてください）で受け付けています。

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 5 horizontal dotted lines.

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 5 horizontal dotted lines.



環境宣言 構内規制 情報倫理

- ◎山梨大学環境宣言
構内規制
- ◎情報セキュリティポリシーの遵守



環境宣言・構内規制・情報倫理 目次

I 山梨大学環境宣言	77
II 構内規制	
1. 構内交通規制について	79
甲府キャンパス交通規制図	81
医学部キャンパス交通規制図	82
2. 構内喫煙規制	83
III 情報セキュリティポリシーの遵守	85

I 山梨大学環境宣言

「山梨大学環境宣言」について

本学は、一人ひとりが環境に関心をもち、次世代に誇れる環境を継承していくための日常的な活動が不可欠であるとの観点から、2002年4月1日に「山梨大学環境宣言」を制定しました。

また、本学では山梨大学環境宣言の基本理念や基本方針の達成のため、身近な活動の指針として、「環境活動12か条」を設置しています。

学生の皆さんも、よりよい環境を目指して、資源やエネルギーを無駄にしないよう、日々の生活において次の「環境活動12か条」に心がけるなど、具体的な環境活動の取り組みを行ってください。

「環境活動12か条」

- 1 照明はこまめに消しましょう。
- 2 節水に努めましょう。
- 3 電気製品の unnecessary なつけっ放しは止めましょう。
- 4 紙の無駄な使用を控えましょう。
- 5 暖房室温は低めに設定しましょう。
- 6 エアコンの過度な使用を控えましょう。
- 7 エレベータの使用を控えましょう。
- 8 徒歩や自転車を利用しましょう。
- 9 省エネルギー機器などのグリーン購入に心がけましょう。
- 10 廃棄物やごみの分別処理を心がけましょう。
- 11 大学内での環境マナーを守りましょう。
- 12 環境保全のための活動には、大学の内外において積極的に参加しましょう。

山梨大学環境宣言

基本理念

人類が21世紀をより良く生きるためには、人間の社会的行動によって起こる地球環境への負荷を軽減し、物質循環を基本とするゼロエミッションの社会を構築する必要があります。このような持続性のある循環型社会を構築し、維持していくことは私たちの責務であり、これらに向けた取り組みは必要不可欠であります。

本学では、よりよい環境を目指して、教育及び学術研究の面から地球環境の向上に貢献するための環境活動を実施するものであります。

基本方針

本学は、基本理念を実現するために、職員及び学生など、本学に関わる全ての人々の協力のもとに、それぞれの立場で「個人として」、「組織として」、自発的・積極的に環境活動に取り組みます。

- (1) 地球環境の保全・改善活動を推進するために、教育及び学術研究活動を通じて、循環型社会を担う21世紀に必要な人材を育成するとともに、教育啓発活動を積極的に展開します。
- (2) 環境目的及び目標を設定し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- (3) 循環型社会の実現を目指し、廃棄物の減量化、再利用、リサイクルなどにより、省資源・省エネルギーに取り組み、環境維持・改善と汚染予防につとめます。
- (4) 適用される環境関連の法規、規制、協定、自主基準などを遵守します。
- (5) 山梨県における環境活動に積極的に参画し、地域環境の保全・改善活動を支援します。
- (6) この環境宣言は文書化し、大学ホームページなどを通じて、職員・学生など、本学に関わる全ての人々に周知するとともに、地域社会へも公開し、また、環境活動への取り組みを公表します。

2002年10月1日

山 梨 大 学 長

Ⅱ 構 内 規 制

1. 構内交通規制について

甲府キャンパス

甲府キャンパスでは、教育・研究の場にふさわしいより静かで安全な環境を保つため、下記のように構内交通規制を実施しています。学生の皆さんの理解と協力をお願いします。

記

(1) 入構について

- ① 通学のための自動車の入構は原則として禁止しています。
- ② 入構できる自動車は、駐車場の使用許可を受けた者の自動車、公用車及び緊急車両等とします。
- ③ 二輪車の入構については、特に許可を必要としませんが、近距離通学の場合は、できるだけご遠慮願います。
- ④ 各校門において入構できる車両は、次のとおりとします。

	甲府西キャンパス					甲府東キャンパス				
	正門	西北門	中央西門	西門	駐輪場通用口	中央東門	東門	南門	東南門	駐輪場通用口
自 転 車	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
原動機付自転車	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
自 動 二 輪 車	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
自 動 車	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—

(2) 構内における駐車・駐輪について

- ① 所定の駐車場・駐輪場以外の場所への駐車・駐輪を禁止します。
- ② 駐車場・駐輪場等の位置は、甲府キャンパス構内交通規制図に示すとおりとします。
(なお、構内の駐輪場は、いずれも多くの利用があるため、なるべく奥の方から整然と駐輪し、満車状態の場合は他の駐輪場へ回るなど、相互に快適な利用ができるよう留意してください。)

【二輪車（原付、自転車含む）によるキャンパス構内での走行禁止について】

キャンパス構内の二輪車での走行は、歩行者の安全並びに接触事故等の防止のため、全面禁止となっています。キャンパス所定の駐輪場への駐輪の際には、最寄りの校門から入構をお願いします。

（３） その他

教育研究上又は身体上の理由等により、自動車で甲府キャンパスに入構したい場合または構内駐車場を利用したい場合は、指導教員等の了解のもと下記窓口にて所定の手続きを行い、許可を受けてください。

なお、平日の 17：00 から 22：00、および土曜、日曜、祝祭日の 8：30 から 22：00 の間については、課外活動等への利便性を考慮して、学生の自動車での入構を一時的に許可しています。入構を希望する際は、総合案内所にて所定の手続きを行ってください。（年末年始の休業期間を除く。）

（窓口：施設・環境部施設企画課資産管理室（総合研究棟 1 階））

医学部キャンパス

医学部キャンパスでは、下記のように構内交通規制を実施しています。
学生の皆さんの理解と協力をお願いします。

記

- 乗用車での通学については、学生会の許可を得てください。詳細については、学生会からの掲示によりお知らせします。
- 二輪車での通学については、必ず所定の駐輪場に駐車してください。
- 駐車場・駐輪場等の位置は、医学部キャンパス構内交通規制図に示すとおりとします。乗用車は東口一般ゲートから入構してください。
- 所定の駐車場・駐輪場以外の場所への駐車・駐輪を禁止します。

両キャンパスの交通規制図は、次ページに掲載してあります。

〔甲府西キャンパス構内〕

バイク専用(40台) 至

大村智記念学術記念館(建設中)

〔甲府東キャンパス構内〕



G: 外来者の自動車、荷物車進入ゲート

：自轉車進入可能範圍及び駐輪場

原動機付自転車、自動二輪車
進入可能範囲及び駐輪場

自轉車、自動機付自轉車、自動二輪車
進入可能範圍及び駐輪場

——：車兩進入禁止線

：外来者の自動車、荷物車、駐輪場

・環境宣言
・構内規制等

2. 構内喫煙規制

受動喫煙防止対策について

学生の皆さんは、平成 15 年 5 月 1 日から施行された「健康増進法」をご存知ですか。

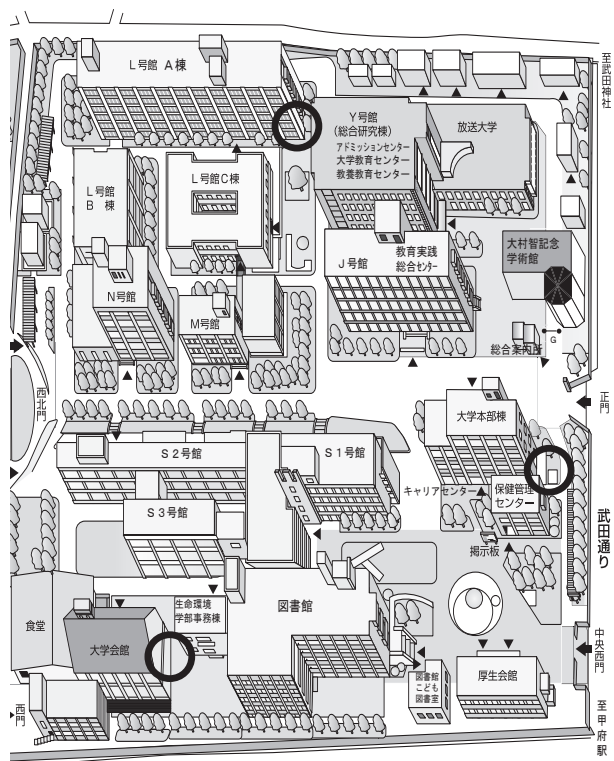
この法律の第 25 条で、受動喫煙による健康への悪影響を排除するために、多数の者が利用する施設（学校、体育館、病院、劇場、集会場、官公庁施設など）の管理者は、受動喫煙防止のために必要な措置を講ずる努力を求められています。

この法律に基づき、本学では構内における喫煙状況や施設の構造等を踏まえ、「分煙」を徹底することとし、受動喫煙防止対策を次のように進めていますので、下記の点について、皆さんのご協力をお願いいたします。

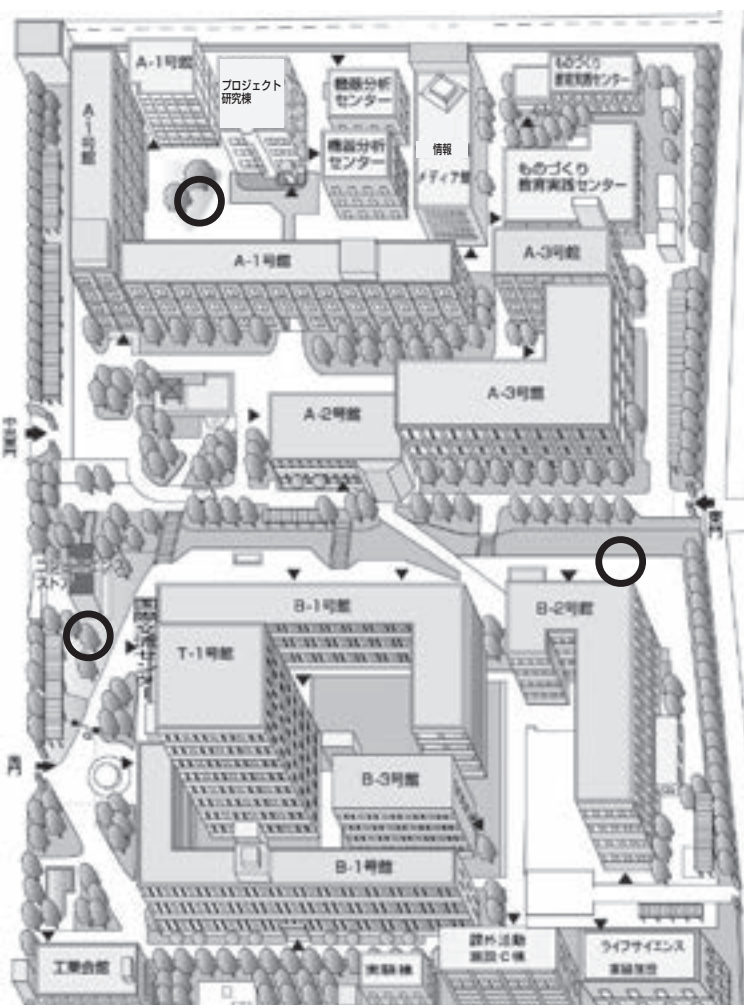
- 構内においては指定場所以外での喫煙をしない。
- 歩行喫煙や吸い殻のポイ捨てをしない。

ゴミ問題への意識を高め、ポイ捨てのないクリーンなキャンパスづくりにご協力ください。

甲府キャンパス喫煙室設置場所

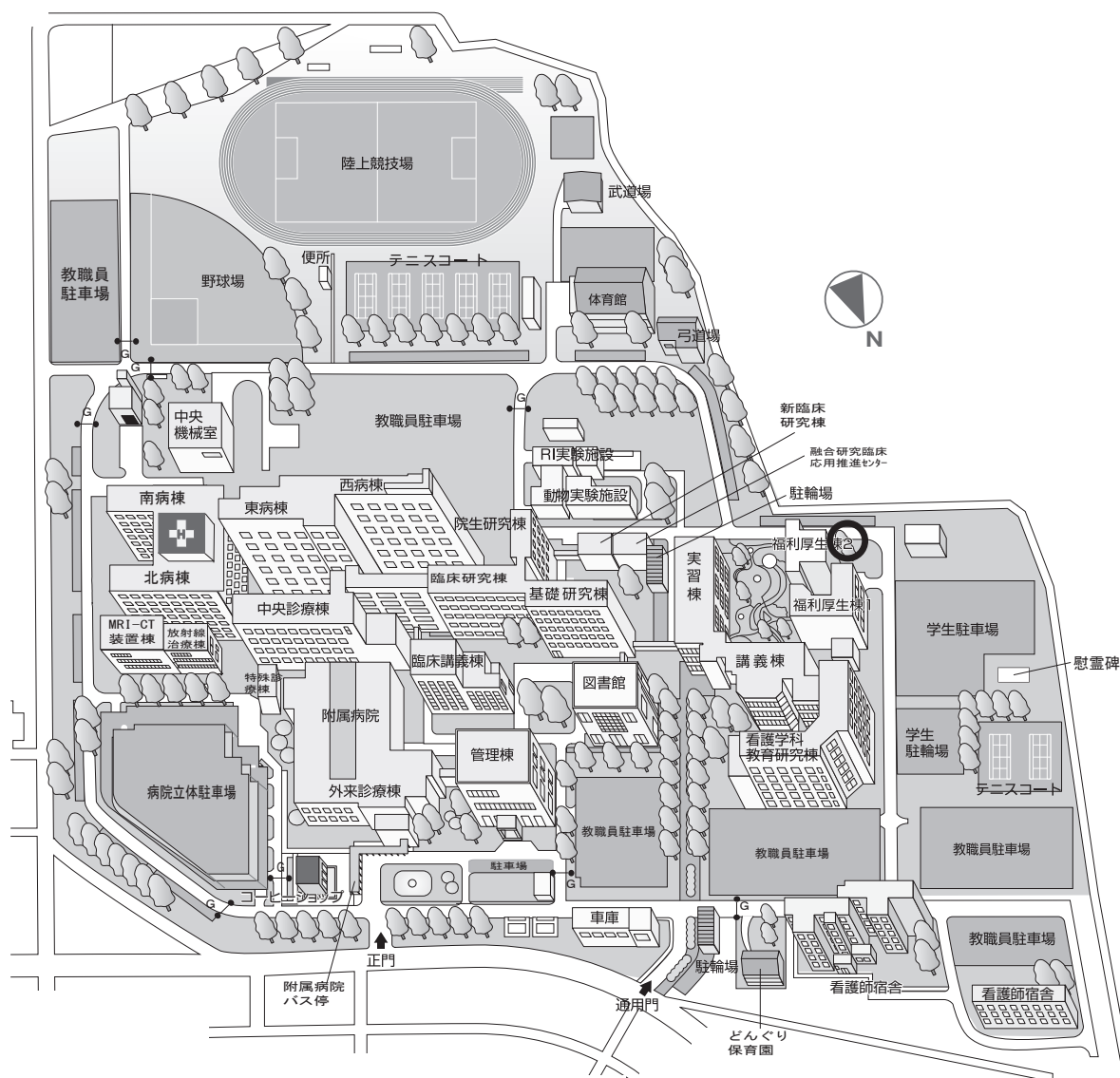


○ 「喫煙室」設置場所
喫煙室以外での喫煙は禁止



環境宣言
・構内規制等

医学部キャンパス喫煙室設置場所



○ 「喫煙室」設置場所
喫煙室以外での喫煙は禁止

Ⅲ 情報セキュリティポリシーの遵守

総合情報戦略機構長

学生の皆さんへ

あなたが**コンピュータ犯罪者**にならないように気をつけて！

山梨大学では、大学内の大切な情報資産を守り、個人情報保護法や不正アクセス禁止法等に抵触することが無いように、「情報セキュリティポリシー」を定めています。皆さんは山梨大学の構成員として、これらの規則を守らなければなりません。

皆さんに関係する代表的な違反事例は次の通りです。これらは**個人情報保護法**や**著作権法**、**不正アクセス禁止法**に反する**犯罪行為になります**ので、絶対に行ってはなりません。また、このような、違法行為を見つけた場合は通報する義務もあります。情報化社会では「いたずら」ではすまされないと認識しましょう。

- 学内から名簿情報や成績一覧ファイルなどの個人情報を持ち出すこと
- 著作権のある音楽、映画、書籍や雑誌、ゲームソフト、パソコンソフトなどを複製（コピー）し、配布（販売）したり利用すること
- ファイル共有ソフト（BitTorrent や Perfect Dark などの総称して「P2P」ソフトと呼ばれるソフトウェア）を利用すること
- 学内外の掲示板に、他人を誹謗中傷する事項や、他人の個人情報を書き込むこと
- 他人のシステムパスワードを盗み（許可無く知り得た場合も含む）、他人になりすますこと

皆さんが守らなければならない規定や規則の情報は、下記にあります。必ず目を通しておいてください。

- 「個人情報保護法」に関する情報：
<https://www.yamanashi.ac.jp/about/138>
- 「情報セキュリティポリシー」に関する情報：
<https://www.yamanashi.ac.jp/about/131>

ウイルス対策を行っていないパソコン及び OS（Windows10 等）やアプリケーションソフトのアップデートをしていないパソコンを学内ネットワークに接続してはいけません。

必ず、アンチウイルスソフトをインストールし、普段から OS やアプリケーションソフトのアップデートをすることを心がけて下さい。

自分自身とパソコンを守る為に必須の行為です!!

個人情報を保存したパソコン（フラッシュメモリ等も含む）が紛失、盗難に遭った場合やウイルスに感染した場合は、直ちに下記へ連絡してください。

- 紛失や違反等の報告先：所属学部の学科・講座、研究室の教員（担任等）
- 技術的な問題：総合情報戦略部情報システム課
（電話：055-220-8085, E-mail：ipc@yamanashi.ac.jp）



個人情報の保護、情報セキュリティを確保するため、 このようなことに心がけましょう

総合情報戦略機構

①パスワードの管理は徹底して

パスワードの正しい管理は、情報システムを利用する上で必要不可欠なことです。以下のことに心がけましょう。

1. 安全なパスワードの作成
(1) 名前などの個人情報からは推測されないようにする。
(2) 英単語などをそのまま使用しない。
(3) アルファベット、数字、記号等を混在させる。
(4) 適切な長さの文字列にする(8文字以上が望ましい)。



2. パスワードの管理

- (1) パスワードは、友人などにも教えないで秘密にする。
- (2) パスワードのメモを作ったり、ディスプレイなどにそのメモを貼ったりしない。
- (3) パスワードをWebブラウザなどのソフトウェアに記憶させない。
- (4) パスワードは定期的に変更する。
- (5) パスワードを入力する場合は、他人に見られないようにする。

②コンピュータを使用中のまま席を空けない



コンピュータを使用中のまま席を空けると、第三者に悪用され大きなトラブルに巻き込まれる可能性があります。また、自分自身ばかりでなく他人のプライバシーが危機に瀕するばかりか、他のユーザーやネットワーク組織に重大な問題を引き起こしてしまってからでは取り返しがつきません。

席を空けるような場合は、コンピュータの電源を切る、またはスクリーンセーバーのパスワードロック等の処理を行いましょう。

③情報管理は徹底して

ゴミとして捨てられたプリントアウトなどから情報が漏れるなど、案外、意外なところから情報が漏れることがあります。また、外部記憶装置(媒体)などは容易に悪意のある第三者に持ち去られてしまいます。

以下のことに心がけましょう。

1. 書類での重要な情報や個人情報を処分する場合には、シュレッダー等により絶対に復元できないようにする。
2. 重要な情報や個人情報が記録された書類やUSBメモリ等の記憶媒体をむやみに外に持ち出したり、机の上に放置したままにしない。また、記憶媒体をやむなく外部に持ち出す場合や機密性の高い情報はデータを暗号化して、万一の紛失・盗難等の事故に備える。
3. 内外から持ち込んだディスクドライブ等の外部記憶装置(媒体)を安易に自分のパソコンに接続しない。(事前のウイルスチェック等を行う)また、これらは保管場所や装置(媒体)自体の施錠などで物理的盗難を予防する。



④バックアップ



何時どのようなときにコンピュータのデータが使用できなくなるかわかりません。

不慮の事故等に備え、重要なデータは定期的にバックアップし、大切に保管しておきましょう。

⑤コンピュータの廃棄や譲渡等は適切に

不要になったコンピュータのデータを削除し、ゴミ箱を空にしただけではデータは完全に削除されません。

実は、復活ソフトを使うと、ごみ箱から削除しただけでは、データを簡単に元通りにすることが可能です。ごみ箱だけではなく、ハードディスクのフォーマットでも同様のことが言えます。

データ消去ソフトを使ってデータを消去するか、信用できる専門業者にハードディスク内のデータを抹消してくれるよう依頼しましょう。



⑥被害に遭ったとき



被害を最小限に食い止めるためには迅速な対応が必要です。

不正侵入、データ改ざん、データ流出等の被害が発生した場合は、直ちに所属部局における情報セキュリティの責任者又は担当者に連絡して指示を仰いでください。

⑦あやしい電子メールは開かない

日常やり取りしているメールにウイルスが添付されている場合があります。

ウイルス付きのメールの場合、変な表題だったり、添付ファイルの拡張子がおかしかったりします。

ウイルスには、添付ファイルを開いた時点で感染するものや、メールの本文を開いただけでも感染するものがあります。

おかしいと思ったメールは開かず捨てましょう。その際、捨てたゴミ箱の中も空にしましょう。



⑧安易なダウンロードをしない



ホームページから無償でダウンロードできるフリーソフトなどがありますが、安易なダウンロードによって、ウイルスの感染のほか、ハードディスクの情報が盗まれたり、破壊されたりなどの深刻な被害を受けることがあります。被害を防ぐため、信頼できるサイト以外からはプログラムのダウンロードを避けるようにしましょう。

⑨ホームページに注意

ホームページの中には個人情報の取得を目的としたものや、ウイルスが潜んでいるものもあります。あまり健全でないものや、甘い裏的な印象を受けるホームページは避けましょう。

また、突然データの送信を要求してくるようなサイトも危険ですので、その場合はデータ送信を拒否してください。



⑩ウイルス対策ソフトは常に最新の状態に

ウイルス対策ソフトでは、コンピュータウイルスを検出し駆除することができます。

しかし、ウイルス対策ソフトをインストールすれば万全というわけではありません。それが対応していない新種のウイルスであれば感染してしまいます。

ウイルスの感染を極力防止するためには、ウイルス対策ソフトを常に最新の状態にすることが重要です。



⑪ウイルスに感染した場合

ウイルスに感染した場合は、そのままシステムを使用し続けると感染拡大の恐れがありますので、速やかにパソコンのLANケーブルを抜きネットワークから切り離してください。

その後、所属部局における情報セキュリティの責任者又は担当者に連絡し、指示を仰いでください。



⑫セキュリティレベル

全体ではどんなにセキュリティレベルが高くても、部分的(個人的)に低いところがあれば、そこから侵入されます。

そのため、最もセキュリティレベルの低い部分が組織全体のセキュリティレベルとなります。一人ひとりが責任をもって情報セキュリティに取り組みましょう。





学内附属施設等 学内共同教育研究施設

- ◎附属図書館
- ◎保健管理センター
- ◎教育国際化推進機構
 - アドミッションセンター
 - 教養教育センター
 - 大学教育センター
 - 国際交流センター
 - キャリアセンター
- ◎機器分析センター
- ◎総合情報戦略機構
- ◎クリーンエネルギー
研究センター
- ◎総合分析実験センター
- ◎燃料電池ナノ材料
研究センター
- ◎地域未来創造センター
- ◎男女共同参画推進室



学内附属施設等
学内共同教育研究施設 目次

附属図書館

趣旨・目的	89
利用心得	89
電子図書館サービス	89
1. 本館（甲府キャンパス）.....	90
2. 医学分館（医学部キャンパス）	93

保健管理センター	95
----------------	----

教育国際化推進機構	97
-----------------	----

アドミッションセンター	98
-------------------	----

教養教育センター	99
----------------	----

大学教育センター	100
----------------	-----

国際交流センター	101
----------------	-----

キャリアセンター.....	102
---------------	-----

機器分析センター	104
----------------	-----

総合情報戦略機構	106
----------------	-----

クリーンエネルギー研究センター	108
-----------------------	-----

総合分析実験センター	110
------------------	-----

燃料電池ナノ材料研究センター	111
----------------------	-----

地域未来創造センター	113
------------------	-----

男女共同参画推進室.....	114
----------------	-----

附属図書館

趣旨・目的

図書館は、図書や学術雑誌その他必要な資料を収集・整理・保存・提供し、併せて学術情報システム提供の場として機能することにより、山梨大学における教育・研究を支援するとともに、地域社会の知的情報基盤としての役割を果たすことを目的としています。

利 用 心 得

- ① 図書館内での飲食・喫煙はご遠慮ください（本館1階自販機コーナーでは飲食が可能です）。
 - ② ラーニングcommons以外の場所では静かにしましょう。
 - ③ 携帯電話は着信音が出ないように設定して、通話は館外でしてください。その他、他の利用者の迷惑になるような行為はやめてください。
 - ④ 図書館所蔵の資料は、丁寧に取り扱い、書き込み等行わないよう特に注意してください。
- ※ 附属図書館ホームページ <http://lib.yamanashi.ac.jp/>

電子図書館サービス

インターネットを経由して、パソコンから附属図書館の電子サービスを直接利用することができます（③-⑥は学内LAN経由のみ、[#]医学部キャンパス限定）。

- ① MyLibrary 貸出や予約状況の確認、貸出資料の期間延長、学外文献複写・図書貸借の依頼が可能です。
- ② OPAC（オンライン蔵書目録） 山梨大学所蔵の図書・雑誌の検索ができます。
- ③ 情報検索データベース （*日本語） 新聞記事や論文の検索等が可能です。
新聞記事：*朝日新聞記事データベース（^{きくぞう}聞蔵Ⅱ）
全分野データベース：*CiNii Articles、*MAGAZINEPLUS、Web of Science
医学・看護学・EBM：*医中誌 Web、MEDLINE、CINAHL、EBMR、[#]*最新看護索引 web、[#]*今日の臨床サポート、[#]ClinicalKey、[#]UpToDate
教育：ERIC
雑誌評価(Impact Factor 等)：Journal Citation Reports
法律：*D-1Law.com(法情報総合データベース)
- ④ 電子ジャーナル
電子ジャーナルは、ホームページ上で公開され、閲覧・プリントアウトなどが可能な学術雑誌です。有料契約雑誌約 10,000 タイトルのほか、無料で公開されている多数のオープンアクセス誌の全文が利用できます。
- ⑤ 辞書 ジャパンナレッジ：『日本大百科全書』、『ランダムハウス英和大辞典』、『字通』、『国史大辞典』、『会社四季報』等の各種辞事典類を総合的に検索できます。また、『東

洋文庫』などを画面上で閲覧することができます。

⑥ 電子ブック

- 化学書資料館：国内出版の化学書を総合的に検索、閲覧できます。
- 理科年表プレミアム：理科年表のインターネット版。1925 年（大正 14 年）以降から最新版までのデータが利用できます。
- #Harrison's Principles of Internal Medicine 19th edition, 2015（ハリソン内科学）ほか、医学看護系 14 タイトル
- 今日の診療 WEB 版：医学系書籍 15 冊を集録。
- Maruzen eBook Library（各図書、同時利用人数 1）
日本語の電子ブック約 170 冊が利用可能です。
- 通算政策史資料（一部利用可）：通商産業政策史に関わる資料群
- 地方自治関係資料 1974-2015：地方自治総合研究所の成果物

※ 携帯サイト <http://opac.lib.yamanashi.ac.jp/iecats/>

◆各館利用案内・開館日 ◆OPAC（蔵書検索） ◆貸出予約状況確認



1. 本館（甲府キャンパス）

（1）開館時間と休館日

- ① 開館時間 通常：平 日 8：45～21：00
土・日曜日（10：00～13：00）13：00～17：00
（ ）内の時間は、カードによる入館
各季休業期間 平 日 8：45～17：00
- ② 休館日
国民の祝日および振替休日 開学記念日（10月1日）
8月14, 15, 16日 年末年始（12月27日～翌年1月4日）入学試験日等
（臨時に休館する場合は、ライブラリーカレンダー、ホームページ等で通知します。）
- ③ 特別利用（上記①の開館時間以外および休館日における館内閲覧、文献複写および情報検索） ただし、開館準備等で利用できない時間帯があります。
対象： 本学大学院生、専攻科生、当該年度に卒論を提出予定の学部生、教職員
※利用には申請が必要です。

（2）貸出・返却

図書の館外貸出は学生証を用意の上、自動貸出装置を用いて処理を行ってください。手続きをしていない資料を持ち出そうとすると、出口がロックされます。なお、転貸は禁止します。

返却は図書館事務室カウンターまたは、玄関ほか、学内2箇所にあるブックポストに返却してください。

- | | |
|------------|---------------|
| ① 貸出冊数と期間 | 10冊 3週間 |
| ② 借りられない資料 | 雑誌、参考図書、AV資料等 |

③ 貸出期間の延長

貸出期間内に MyLibrary で延長処理をするか、図書館事務室カウンターに申し出てください。予約者がいなければ、返却期限日よりさらに 7 日間の延長（1 回限り）ができます。

④ 予約

既に貸出されている図書を利用したい場合は、予約をすることができます。

⑤ 延滞・罰則

借りた図書は必ず期限内に返却してください。1 冊でも延滞している資料がある場合は、新たに借りることはできません。また、遅れて返却した場合は、超過日数分だけ貸出停止となります。

⑥ 紛失・汚損・破損

借りた資料を紛失・汚損・破損した場合は図書館事務室カウンターに申し出てください。弁償していただきます。

（3）図書館所蔵資料の探し方

① 書架で探す

2 階の図書のほとんどは NDC（日本十進分類法）の分類番号順に並んでいます。特定の図書ではなくある分野の図書全体を見たい場合は、分類番号から探すことができます。NDCは、2 階閲覧室に掲示してあります。

② OPAC（オンライン蔵書目録）で探す

山梨大学附属図書館で所蔵する資料（図書・雑誌等）は、コンピュータにデータベース化し、各階の OPAC で所蔵検索ができます。また、インターネットに接続しているパソコンなら、どこからでも検索できますので、図書館のホームページからご利用ください。

（4）資料の配置と館内施設

① 図書は次のとおりに並んでいます。

- ・一般図書、参考図書 … NDC(日本十進分類法) 順
- ・文庫・新書… タイトルの ABC 順

② 雑誌は配架番号順に並んでいます。（配架番号は OPAC のコメント欄に記載）

③ 館内の施設（配置）

3階	雑誌書架・閲覧室	和文誌、欧文誌、大学研究報告、白書、J I S等
	新聞閲覧室	主要日刊紙・英字新聞のバックナンバー
	視聴覚室	ビデオ、DVD等
	YINS 端末室	オープン端末
2階	開架図書書架・閲覧室	一般図書、参考図書、文庫・新書等
	ラーニングcommons	サイレントエリア、グループミーティングエリア、グループ研究室エリア
1階	ラーニングcommons	ライティングサポートエリア、グループミーティングエリア、プレゼンエリア、多目的エリア、新聞・雑誌閲覧エリア
	自販機コーナー	飲料水販売機
	開架図書書架	一般図書
地階	開架図書書架	一般図書、参考図書、製本雑誌

（5）各種サービス

① 文献複写

図書館の資料は、著作権法の範囲内で複写することができます。2階及び3階に設置されているカード式の複写機を利用してください。

② レファレンス・サービス

研究、調査及び学習等に必要な資料の紹介、文献の調査及び資料の所在調査の援助など種々の問合せに対して1階図書館事務室カウンターで職員が相談に応じます。

③ 相互利用

・他大学図書館の利用

他大学図書館の利用を希望する場合は、紹介状を発行します。

・学内にない資料を利用する

他機関から文献の複写物を取り寄せたり、図書を借りたり（館内利用に限る）することができます。

（有料）

※ 本館・医学分館の資料の相互利用も可能です。（貸借：無料、複写：有料）

2. 医学分館（医学部キャンパス）

（1）開館時間と休館日

- ① 開館時間 平 日 9：00～20：00
 土曜日 9：00～13：00

＊ ただし、毎週月曜日（休日の場合は週の最初の平日開館日）の
 9：00～10：00は清掃のため完全休館します。（特別利用も不可。）

- ② 休館日 日曜日 国民の祝日および振替休日 開学記念日（10月1日）
 年末年始（12月27日～翌年1月4日）

（臨時に休館する場合は、ホームページ等で通知します。）

- ③ 特別利用（上記①の開館時間以外および休館日における館内閲覧、文献複写および情報検索）

対象 ： 本学医学部学部生、大学院生、教職員

利用には申請およびガイダンスの受講が必要です。

（2）貸出・返却

図書の館外貸出にあたっては、希望する資料と学生証を提示してください。手続きをしていない資料を持ち出そうとすると、出口がロックされます。なお、転貸は禁止します。

休館・閉館時には、図書館玄関および基礎研究棟に続く渡り廊下側の図書館入口にあるブックポストに返却してください（AV 資料は不可）。

① 貸出冊数と期間

一般図書	3冊 1週間
AV資料	1本 1週間
参考図書・雑誌	1冊 一時貸出：2時間以内 (閉館2時間前から翌朝10時まで)

② 貸出期間の延長

貸出期間内に MyLibrary で延長処理をするか、サービスカウンターに申し出てください。予約者がいなければ、返却期限日よりさらに 7 日間の延長（1 回限り）ができます。

③ 予 約

既に貸出されている図書を利用したい場合は、予約をすることができます。

④ 延滞・罰則

借りた図書は必ず期限内に返却してください。1冊でも延滞している資料がある場合は、新たに借りることはできません。また、遅れて返却した場合は、超過日数分だけ貸出停止となります。

⑤ 紛失・汚損・破損

借りた資料を紛失・汚損・破損した場合はサービスカウンターに申し出てください。弁償していただきます。

(3) 図書館所蔵資料の探し方

① 書架で探す

特定の図書ではなくある分野の図書全体を見たい場合は、分類番号から探すことができます。「(4) 資料の配置」を参考にしてください。

② OPAC（オンライン蔵書目録）で探す

山梨大学附属図書館で所蔵する資料（図書・雑誌等）は、コンピュータにデータベース化し、各階の OPAC で所蔵検索ができます。本館と共通の OPAC です。

(4) 資料の配置

① 図 書

医学および関連領域の図書は、2階第三閲覧室に NLMC（米国国立医学図書館分類法）の分類番号順にならべてあります。一般の図書は、2階第二閲覧室に NDC（日本十進分類法）の分類番号順にならべてあります。また、2階中央に「生と死のコーナー」があります。このコーナーには生と死や終末期医療、生命倫理などについて書かれた図書等が配架されています。

② 雑 誌

雑誌は、下表のように所在が分かれています。欧文誌は誌名の ABC 順、和雑誌は誌名の五十音順に並んでいます。

	医学・関連領域	総合・一般
1 階第一閲覧室	バックナンバー	
1 階ラウンジ	新着雑誌*、カレント誌	新着雑誌*、カレント誌

※ 雑誌の最新号は新着資料として展示された後、1 階カレント誌の書架に配架されます。

(5) 館内施設 ：利用の際は、サービスカウンターで申し込んでください。

① 学習室 1・2・3・大学習室

図書館資料を用いて、グループ学習するときに利用できます。大学習室では、ビデオ・DVD を利用した学習も可能です。事前に予約が必要です。

② 視聴覚室

視聴覚資料（語学・医学・その他分野の、ビデオテープ・DVD）が視聴覚室で利用できます。また、情報検索およびレポート作成のための PC も設置されています。

③ 情報検索コーナー・コピーコーナー

情報検索コーナーには PC が設置されており、情報検索、学習等のために使用できます。コピーコーナーでは資料の複写や PC からの印刷が可能です。

※ 各種サービスについては、医学分館も本館と同様のサービスを行っています。

保健管理センター

1. 趣旨・目的

〔保健管理センターは、皆さんの心身の健康の保持促進を目的として業務を行っています。〕

○ 保健管理センター（甲府キャンパス）

TEL：055-220-8081

FAX：055-220-8075

○ 医学部保健管理センター（医学部キャンパス）

TEL：055-273-9312

FAX：055-273-9289

e-mail：health@yamanashi.ac.jp

ホームページ：https://health.yamanashi.ac.jp/

2. 保健管理センターの業務案内

センターを利用できる時間	8時30分～17時15分
--------------	--------------

○保健管理センターの利用は無料です。

（1）相談活動

健康に関する相談など、心と身体の問題に医師、保健師、看護師が対応します。

○プライバシーは厳守します。お気軽にお越しください。

（2）診察・応急処置

体の不調やけが等は、医師、保健師、看護師が対応しています。

当センターで対応できない場合には、専門の医療機関を紹介します。

（3）学生定期健康診断

病気の早期発見、健康の保持・増進のために毎年、春に定期健康診断を実施します。

日程など必要事項は「ホームページ」「イントラネット学生掲示板」等で案内します。

（4）健康診断証明書の発行

健康診断時に全項目を受けていることが条件となります。甲府キャンパスでは、卒業年

次生・修了年次生で健康診断項目において所見のない方は、証明書自動発行機で発行することができます。それ以外の方および医学部キャンパス在籍者は、該当地区の保健管理センターで発行します。

3. 休日・夜間対応について

<救急医療>

甲府市医師会救急医療センター （甲府市及び中巨摩東部地区*） 電話 055-226-3399	・月～土曜日（夜間） 午後 7 時～翌朝午前 7 時 ・休祝日 午前 7 時～午後 7 時
山梨県救急医療情報センター （甲府市及び中巨摩東部地区*を除く全地域） 電話 055-224-4199	

*中巨摩東部地区の対象区域は、次のとおりです。

甲斐市（旧竜王町、旧敷島町の区域）・中央市・昭和町

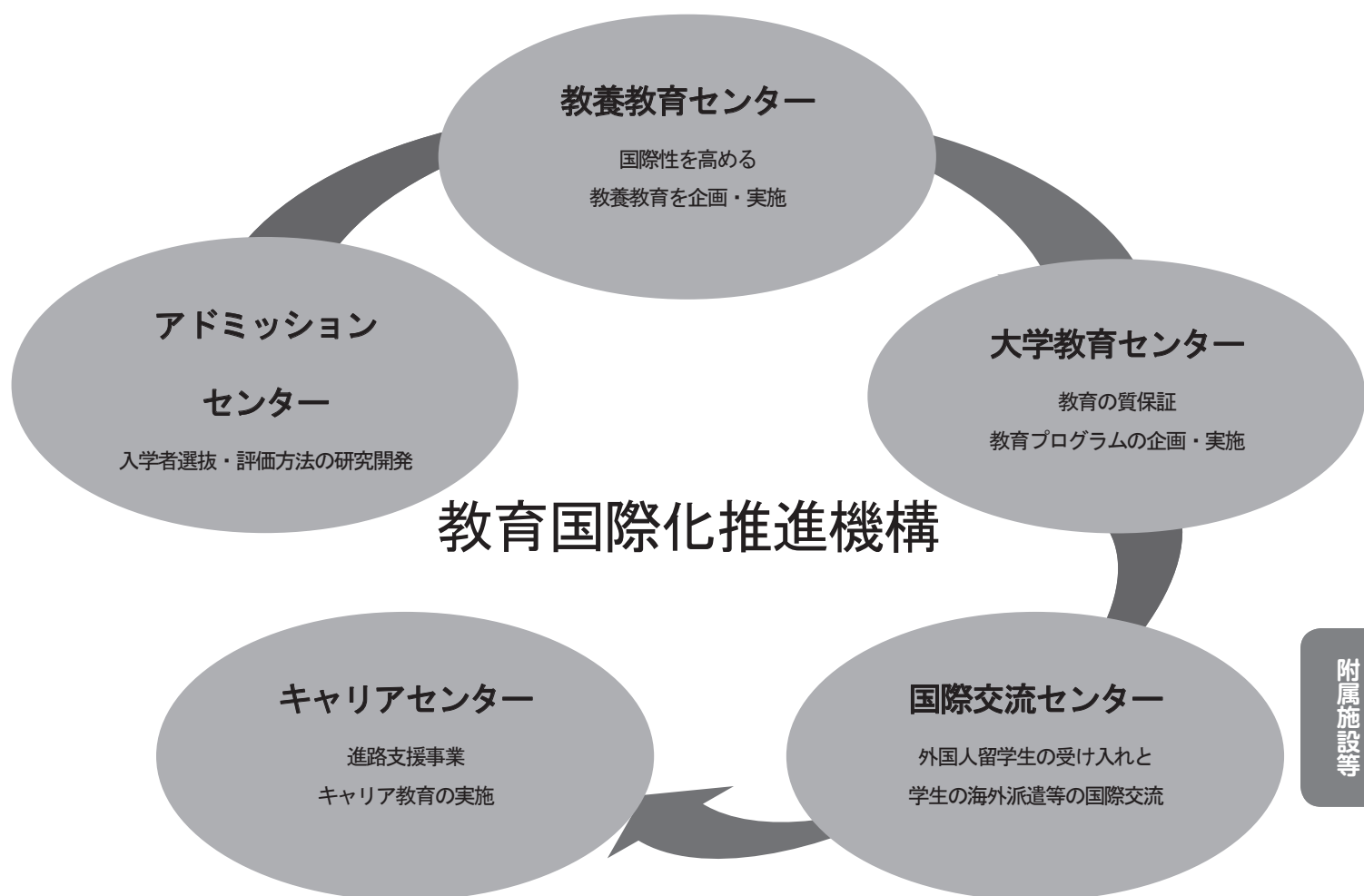
<歯科救急>

社団法人山梨県歯科医師会 山梨口腔保健センター（甲府地域） 電話 055-252-9955	・休祝日 午前 10 時～午後 5 時
歯科救急センター （甲府地域） 電話 055-220-1199	・月～土曜日（夜間） 午後 7 時～午後 11 時 ・休祝日（夜間） 午後 5 時～午後 11 時
富士・東部口腔保健センター （富士東部地域） 電話 0554-56-8899	・休祝日 午前 10 時～午後 5 時

教育国際化推進機構

1. 趣旨・目的

教育国際化推進機構は、教育の質保証及び国際化、学生のキャリア形成に資する全学的な施策を推進することを目的に、5つの学内共同教育研究施設(アドミッションセンター、教養教育センター、大学教育センター、国際交流センター、キャリアセンター)及び関係の委員会から構成される組織です。世界標準の教育の質保証の仕組みを取り入れ、海外からの留学生と日本人学生が共に学び、しっかりとした基礎と専門を身につけるとともに、学生の進路決定を円滑に推進し、社会に貢献できる学生を送り出すため、きめ細かい支援を行っています。



1. 趣旨・目的

アドミッションセンターは、山梨大学における、アドミッション・ポリシーに合致した入学者の確保やそのための方策の調査・分析、企画立案・提言、実施することを目的としています。

平成 28 年度に高大接続システム改革会議から、高等学校改革、大学教育改革、及び大学入学者選抜改革の一体的改革の必要性が示されました。このうちの大学入学者選抜改革を行うのが、アドミッションセンターの役割です。

2. センターの活動内容

- (1) 多面的総合的な入学者選抜方法に関する調査・分析、企画立案、提言及び実施
- (2) 入学者選抜及び教育・学習と通じた高大接続に関する活動
- (3) 多様な学習活動や学習成果の適切な評価のため調査研究、提言及び実施
- (4) 入学者選抜に関する情報分析と入学前教育に関する支援

3. センターの取組み

- (1) 高大接続に関する研究会（高大研）の実施推進

平成 28 年度に山梨県教育委員会と山梨大学が連携をして、高大接続に関する研究会（高大研）を発足させました。平成 29 年度は、学習評価に関する調査研究を進めると同時に、高校 3 年間におけるポートフォリオなどの学習や活動の履歴のあり方について検討をしていきます。

- (2) 他大学の取組についての情報収集

高大接続システム改革は、高校や大学の一体的改革という点において、これまでにない全国規模の改革です。他大学の取組や様々な情勢を参考にしながら入学者選抜改革を推進していきます。

- (3) プレイメントテストの実施に向けた準備と入学前指導の試行の検討

入学者選抜において人物を重視すると同時に大学の授業に対応できる学力も必要です。大学教育の質の保証のためにプレイメントテストの実施や入学前指導などのリメディアル教育の試行を行っていきたいと考えています。

1. 趣旨・目的

教養教育センターは、山梨大学の理念である諸学融合の基礎となる教養教育の企画・実施を主な任務としています。幅広い教養を身につけ、問題意識を持って柔軟に思考する力を獲得するために、各学部及び教育国際化推進機構内の他のセンターと共同して全学共通教育科目を運営します。

2. センターの活動内容

- (1) 全学共通教育の実施計画に関すること
- (2) 全学共通教育科目のカリキュラム及び実施に関すること

3. センターの取組み

本センターでは、(1)キャリアについての意識向上と健康維持増進力の育成を目指す授業、(2)「多様な知識の獲得」、「様々な学問分野の考え方」、「批評力」や「コミュニケーション・スキル」に関わる能力の獲得を目指す授業、(3) 国際社会で活躍するのに必要な「異文化理解と外国語リテラシー」の基礎的能力の育成を目指す授業、(4) 自律的な学習能力と実践的な能力を涵養し、リベラルアーツの実践を後押しする活動、などを中心に、幅広い教養科目の企画、立案を行っています。学内外の多彩な専門分野の講師を招いた「教養教育センター講座」も随時開催しています。

1. 趣旨・目的

大学教育センターは、山梨大学の教育方法の改善や教育の質保証のための取組みを企画し実施することを主な目的としています。また、グローバル人材育成と大学の国際化の推進を、教育国際化推進機構の総括の下、アドミッションセンター、教養教育センター、国際交流センター及びキャリアセンターと協働し取り組んでいます。

2. センターの活動内容

- (1) 教育の質保証に関すること。
- (2) 教育評価に関すること。
- (3) 全学的なFDの企画立案、実施及び評価に関すること。
- (4) 教育環境の情報化に関すること。

3. センターの取組み

- (1) アクティブラーニング、e-ラーニング
ICTを活用しアクティブラーニングを取り入れた授業方法の開発、学生の振り返りや修学支援に活用できるe-ラーニングシステム、ポートフォリオシステムの運用
- (2) 全学教育FD研修会
個々の教員の授業能力や、学部や学科といった組織としての教育力を向上させるための活動といった、本学のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を全学FD部門の下に企画・運営
- (3) 教学IR
全学的な授業アンケートやJUES 学習経験調査の実施による学修時間等教学関係各種データの把握及びデータの分析
- (4) グローバル人材育成教育プログラム（国際交流センターと協力実施）
グローバル人材育成のための、教養教育、学生の国際交流、海外インターンシップなどを取り入れた、教育プログラムの企画・実施

1. 趣旨・目的

国際交流センターは、2003年4月に学内共同教育研究施設として発足した留学生センターを改組し、2014年4月に設置されました。外国人留学生のために日本語教育および修学・生活上の指導・相談を行うこと、学生の海外留学の促進を含む本学の国際交流の推進に寄与すること、また、これらの分野での調査・研究を促進することを目的としています。

2. 取組み

国際交流センターは、以下のような業務を行っています。

■日本語・日本事情・異文化理解教育

学部留学生を対象とする日本語の授業を前期は4レベル7科目、後期は4レベル6科目開設しています。また、日本人学生と留学生が共に学ぶ、日本事情や異文化間コミュニケーションなどの科目も開講しています。さらに、本学に在籍する日本語力が十分でない大学院生や研究生を対象に、初級から中級レベルの日本語のクラスを補講として開講しています。

■留学生指導相談・文化交流

指導相談担当教員による留学生相談室が開室されており、留学生に対する修学・生活面での指導、助言を行っています。様々な相談に応じるため、各教員がオフィスアワーも設けています。国際企画課スタッフと連携して留学生の日常生活で生じる些細な問題にも対応しています。

問い合わせ先：電話 055-220-8753

■大学院入学前予備教育—日本語研修コース

大学院進学を目的とする国費研究留学生向けに、前期は初級レベル、後期は初級と初中級レベルの日本語集中授業を15週間行います。交換留学生や研究生の受講も可能です。

問い合わせ先：電話 055-220-8152

■海外留学に関する指導・サポート

海外留学を希望する学生に、交流協定大学への交換留学、語学を中心に学ぶ数々の短期研修プログラムを紹介し、留学準備段階から帰国後までの指導・サポートを行っています。

問い合わせ先：国際企画課 電話 055-220-8047

■G-フィロス（グローバル共創学習室 B-1号館2階221室）の管理・運営

語学学習や異文化理解を通じて学生が互いに学び合う、国際的な学習環境を提供しています。また、TOEIC®対策講座などを開講し、英語学習支援をしています。

詳細は、国際交流センターホームページ（<http://www.ciee.yamanashi.ac.jp>）をご覧ください。

1. 趣旨・目的

キャリアセンターは、本学学生が4年間の大学生活を有意義に過ごし、その結果として卒業後の進路がスムーズに決まり、また社会、地域において貢献できる人となるように、学生一人一人のキャリア形成を図るため開設されました。

キャリアセンターでは、人間力を向上させ、目的意識を持って自分に合った人生設計ができる人材育成をするための「キャリア教育」を入学早期から実施するとともに、進路支援事業の拡充と複数のキャリア・アドバイザーによる、きめ細かい相談・助言を行います。

2. 業 務 内 容

- (1) キャリア・アドバイザーによる指導・助言（キャリア設計を行ううえでの悩み・不安の相談から就職支援等までの幅広い相談について、経験豊富なスタッフが助言等を行います。）
- (2) キャリア教育の実施（低学年からのキャリア形成について、講義・実習の企画・運営を行います。）
- (3) 就職関係ガイダンスの実施（職務適性診断からの自己分析、就職活動における対策、教員・公務員・企業関係者からの説明会等、年間を通じて各業種・職種・学年に対応した内容で行います。）
- (4) インターンシップ支援・コーディネート（マッチング等）

3. 進路支援システムと求人システム

(1) 進路支援システム

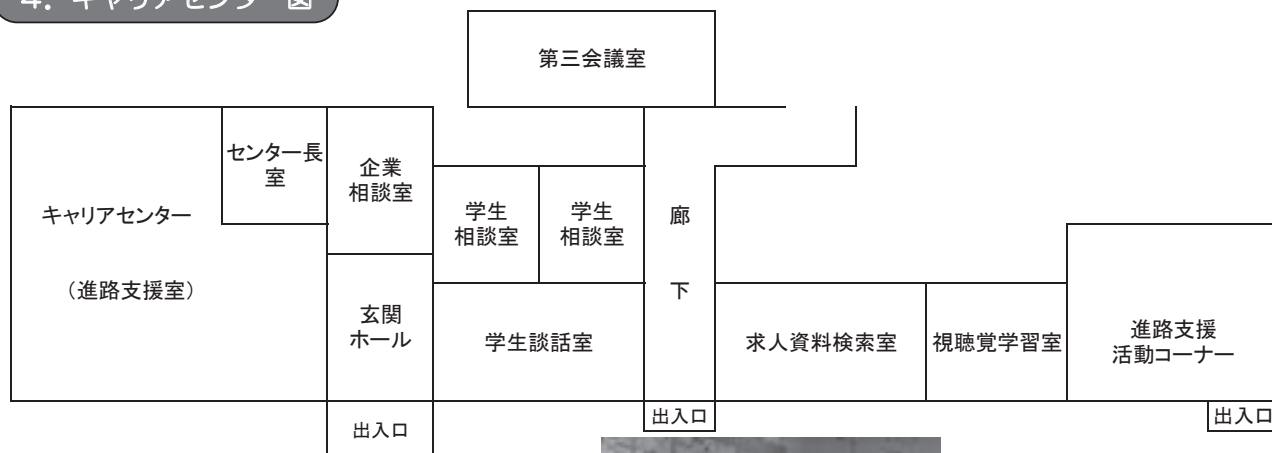
- ・ 1～3年次生は、進路希望をシステムに入力。
- ・ 4年次生は、活動履歴や進路内定先を進路支援システムに入力。

これらの調査は、個々の進路支援及び各種公式報告に使用するものですので、それぞれの時期に入力手続きを完了する必要があります。

(2) 求人検索システム

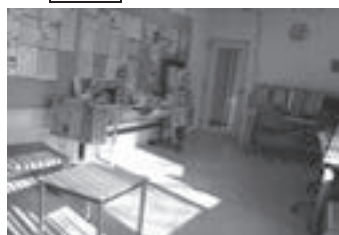
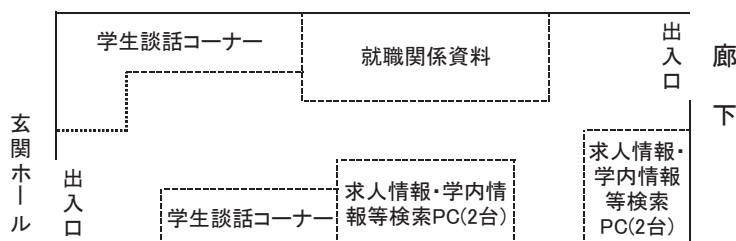
本学に送付・提出された求人票について、職種・業種・地域等で検索して、就職活動に活用できます。

4. キャリアセンター図

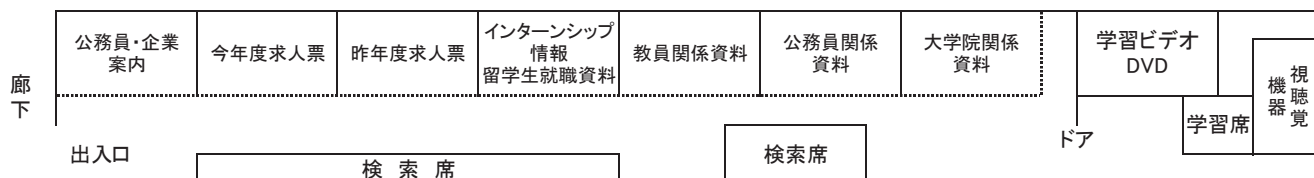


キャリアセンター各室詳細図

○学生談話室

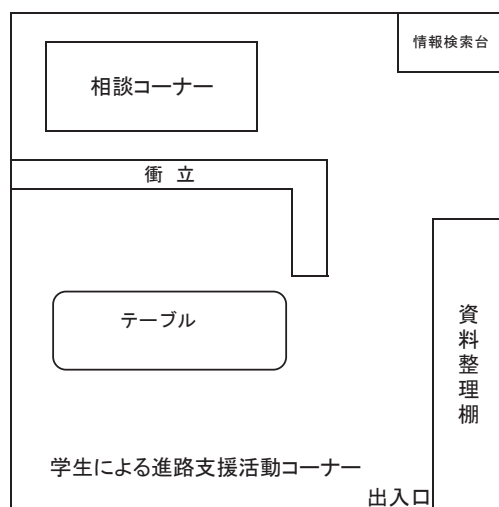


○求人資料検索室

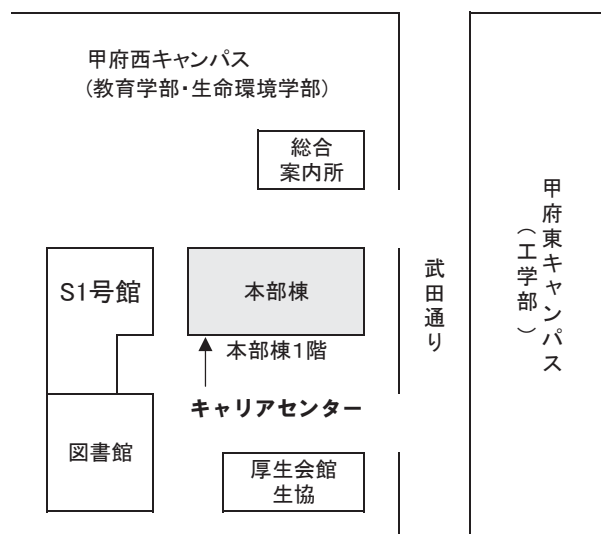


○視聴覚学習室

○進路支援活動コーナー



◎キャリアセンター位置図



キャリアセンター

055-220-8319 (TEL) 055-220-8782 (FAX)
E-mail career-tr@yamanashi.ac.jp

機器分析センター

1. 趣旨・目的

機器分析センターは、平成 7 年 4 月に設置された共同利用施設です。最先端の高度な分析・計測機器を設置、管理しています。これらの装置は、学内外の研究、教育のために提供されており、所定の手続きを経ることにより利用できます。

2. 設置機器

2017 年 4 月現在、設置されている機器は次のとおりです。

透過型電子顕微鏡（2 台）	走査透過型電子顕微鏡
走査型プローブ顕微鏡	プラズマクリーナー
集束イオンビーム加工装置	ハンディラップ
イオンポリッシング装置	マイクロマニピレーター
超音波ディスクカッター	クライオウルトラマイクローム
ウルトラマイクローム	電子線プローブマイクロアナライザー
走査型電子顕微鏡（2 台）	オージェ電子分光装置
電子線後方散乱結晶方位解析装置	分光エリプソメーター
X線光電子分光装置	イオンエッチング装置
触針式表面形状測定装置	電解研磨装置
真空蒸着装置（2 台）	スパッタコーター
機械研磨装置	X線残留応力測定装置
オスミウムプラズマコーター	液体クロマトグラフ質量分析装置
多目的X線回折装置	CHNS全自動元素分析装置
熱分析装置	ICP 発光分析装置
ガスクロマトグラフ質量分析装置（2 台）	フーリエ変換赤外分光光度計
レーザーラマン分光光度計	超伝導核磁気共鳴装置
顕微赤外測定システム	三次元座標測定機
ナノインデント	三次元粗さ測定機
サーマルサイクラー	精密万能試験機
円柱形状測定機	小型万能試験機
万能投影機	カラーレーザー顕微鏡
低温物性評価システム	極低温ヘリウム冷凍機
低振動型極低温ヘリウム冷凍機	顕微紫外可視近赤外分光光度計

それぞれの機器の詳しい機能や性能についてはセンターの WWW ページやパンフレットに説明しています。また、学内で使用される液体窒素の供給も行っています。

3. 利用方法

センターの機器を利用するには卒業論文や大学院の指導教員の承認が必要となります。使用を希望する機器について指導教員の承認を受けてセンターに利用者登録の申請を行います。必要な実習などを受けた後センターに利用者登録されるので、予約をとって使用します。操作方法やマナーを守り、研究に活用してください。

登録や利用についての詳細は、センター事務室に相談してください。

総合情報戦略機構

1. 総合情報戦略機構の業務

総合情報戦略機構は、情報システムの管理・運用や、情報セキュリティの遵守の促進等の業務を行っており、甲府・医学部の両キャンパスに事務室を置いています。両キャンパスには、ギガビットネットワークをベースにした基幹ネットワークが敷設され、甲府キャンパスと医学部キャンパス間もギガビットネットワークで接続されています。また、両キャンパスとも無線LAN環境が構築されており、学内の多くのエリアをカバーしています。

皆さんが授業で利用する情報処理教室は7教室あり、空き時間には自習等でも利用することができます。その他、随時利用できる端末として、両キャンパスにオープン端末が整備されています。

端末利用のルールやマナーを守り、自学自習に活用してください。

2. 利用案内

(1) 端末の利用方法

端末を利用するには、アカウント（ログインID、パスワード）が必要です。

新入生には入学手続き時に配付されるので、パスワード変更の指示があるまで大切に保管してください。また、情報メディア館等の情報処理教室及びオープン端末室に入室するには、教務課より発行される学生証が必要になります。取得したアカウントは、卒業するまで使用します。

(2) 端末の種類・設置場所および利用時間について

マークのある教室・端末室への入室には、学生証が必要な時間帯（◎は常時必要）があります。必ず、学生証を携帯してください。

情報処理教室

(甲府キャンパス)

設置場所		台数	利用時間
情報メディア館 	2階 第1実習室	76台	平日8:30~17:00 (土日・祝日利用不可)
	2階 第2実習室	41台	平日8:30~17:00 (土日・祝日利用不可) 延長サービス時(8:30~20:30)
	2階 第3実習室	65台	平日8:30~17:00 (土日・祝日利用不可)
	3階 第4実習室	71台	平日8:30~17:00 (土日・祝日利用不可)
	3階 第5実習室	21台	平日8:30~17:00 (土日・祝日利用不可)
J号館3階 J321教室 ◎ 		51台	平日8:30~17:00 (土日・祝日利用不可)

(医学部キャンパス)

設置場所	台数	利用時間
看護学科棟2階 情報処理教室	76台	※授業のみ

オープン端末

(甲府キャンパス)

設置場所	台数	利用時間
総合研究棟 1 階 24 時間オープン端末室 ◎ 	40 台	24 時間利用可能 (構内閉鎖日を除く)
附属図書館 3 階 YINS 端末室	28 台	附属図書館の利用時間に準ずる
キャリアセンター	2 台	キャリアセンターの利用時間に準ずる
キャンパス内各所 (キオスク端末)	12 台	それぞれの建物利用時間に準ずる

(医学部キャンパス)

設置場所	台数	利用時間
講義棟 2 階 学生自習室 ◎ 	12 台	24 時間利用可能 (構内閉鎖日を除く)
講義棟 1 階 ロビー	9 台	
看護学科棟 1 階 ロビー	8 台	
看護学科棟 2 階 ロビー	4 台	
臨床講堂 1 階 廊下	8 台	
附属図書館医学分館 1 階 ロビー	7 台	附属図書館医学分館の利用時間に準ずる
附属図書館医学分館 2 階 視聴覚室	5 台	

3. 各種サービス

利用者の皆様へのサービスとして、YINS-CNS、電子シラバス、Web-mail、Web 履修申告等の学生 Web システム、商用教材を含む各種の e-Learning システム、附属図書館の蔵書検索システム、無線 LAN 接続、学外からの VPN 接続など多数提供しています。

4. 組 織

甲府キャンパス

(情報メディア館 1 階)

情報システム課 甲府支援グループ

TEL 055-220-8085

FAX 055-220-8792

詳細は、総合情報戦略機構のホームページ (<http://sojo.yamanashi.ac.jp>) を参照してください。

医学部キャンパス

(管理棟 3 階)

情報システム課 医学支援グループ

TEL 055-273-9634

FAX 055-273-9436

クリーンエネルギー研究センター

<http://www.clean.yamanashi.ac.jp>

1. 趣旨・目的

本学ではクリーンエネルギーに関する研究を長年にわたり推進してきました。1978 年には国内外を見ても初めての燃料電池を研究目的にした「燃料電池実験施設」が発足し、ここでは触媒等新材料の開発や人材の育成で目覚ましい成果を上げてきました。他方、極低温・高真空の宇宙での生命誕生につながる化学反応の長年の研究を通じ、低温トンネル反応を発見し、工業分野の応用へと展開しつつあります。この二分野の先導的研究成果を背景にして、省エネルギー、地球環境問題の解決に貢献することを目的に、本センターは大学直属の施設として、平成13年4月に新設されました。研究2部門（燃料電池、太陽エネルギー変換；教授6名、准教授2名、助教1名）から構成されています。尚、本センターは大学附置施設である特色を活かして、応用化学科などからの学部生、大学院生の教育・研究指導に直接携わり、研究活動と活力・能力溢れる当該分野の人材育成とを両立させています。その強化の一環として、5年間一貫の大学院教育「グリーンエネルギー変換工学特別教育プログラム」が平成23年度文部科学省博士教育リーディングプログラムに採択され、海外留学、国内インターンシップ、勉学の経済支援等、素晴らしい修学環境を整備しています。なお、本研究センターは兄弟センターである「燃料電池ナノ材料研究センター」とも密接に協力しながら、クリーンエネルギーの世界的拠点として教育研究活動を推進しています。

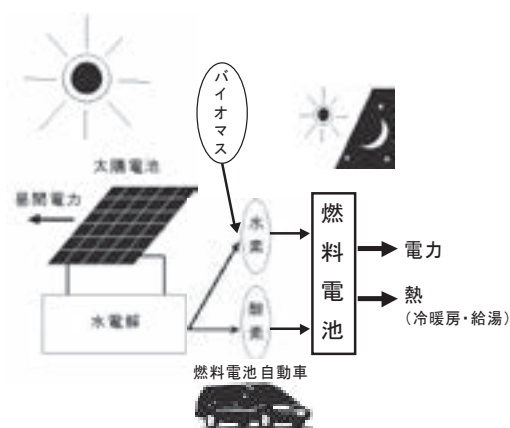
2. センターの役割

- ① クリーンエネルギーに関する先端的基礎研究の実施、および情報交換・発信を行う。
- ② 大学、国立研究所等の研究者の受け入れ、あるいは共同研究や共同利用の実施を通して、我が国の基礎研究レベルの全体的向上と、他大学、研究所における人材育成者のすそ野を可及的に広げる。
- ③ 企業派遣研究者の育成と、共同研究による技術開発の支援を行う。
- ④ 諸外国、わけてもアジア諸国との将来の協力を見据え、留学生や共同研究者を受入れる。

3. 研究内容

① 燃料電池研究部門

燃料電池自動車、家庭用の固体高分子形燃料電池及びシステムの研究、及び次世代の火力代替発電用の固体酸化物形燃料電池に関する研究を行っている。上記の燃料電池を逆動作させた水電解による高効率水素製造の研究も進めている。現在、この分野の代表的研究拠点として、科学技術振興機構（JST）やNEDOをはじめ幾つかの大型受託研究、あるいは大手企業との共同研究を実施している。



② 太陽エネルギー変換研究部門

日照時間日本一、日本有数の温泉地帯、農業県であることなど山梨の地域特性を活用し、再生可能エネルギーである太陽光やバイオマスおよび地熱から水素やアルコール燃料、さらには電力を創出する研究を行っている。さらには、二酸化炭素の固定化・有効利用を通じエネルギー獲得、地球温暖化防止の研究も開始している。これらの研究は、文部科学省「やまなし次世代環境・健康産業創出エリア」、その他に財団や企業の研究費を取得して研究を推進している。

③ 共同研究部門

国内、国外の学者、研究者を客員教授として受け入れ、共同研究する。また、企業研究者も受け入れ、センターの研究成果の実用化に向けた共同研究も実施する。

4. 研究室の見学等

学生諸君にとって、本センターの研究内容、世界トップレベルの研究設備を備えた研究室見学は、大変興味深いものと思われます。また、研究内容を分かり易く紹介したセンターホームページ（<http://www.clean.yamanashi.ac.jp>）も是非ご覧下さい。さらに、興味のある人は、そこに紹介されている各教員にメールでコンタクトして下さい。温かく対応致します。

総合分析実験センター

1. 目的・組織

総合分析実験センターは、今後社会が直面する地球環境、老齢化及び高度情報化に関する問題の解決に不可欠な研究試料の作出と解析について、学際的、総合的に教育、研究できる環境を大学共同利用機関として提供し、それらを融合した新しい科学の創出に寄与することを目的としています。

この目的を達成するための組織として、センター長の下に、機能解析分野、資源開発分野、放射線分野があります。

2. 利用について

センターは、医学部キャンパスにあり、山梨大学における医工農学総合大学院や各学部講座・教室の医学・生命科学領域における教育・実験研究のために、24時間常に利用可能な状態に維持管理されています。

学部学生の皆さんで特に希望する場合には、講座・教員の指導の下に利用が可能です。利用を希望する場合には、関係講座教員を通して、または直接、下記分野のセンター教員宛に申し込んでください。

① 機能解析分野

生体機能解析のための実験室が研究棟 1 階及び院生棟 2～6 階にあります。現在、電子顕微鏡、組織培養、分析機器、細胞工学、遺伝子工学、画像解析、核酸実験、試料調整、工作室の各実験室があります。遺伝子工学室には、DNA 組換え実験施設 (P2・P3) が含まれます。

また、遺伝子解析や顕微鏡標本作製などの研究支援業務も行なっています。

② 資源開発分野

遺伝子組換え動物を含め、ヒトの疾患に対応した多様な実験動物が 3000 m²、3 階建の施設内に飼育され、先端的な動物実験が科学のおよび倫理的に進められています。

③ 放射線分野

医学、生物学の研究のためのラジオアイソトープ (RI) を有効かつ安全に使用するための研究実験施設です。施設の中では 30 核種のアイソトープが使用でき、遺伝子レベルから動物を使用した実験まで行われています。

燃料電池ナノ材料研究センター

<http://www.fc-nanoyamanashi.ac.jp>

1. 趣旨・目的

わが国におけるエネルギー供給の安定化・効率化、地球温暖化問題の解決等の観点から、燃料電池の実用化が期待を集めています。しかし、燃料電池の本格的普及には、コストの低減ならびに耐久性及び信頼性の向上という多様な要素を満たす革新的なブレークスルーが産業界より待望されており、そのためには、サイエンスに立ち戻った研究開発を行うことが必要です。

本センターは反応、劣化メカニズムに係わる知見ならびにナノテクノロジー等の先端技術の融合により、触媒・電解質膜・MEA等の燃料電池の材料研究を実施し、高性能・高信頼性・低コストを同時に実現可能な高性能セルのための基礎技術確立することで、燃料電池の本格普及に資することを目的として2008年4月に設立され、2015年5月からはこれまでに確立した基礎技術を基に、燃料電池の核となる電極触媒、電解質材料機能を極限まで可能にする評価解析を日々行っています。世界最高水準の教員と実験環境が整備され、研究が進められています。

なお、本学クリーンエネルギー研究センターとは強い連携のもとで運営しています。学部4年時には、本学大学院生と同じく、国内外の研究者、多くの社会人ドクターとともに、世界トップレベルの先端設備環境での燃料電池研究を開始します。3年ごとに開催される国内外の燃料電池研究者・技術者による「国際燃料電池セミナー」への参加では、技術者育成、研究交流を図ります。国内外の大学院生・若手研究者・技術者を招待し開催される「ヤングサマーセミナー」では、学会の企画から運営に携わるなど、国際学会を経験する場を多く設けています。世界的研究拠点として、産学官連携強化や、水素社会実現に向けたグリーンエネルギー分野を牽引する、研究者・技術者の育成にも取り組んでいます。従来の専攻科に加え新たに国際的リーダー育成を目指すリーディング大学院（文科省プロジェクト）グリーンエネルギーコースが設けられ、これにも貢献しています。

2. センターの役割

- ① 燃料電池に関するサイエンスに立ち戻った研究、
多数メーカーとの連携による成果の技術展開
- ② 燃料電池の本格的な普及を担うことのできる人材の育成
- ③ 国内外との交流による燃料電池を中心とした情報の交換・発信

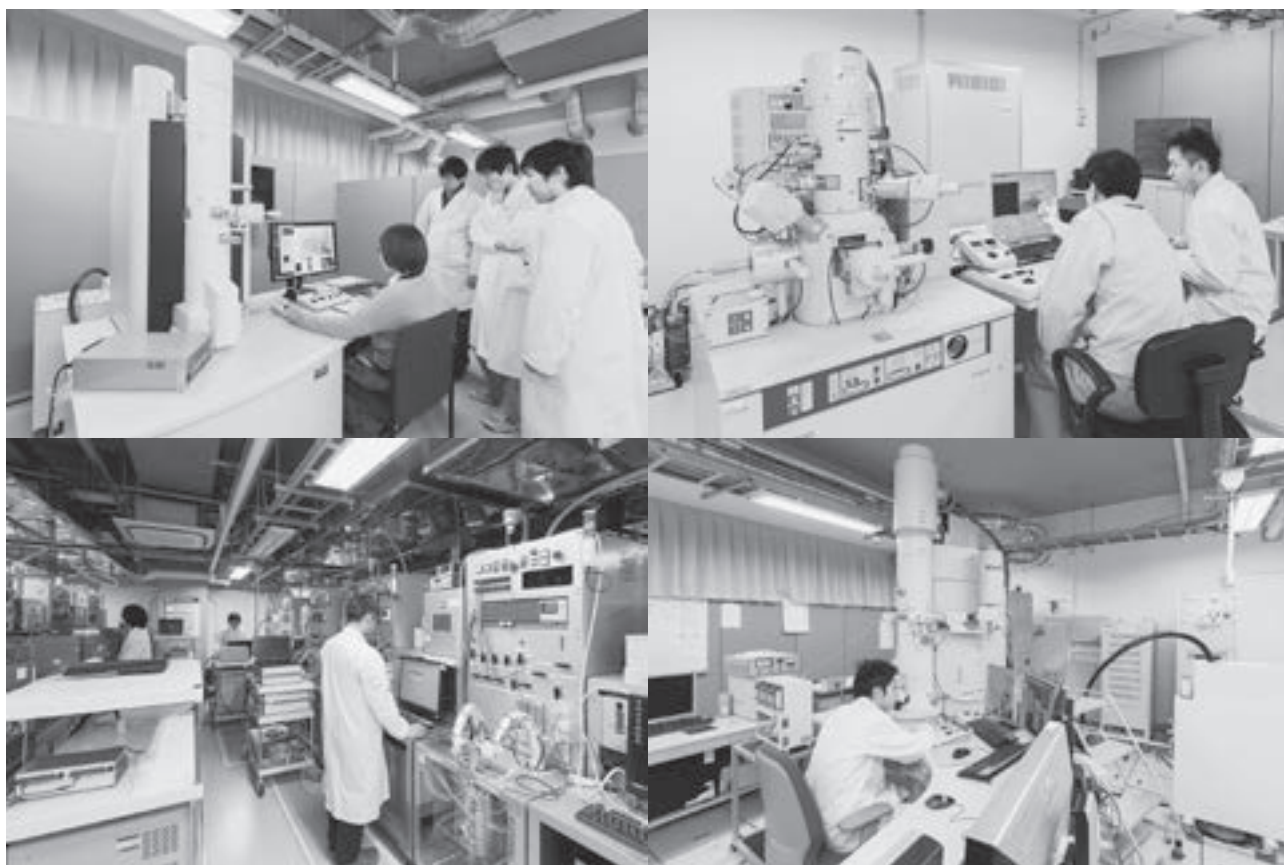
3. 研究内容

2008 年 4 月に NEDO から受託した 7 年間のプロジェクトの成果をもとに、現在は 2015 年 5 月から NEDO 委託事業である “S” Per-FC プロジェクトを中心とした研究開発を実施しています。

- ① カソード触媒材料の新規コンセプト創出
- ② 電解質材料の新規コンセプト創出
- ③ 不純物高耐性次世代アノード触媒のコンセプト創出

4. 研究室の見学など

本センターの研究内容、実験施設などの詳細は、ホームページをご覧ください。
(<http://www.fc-nano.yamanashi.ac.jp>) また、姉妹センターであるクリーンエネルギー研究センターのホームページでも燃料電池関係の研究について紹介しています。
(<http://www.clean.yamanashi.ac.jp/>) 研究設備の見学などをご希望の方は、各教官宛にご連絡をお願いいたします。



地域未来創造センター

1. 趣旨・目的

地域未来創造センターは、地（知）の拠点整備事業（COC事業）及び地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）を推進し、地域再生・活性化を担い世界につながる産業の展開に貢献することができる人材の育成を図るとともに、併せて地方公共団体や企業等と協働し、新規事業の創出などを通じ学生にとって魅力ある地域の就職先の創出・開拓等により、学卒者の地元定着を図ることを目的としています。

2. センターの活動内容

■COC部門

- （1）地域志向カリキュラムの設置・運営に関すること
- （2）地域の課題に総合的に対応するプロジェクトに関すること
- （3）公開講座等情報の発信、地域連携に関すること

■COC+部門

- （1）地域志向カリキュラムの設置・運営に関すること
- （2）地域における新規事業化支援及び雇用創出に関すること
- （3）学卒者の地元定着促進に関すること
- （4）事業協働機関、事業協力機関等との連携に関すること



3. センターの取組み

■COC部門

- （1）**地域課題解決人材育成プログラムの実施と修了者への「修了証書」の発行**
 - ・地域志向型共通教育科目、コース専門科目、地域課題解決科目の科目群で構成
 - ・修了要件の7科目を一定水準以上の成績評価で修得するとプログラム修了者と認定
- （2）**「地域志向型教育研究プロジェクト」の実施**
 - ・地域の課題の収集とその課題を研究テーマとする教育・研究の実施
- （3）**社会貢献事業の実施**
 - ・エリア放送（学生が主体となり実施）による地域コンテンツの発信、公開講座の開催、地域との連携等

■COC+部門

- （1）**大学間連携による「やまなし未来創造教育プログラム」の提供**
 - ・地域教養科目と4つのコース別専門科目群による地域人材養成、単位互換の拡大
- （2）**「Mirai プロジェクト」による実践的な課題解決型授業科目の強化**
 - ・「フューチャーサーチ」などの企業と協働した実践的な授業科目による学生のキャリア教育の強化
- （3）**「Mirai リサーチ」及び「Mirai サロン」による教育プログラムの充実と新規事業化支援**
 - ・参加大学と地域自治体・団体の連携による調査・研究と雇用創出
- （4）**「やまなし合同J I BUN説明会」などによる学生と企業のマッチングの強化**
 - ・大学と団体及び企業による学生と企業のマッチング事業の強化

男女共同参画推進室

1. 趣旨・目的

男女共同参画推進室は、本学が展開する男女共同参画の活動を中心となって進めています。男女問わず、優れた人材を育成し社会に送り出し続けるため、本学に集うすべての人が、その個性と能力を十分に発揮できる大学を創ることを目的としています。

2. 推進室の役割

本学に在籍するすべての人にとって、修学や就業と充実した生活の両立ができる環境を整備し、個人の個性や能力を十分に発揮できる機会の確保や、講演会やセミナー等を通じた意識啓発を行います。また、将来を担う研究者の育成に積極的に貢献するとともに、志願者の裾野を広げる活動に取り組んでいます。

3. 取組内容

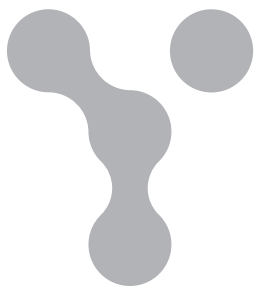
本学が実施する「男女共同参画の加速のための山梨大学学長行動宣言」に掲げられた3つの基本方針および7つの行動計画を実施するため、以下のような取組を中心に活動しています。

- ライフイベント中の教職員や学生に対する育児や介護情報の提供と相談対応。
- ライフイベント中の研究者に対する、学生サポーター（キャリアアシスタント）による研究補助の実施。
- 男女共同参画に関する講演会やセミナーを通じた意識啓発や学生・教職員のスキルアップ。
- 男女共同参画やワーク・ライフ・バランス等に関する科目を通じた、将来のキャリアや生活の在り方を考える機会の提供。また、女子中高生に対する、理工系の研究体験を提供するイベントの実施。
- 男女共同参画に関する調査の実施。
- 男女共同参画の更なる展開のための、他大学、行政機関、企業等との連携。
- 山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞に関わる業務。

【男女共同参画推進室ホームページ】 <http://www.coonchanayamanashi.ac.jp/>

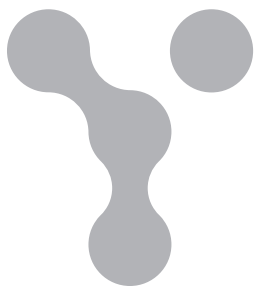
【男女共同参画の加速のための山梨大学学長行動宣言】 <https://www.yamanashi.ac.jp/about/133>

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 5 horizontal dotted lines.

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 5 horizontal dotted lines.



教員名簿

- ◎教育学部
- ◎医学部
- ◎工学部
- ◎生命環境学部
- ◎学内共同教育研究施設等



教 員 名 簿 目次

教 員 名 簿

教育学部・教育学研究科（教職大学院）	119
医 学 部	122
工 学 部	125
生命環境学部	129
学内共同教育研究施設	130
教育国際化推進機構・保健管理センター・学生サポートセンター	132
カウンセリング・サポート室・アクセシビリティ・コミュニケーション支援室 男女共同参画推進室	

教員名簿

教育学部

所 属	系	職 名	氏 名	内線番号	大学院教育学研究科 所属専攻・コース
学部長（研究科長）		教 授	中 村 和 彦	8100	
幼小発達教育コース	発達教育	教 授	平 井 貴美代	8248	教育支援科学専攻
		教 授	尾 見 康 博	8242	
		教 授	若 本 純 子	8244	
		准教授	高 橋 英 児	8245	
		准教授	田 中 健史朗	8241	
		准教授	小野田 亮 介	8243	
		准教授	岩 井 哲 雄	8249	
	幼児教育	教 授	秋 山 麻 実	8268	
		准教授	塚 越 奈 美	8267	
		准教授	大 野 歩	8266	
障害児教育コース		教 授	廣 瀬 信 雄	8237	教科教育専攻 言語文化コース
		教 授	鳥 海 順 子	8233	
		教 授	小 畑 文 也	8239	
		教 授	古 屋 義 博	8236	
		准教授	吉 井 勘 人	8232	
		准教授	松 下 浩 之	8238	
言語教育コース	国語教育	教 授	宮 澤 正 明	8273	教科教育専攻 言語文化コース
		教 授	池 田 尚 隆	8175	
		教 授	長谷川 千 秋	8173	
		准教授	町 田 茂	8116	
		准教授	大 木 志 門	8178	
		准教授	齋 藤 知 也	8179	
	英語教育	准教授	伊 崎 孝 幸	8174	
		教 授	田 中 武 夫	8128	
		教 授	澤 田 知香子	8119	
		准教授	奥 村 直 史	8155	
生活社会教育コース	社会科教育	准教授	松 岡 幹 就	8121	教科教育専攻 社会文化コース
		教 授	佐 藤 一 郎	8154	
		教 授	尾 藤 章 雄	8150	
		教 授	大 隅 清 陽	8148	
		教 授	皆 川 卓	8166	
		教 授	鈴 木 健 之	8215	
		准教授	森 元 拓	8159	
		准教授	宇 多 賢次郎	8169	
		准教授	後 藤 賢次郎	8259	

所 属	系	職 名	氏 名	内線番号	大学院教育学研究科 所属専攻・コース
生活社会教育コース	家政教育	教 授	時 友 裕紀子	8221	教科教育専攻 社会文化コース
		教 授	田 中 勝	8226	
		教 授	志 村 結 美	8323	
		准教授	神 山 久 美	8184	
		准教授	岡 松 恵	8224	
		准教授	川 島 亜紀子	8227	
科学教育コース	数学教育	教 授	武 藤 秀 夫	8145	教科教育専攻 科学文化コース
		教 授	成 瀬 弘	8135	
		准教授	中 村 宗 敬	8136	
		准教授	厚 芝 幸 子	8143	
		准教授	小 池 健 二	8138	
		准教授	清 水 宏 幸	8164	
	理科教育	教 授	松 森 靖 夫	8230	
		教 授	宮 崎 淳 一	8149	
		教 授	福 地 龍 郎	8219	
		教 授	山 下 和 之	8160	
		准教授	石 垣 武 久	8216	
		准教授	長 島 礼 人	8180	
		准教授	芹 澤 如比古	8212	
		准教授	佐 藤 寛 之	8231	
		准教授	森 長 久 豊	8196	
		准教授	佃 俊 明	8235	
		助 教	佐々木 智 謙	8262	
	技術教育	教 授	上 里 正 男	8228	
		教 授	佐 藤 博	8258	
		准教授	小 川 覚 美	8261	
		准教授	山 際 基	8223	
		准教授	林 丈 晴	8161	
芸術身体教育コース	音楽教育	教 授	藤 原 嘉 文	8334	教科教育専攻 芸術文化コース
		教 授	ジェラルド・グロマー	8335	
		教 授	片 野 耕 喜	8251	
		教 授	大 内 邦 靖	8253	
		准教授	小 島 千 か	8336	
		准教授	池 山 洋 子	8252	
	美術教育	教 授	菅 沼 研 一	8254	
		教 授	村 松 俊 夫	8275	
		教 授	栗 田 真 司	8257	
		教 授	井 坂 健一郎	8256	
		准教授	平 野 千枝子	8327	
		准教授	新 野 貴 則	8333	
		准教授	武 末 裕 子	8255	
	保健体育	教 授	中 村 和 彦	8205	教科教育専攻 身体文化コース
		教 授	小 山 勝 弘	8202	
		教 授	木 島 章 文	8198	
		准教授	木 村 はるみ	8206	
		准教授	加 藤 朋 之	8203	
		准教授	安 藤 大 輔	8208	
		准教授	金 澤 翔 一	8199	

所 属	系	職 名	氏 名	内線番号	大学院教育学研究科 所属専攻・コース
教育実践総合センター		准教授	成 田 雅 博	8099	教育支援科学専攻
		准教授	川 本 静 香	8315	

教育学研究科

所 属	職 名	氏 名	内線番号
研 究 科 長	教 授	中 村 和 彦	8100
教育実践創成専攻 (教職大学院)	教 授	服 部 一 秀	8274
	教 授	古 家 貴 雄	8127
	教 授	梶 原 郁 郎	
	教 授	早 川 健	8118
	教 授	山 本 英 寿	8112
	准教授	猪 股 真 弥	8317
	准教授	鴨 川 明 子	8247
	准教授	東海林 麗 香	8229
	准教授	茅 野 政 徳	8176

医 学 部

所 属	職 名	氏 名	内線番号
学部長	教 授	中 尾 篤 人	2005
病院長	理 事	武 田 正 之	2005
医学科長	教 授	松 田 兼 一	3311
看護学科長	教 授	田 辺 文 憲	2718

医学部（附属病院）

所 属	職 名	氏 名	内線番号
解剖学講座 構造生物学教室	教 授	小 田 賢 幸	2230
解剖学講座 細胞生物学教室	教 授	竹 田 扇	2237
	准教授	成 田 啓 之	2237
生理学講座 統合生理学教室	教 授	宇 賀 貴 紀	2242
	講 師	三 枝 岳 志	2242
生理学講座 神経生理学教室	教 授	喜多村 和 郎	2247
生化学講座第1教室	教 授	大 塚 稔 久	2253
	講 師	萩 原 明	2251
生化学講座第2教室	教 授	宮 澤 恵 二	2255
薬理学講座	教 授	小 泉 修 一	2260
	講 師	篠 崎 陽 一	2260
分子病理学講座	教 授	範 江 林	2267
微生物学講座	教 授	森 石 恆 司	2275
免疫学講座	教 授	中 尾 篤 人	2282
	准教授	中 村 勇 規	2282
法医学講座	教 授	安 達 登	2292
	准教授	猩 々 英 紀	2292
社会医学講座	教 授	山 縣 然太朗	2300
	准教授	横 道 洋 司	2300
	准教授	三 宅 邦 夫	2297
先端応用医学講座	特任教授	岩 崎 甫	2399
	准教授	姚 建	2439
内科学講座第1教室 （消化器内科）	教 授	榎 本 信 幸	2308
	准教授	佐 藤 公	2308
	講 師	前 川 伸 哉	2308
	講 師	井 上 泰 輔	2308
	特任講師	深 澤 光 晴	2308
	特任講師	山 口 達 也	2308
	特任講師	高 野 伸 一	2308
内科学講座第2教室 （循環内科，呼吸器内科）	教 授	久木山 清 貴	2310
	准教授	石 原 裕	2310
	講 師	尾 畑 純 栄	2310
	講 師	川 端 健 一	2310
内科学講座第3教室 （糖尿・内分泌内科，腎臓内科）	教 授	北 村 健一郎	2318
	准教授	古 屋 文 彦	2318
	講 師	土 屋 恭一郎	2318
神経内科学講座（神経内科）	教 授	瀧 山 嘉 久	3421
	准教授	新 藤 和 雅	3421
血液・腫瘍内科学講座（血液腫瘍内科）	教 授	桐 戸 敬 太	2415
	講 師	三 森 徹	2415
小児科学講座 （小児科）	准教授	犬 飼 岳 史	2322
	講 師	金 村 英 秋	2322
	講 師	合 井 久美子	2322

所 属	職 名	氏 名	内線番号
精神神経医学・臨床倫理学講座 (精神科)	教 授	鈴 木 健 文	2328
	准教授	布 村 明 彦	2328
	講 師	石 黒 浩 毅	2328
	講 師	玉 置 寿 男	2328
皮膚科学講座 (皮膚科)	教 授	川 村 龍 吉	2332
	講 師	三 井 広	2332
	講 師	猪 爪 隆 史	2332
外科学講座第1教室 (消化器, 乳腺・内分泌外科)	教 授	市 川 大 輔	2335
	准教授	河 野 寛	2335
	講 師	井 上 慎 吾	2335
外科学講座第2教室 (心臓血管・呼吸器外科, 小児外科)	教 授	中 島 博 之	2343
	准教授	松 原 寛 知	2343
整形外科科学講座 (整形外科)	教 授	波 呂 浩 孝	2348
	准教授	江 幡 重 人	2348
	講 師	安 藤 隆	2348
	講 師	市 川 二 郎	2348
脳神経外科学講座 (脳神経外科)	教 授	木 内 博 之	2353
	准教授	川 滝 智 之	2353
	講 師	金 丸 和 也	2353
	講 師	荻 原 雅 和	2353
麻酔科学講座 (麻酔科)	教 授	松 川 隆	2359
	准教授	小 口 健 史	2359
	講 師	飯 嶋 哲 也	2359
産婦人科学講座 (産婦人科) (地域周産期等医療学)	教 授	平 田 修 司	2362
	准教授	笠 井 剛	2362
	講 師	奈 良 政 敏	2362
	講 師	大 森 真紀子	2362
	特任准教授	奥 田 靖 彦	2362
泌尿器科学講座 (泌尿器科)	准教授	三 井 貴 彦	2367
	講 師	神家満 学	2367
	講 師	澤 田 智 史	2367
眼科学講座 (眼科)	教 授	飯 島 裕 幸	2372
	准教授	柏 木 賢 治	2373
	講 師	大 城 智 洋	2373
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 (頭頸部・耳鼻咽喉科)	教 授	増 山 敬 祐	2377
	准教授	上 條 篤	2377
	講 師	松 岡 伴 和	2377
放射線医学講座 (放射線治療科・放射線診断科)	教 授	大 西 洋	2382
	准教授	本 杉 宇太郎	2382
歯科口腔外科学講座(歯科口腔外科)	教 授	上 木 耕一郎	2385
	講 師	吉 澤 邦 夫	2387
救急集中治療医学講座	教 授	松 田 兼 一	3311
臨床検査医学講座	教 授	井 上 克 枝	2578
人体病理学講座	准教授	近 藤 哲 夫	2271
地域医療学講座	教 授	佐 藤 弥	2190

所 属	職 名	氏 名	内線番号
成育看護学講座	教 授	小 林 康 江	2737
	教 授	石 川 眞里子	2709
	教 授	中 込 さと子	2703
	講 師	安 藤 晴 美	2725
基礎・臨床看護学講座	教 授	田 辺 文 憲	2718
	教 授	浅 川 和 美	2717
	准教授	坂 本 文 子	2708
	准教授	石 井 くみ子	2716
	講 師	山 田 章 子	2712
	講 師	長 崎 ひとみ	2704
健康・生活支援看護学講座	教 授	宮 村 季 浩	2728
	教 授	相 原 正 男	2707
	教 授	水 野 恵理子	2710
	准教授	神 崎 由 紀	2712
	准教授	谷 口 珠 美	2712
	講 師	菅 沼 真由美	2712
医学教育センター	教 授	中 本 和 典	2765
	教 授	秋 山 眞 治	2206
	教 授	齋 藤 正 夫	2210
	教 授	川 原 敦 雄	2214
	特任教授	鈴 木 章 司	2218
	准教授	加 藤 伊陽子	2442
	特任准教授	西 郷 達 彦	2207

医学部附属病院

所 属	職 名	氏 名	内線番号
形成外科	特任准教授	百 澤 明	2607
手術部	准教授	石 山 忠 彦	3119
放射線部	准教授	荒 木 拓 次	3130
輸血細胞治療部	講 師	高 野 勝 弘	3173
集中治療部	講 師	森 口 武 史	3311
新生児集中治療部	准教授	中 根 貴 弥	2322
	講 師	小 泉 敬 一	2322
病理部	准教授	中 澤 匡 男	3433
臨床研究連携推進部	特任准教授	小 河 祥 子	2399
病院経営管理部			
総合診療部	特任准教授	針 井 則 一	3517
医療の質・安全管理部			
感染制御部	特任准教授	井 上 修	2578
薬剤部	特任教授	鈴 木 正 彦	3195
	教 授	小 口 敏 夫	3195
医療福祉支援センター	准教授	端 晶 彦	2362
肝疾患センター	特任准教授	坂 本 穰	2308
	特任講師	中 山 康 弘	2308
臨床教育センター	特任准教授	板 倉 淳	2335

出生コホート研究センター

所 属	職 名	氏 名	内線番号
出生コホート研究センター	特任准教授	大 西 一 成	2300

工 学 部

学 科 名	職 名	氏 名	内線番号	大学院医工農学総合教育部 修士課程・所属（専攻等）
学 部 長	教 授	熊 田 伸 弘	8400	クリスタル科学研究センター
機械工学科	教 授	藤 森 篤	8195	機 械 工 学 コ ー ス
	教 授	武 田 哲 明	8415	
	教 授	中 山 栄 浩	8424	
	教 授	岡 澤 重 信	8441	
	准教授	角 田 博 之	8437	
	准教授	伊 藤 安 海	8673	
	准教授	野 田 善 之	8440	
	准教授	山 本 義 暢	8435	
	准教授	鳥 山 孝 司	8471	
	准教授	青 柳 潤一郎	8574	
	准教授	舩 谷 俊 平	8434	
	准教授	鍵 山 善 之	8575	
	助 教	深 澤 薫	8436	
	助 教	大 原 伸 介	8432	
	助 教	浮 田 芳 昭	8674	
	助 教	杉 山 裕 文	8457	
	助 教	山 田 隆 一		
	助 手	中 村 正 信	8439	
電 気 電 子 工 学 科	教 授	豊 木 博 泰	8192	電 気 電 子 工 学 コ ー ス
	教 授	大 木 真	8465	
	教 授	内 山 智香子	8578	
	教 授	矢 野 浩 司	8474	
	教 授	垣 尾 省 司	8514	
	教 授	埴 雅 典	8683	
	教 授	鍋 谷 暢 一	8458	
	准教授	白 木 一 郎	8463	
	准教授	村 中 司	8476	
	准教授	小野島 紀 夫	8503	
	准教授	本 間 聡	8412	
	准教授	佐 藤 隆 英	8504	
	准教授	二 宮 啓	8073	
	准教授	チェン リー チュイン	8072	
	准教授	關 谷 尚 人	8393	
	准教授	宇 野 和 行	8508	
	助 教	中 村 一 彦	8462	
	助 教	山 本 真 幸	8650	
	助 教	兼 本 大 輔	8686	
	助 教	橋 本 一 成	8620	
	助 教	小 玉 崇 宏	8668	
	助 教	鈴 木 雅 視	7759	
コンピュータ理工学科	教 授	大 淵 竜太郎	8570	コ ン プ ュ ー タ 理 工 学 コ ー ス
	教 授	岩 沼 宏 治	8480	
	教 授	福 本 文 代	8509	
	教 授	茅 暁 陽	8652	
	教 授	小 澤 賢 司	8586	
	教 授	郷 健太郎	8632	
	教 授	美 濃 英 俊	8489	
	教 授	高 橋 正 和	8585	

学 科 名	職 名	氏 名	内線番号	大学院医工農学総合教育部 修士課程・所属（専攻等）
コンピュータ理工学科	准教授	安 藤 英 俊	8363	コンピュータ理工学コース
	准教授	渡 辺 喜 道	8651	
	准教授	鈴 木 智 博	8492	
	准教授	服 部 元 信	8766	
	准教授	鍋 島 英 知	8767	
	准教授	小 俣 昌 樹	8510	
	准教授	木 下 雄一朗	8516	
	准教授	豊 浦 正 広	8494	
	准教授	森 勢 将 雅	8177	
	助 教	吉 川 雅 修	8491	
	助 教	山 本 泰 生	8569	
	助 教	古 屋 貴 彦	8485	
	助 教	李 屹	8495	
情報メカトロニクス 工学科	教 授	古 屋 信 幸	8423	メカトロニクス工学コース
	教 授	宗 久 知 男	8584	
	教 授	小 谷 信 司	8469	
	教 授	森 澤 正 之	8665	
	教 授	寺 田 英 嗣	8452	
	教 授	鈴 木 良 弥	8484	
	教 授	石 井 孝 明	8419	
	准教授	岡 村 美 好	8520	
	准教授	平 晋一郎	8417	
	准教授	北 村 敏 也	8455	
	准教授	丹 沢 勉	8490	
	准教授	清 水 毅	8445	
	准教授	金 蓮 花	8448	
	准教授	石 田 和 義	8442	
	准教授	西 崎 博 光	8361	
	助 教	堀 井 宏 祐	8564	
	助 教	牧 野 浩 二	8451	
	助 教	渡 邊 寛 望	8502	
	助 教	鈴 木 裕	8684	
	助 教	北 野 雄 大	8483	
土木環境工学科	教 授	鈴 木 猛 康	8531	土 木 環 境 工 学 コ ー ス
	教 授	末 次 忠 司	8522	
	教 授	佐々木 邦 明	8671	
	教 授	金 子 栄 廣	8601	
	教 授	齊 藤 成 彦	8529	
	准教授	後 藤 聡	8526	
	准教授	石 井 信 行	8597	
	准教授	武 藤 慎 一	8599	
	准教授	秦 康 範	8533	
	准教授	吉 田 純 司	8521	
	准教授	森 一 博	8594	
	助 教	宮 沢 直 季	8523	
	助 教	荒 木 功 平	8528	
	助 教	宮 本 崇	8524	
	助 教	八重樫 咲 子	8596	
	助 教	竹 谷 晃 一	8519	
	助 教	佐 藤 賢之介		

学 科 名	職 名	氏 名	内線番号	大学院医工農学総合教育部 修士課程・所属（専攻等）
応 用 化 学 科	教 授	原 本 雄一郎	8550	応 用 化 学 コ ー ス
	教 授	鈴 木 章 泰	8556	
	教 授	柴 田 正 実	8561	
	教 授	和 田 智 志	8555	
	教 授	奥 崎 秀 典	8554	
	教 授	柳 博	8559	
	准教授	谷 和 江	8626	
	准教授	阪 根 英 人	8551	
	准教授	桑 原 哲 夫	8548	
	准教授	米 山 直 樹	8568	
	准教授	小 幡 誠	8549	
	准教授	宮 嶋 尚 哉	8571	
	准教授	上 野 慎太郎	8545	
	助 教	植 田 郁 生	8552	
	助 教	高 橋 正 樹	8576	
	助 教	矢 崎 晃 平	8144	
	助 教	藤 井 一 郎	8557	
先端材料理工学科	教 授	小 林 潔	8580	先 端 材 料 理 工 学 コ ー ス
	教 授	堀 裕 和	8676	
	教 授	張 本 鉄 雄	8360	
	教 授	近 藤 英 一	8472	
	准教授	加 藤 初 弘	8692	
	准教授	佐 藤 哲 也	8627	
	准教授	小 川 和 也	8511	
	准教授	居 島 薫	8433	
	准教授	石 川 陽	8349	
	准教授	酒 井 優	8347	
	助 教	内 山 和 治	8680	
	助 教	則 竹 史 哉	8362	

基礎教育センター

職 名	氏 名	内線番号
教 授	小 林 正 樹	8488
教 授	小須田 雅	
助 教	坂 野 齋	8687
助 教	山 浦 浩 太	8444
助 手	宮 原 大 樹	8447
助 手	守 谷 まゆみ	8612

クリスタル科学研究センター

職 名	氏 名	内線番号
教 授	田 中 功	8625
教 授	熊 田 伸 弘	8615
教 授	武 井 貴 弘	8616
准教授	綿 打 敏 司	8656
准教授	有 元 圭 介	8609
准教授	米 崎 功 記	8617
准教授	東海林 篤	8348
助 教	長 尾 雅 則	8610
助 教	原 康 祐	8614
助 教	柳 田 さやか	8723
助 教	丸 山 祐 樹	8506

国際流域環境研究センター

職 名	氏 名	内線番号
教 授	舩 谷 敬 一	8147
准教授	相 馬 一 義	8345
准教授	遠 山 忠	8346
准教授	原 本 英 司	8725
助 教	中 村 高 志	8727

ものづくり教育実践センター

職 名	氏 名	内線番号
准教授	孕 石 泰 丈	8446

生命環境学部

学 科 名	職 名	氏 名	内線番号
学 部 長	教 授	黒 澤 尋	8800
生 命 工 学 科	教 授	黒 澤 尋	8535
	教 授	幸 田 尚	
	教 授	若 山 照 彦	8826
	教 授	岸 上 哲 士	8705
	准教授	大 槻 隆 司	8646
	准教授	新 森 英 之	8566
	准教授	大 山 拓 次	8828
	准教授	野 田 悟 子	8539
	准教授	山 村 英 樹	8546
	助 教	小久保 晋	8507
	助 教	中 川 洋 史	8544
	助 教	大 貫 喜 嗣	8538
	助 教	志 浦 寛 相	
	助 教	川 上 隆 史	8278
	助 教	大 我 政 敏	8826
地 域 食 物 科 学 科	教 授	谷 本 守 正	8820
	教 授	舟 根 和 美	8468
	教 授	柳 田 藤 寿	8605
	教 授	村 松 昇	8823
	教 授	奥 田 徹	8608
	教 授	鈴 木 俊 二	8394
	教 授	望 月 和 樹	8829
	准教授	山 下 裕 之	055-241-6384
	准教授	岸 本 宗 和	8606
	准教授	三 木 健 夫	8659
	准教授	久 本 雅 嗣	8658
	准教授	矢 野 美 紀	8830
	助 教	乙 黒 美 彩	8831
	助 教	山 下 さやか	8832
	助 教	斉 藤 史 恵	8824
環 境 科 学 科	教 授	坂 本 康	8591
	教 授	御園生 拓	8213
	教 授	竹 内 智	8579
	教 授	風 間 ふたば	8193
	教 授	西 田 継	8593
	准教授	鈴 木 保 任	8839
	准教授	松 本 潔	8172
	准教授	石 平 博	8602
	准教授	小 林 拓	8341
	准教授	田 中 靖 浩	8833
	准教授	岩 田 智 也	8339
	准教授	島 弘 幸	8834
	助 教	馬 籠 純	8728
	助 教	片 岡 良 太	8835
	助 教	シュレスタ サダナ	8669
	助 教	黄 瀬 佳 之	8771

学 科 名	職 名	氏 名	内線番号
地 域 社 会 シ ス テ ム 学 科	教 授	西久保 浩 二	8151
	教 授	渡 邊 靖 仁	8836
	教 授	大 山 勲	8598
	教 授	渡 邊 幹 彦	8837
	教 授	田 中 敦	8167
	教 授	稲 田 和 也	8840
	准教授	高 橋 智 子	8396
	准教授	伊 藤 一 帆	8512
	准教授	金 基 成	8343
	准教授	喜多川 進	8337
	准教授	門 野 圭 司	8342
	准教授	島 崎 洋 一	8340
	准教授	藤 原 真 史	8190
	准教授	竹之内 玲 子	8825
	准教授	石 塚 迅	8153
	准教授	平 井 寛	8395
	准教授	小 松 志 朗	8171
	准教授	菊 地 淑 人	8691
	助 教	宮 川 雅 至	8338
	助 教	若 生 直 志	

学内共同教育研究施設

クリーンエネルギー研究センター

内線番号

センター長（専任）	教 授	内 田 裕 之	8619
専 任 教 員	教 授	宮 武 健 治	8707
専 任 教 員	教 授	入 江 寛	8092
専 任 教 員	教 授	犬 飼 潤 治	8185
(特任)専任教員	教 授	マヌエル プリト	8328
(特任)専任教員	教 授	窪 田 洋 二	8860
専 任 教 員	准教授	野 原 慎 士	8287
専 任 教 員	准教授	高 嶋 敏 宏	8094
専 任 教 員	助 教	三 宅 純 平	8356

機器分析センター

センター長（兼任）	教 授	柴 田 正 実	8561
専 任 教 員	准教授	山 中 淳 二	8647

総合分析実験センター

センター長（兼任）	教 授	森 石 恆 司	2275
専 任 教 員	准教授	神 沼 修	2171
専 任 教 員	准教授	北 間 敏 弘	2611
専 任 教 員	助 教	伊 藤 禎 洋	2162
専 任 教 員	助 教	杉 浦 篤 志	2614
(特任)専任教員	助 教	瀬 川 高 弘	2614
(特任)専任教員	助 教	長 友 啓 明	2161

キャリアセンター

センター長（兼任）	教 授	村 松 俊 夫	8275
（特任）専任教員	教 授	原 瑞 穂	8318

燃料電池ナノ材料研究センター

センター長〈専任〉	教 授	飯 山 明 裕	1414
部 門 長（専任）	教 授	小 俣 富 男	1409
部 門 長（専任）	教 授	東 山 和 寿	1408
部 門 長（専任）	教 授	内 田 誠	1407
専 任 教 員	教 授	ドナルド トリック	1420
専 任 教 員	教 授	宮 尾 敏 広	1426
専 任 教 員	教 授	柿 沼 克 良	1430
専 任 教 員	准教授	矢 野 啓	8397
非常勤 教 員	客員教授	出 来 成 人	1402
非常勤 教 員	客員教授	大 仲 英 巳	1402
非常勤 教 員	客員教授	橋 本 登	1402
非常勤 教 員	客員教授	田 島 収	1402
非常勤 教 員	客員教授	山 下 壽 生	1402
非常勤 教 員	客員教授	丹 下 昭 二	1402
非常勤 教 員	客員教授	上 野 武 夫	1418
非常勤 教 員	客員教授	西 出 宏 之	1402
非常勤 教 員	客員教授	Hasuck Kim	1402
非常勤 教 員	客員教授	永 田 裕 二	1410
非常勤 教 員	客員教授	脇 坂 暢	1402
専 任 教 員	助 教	西 野 華 子	8397
専 任 教 員	助 教	須 田 耕 平	7791
専 任 職 員	研究員	松 本 彬 伸	1432
専 任 職 員	研究員	岩 瀧 敏 男	1432
専 任 職 員	研究員	田 本 加代子	1432
専 任 職 員	研究員	川 本 鉄 平	7897

大学教育センター

センター長（兼任）	教 授	埴 雅 典	8683
専 任 教 員	教 授	日 永 龍 彦	8279
専 任 教 員	准教授	豊 浦 正 広	8494

教養教育センター

センター長（兼任）	教 授	時 友 裕紀子	8221
（特任）専任教員	教 授	宮 永 義 夫	8117
専 任 教 員	准教授	仲 本 康一郎	8272
専 任 教 員	准教授	渡 邊 暁	8750
外国語特任教員	准教授	グレアム・フィリップ	8276
外国語特任教員	准教授	パンディ・アルupp	8331
外国語特任教員	准教授	リード・ゴードン	8277

国際交流センター

センター長（兼任）	教 授	茅 暁 陽	8652
専 任 教 員	教 授	奥 村 圭 子	8152
専 任 教 員	教 授	宮 本 和 子	2711
専 任 教 員	准教授	伊 藤 孝 恵	8753
専 任 教 員	准教授	江 崎 哲 也	8752

地域未来創造センター

センター長（専任）	教 授	北 村 眞 一	8453
COC部門長（兼任）	教 授	郷 健 太 郎	8129
(特任) 専 任 教 員	准教授	小 澤 理	8129
COC+部門長（兼任）	教 授	坂 本 康	8450
非常勤 教 員	特任教授	佐 藤 文 昭	8449
非常勤 教 員	特任教授	澤 伸 恭	8449
非常勤 教 員	特任准教授	杉 山 歩	8449
(特任) 専 任 教 員	助 教	佐 野 靖 彦	8450

アドミッションセンター

センター長（兼任）	教 授	日 永 龍 彦	8279
(特任) 専任教員	准教授	藤 修	8265
(特任) 専任教員	助 教	鈴 木 律 子	8265

教育国際化推進機構/保健管理センター/学生サポートセンター
カウンセリング・サポート室/アクセシビリティ・コミュニケーション支援室
男女共同参画推進室

教育国際化推進機構

内線番号

機構長（兼任）	理事（教学担当）	堀 哲 夫	8021
---------	----------	-------	------

保健管理センター

センター長（兼任）	理事（医療担当）	武 田 正 之	8081
副センター長（兼任）	理事（教学担当）	堀 哲 夫	8021
副センター長（兼任）	理事（労務担当）	袖 山 禎 之	8001
専 任 教 員	教 授	高 山 一 郎	8124
専 任 教 員	准教授	篠 原 学	8083

学生サポートセンター

センター長（兼任）	教 授	時 友 裕 紀 子	8221
-----------	-----	-----------	------

カウンセリング・サポート室

室 長（兼任）	教 授	時 友 裕 紀 子	8221
専 任 教 員	講 師	伊 藤 美 佳	8024

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室

室 長（兼任）	教 授	小 畑 文 也	8239
(特任) 専 任 教 員	助 教	森 屋 直 樹	8706

男女共同参画推進室

室 長（兼任）	教 授	風 間 ふたば	8193
(特任) 専任教員	助 教	柏 木 史 緒	8350



学生生活案内
平成30年度(2018)



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。